



NPO法人
近畿バイオインダストリー振興会議

発行:2025年(令和7年)12月
編集・発行:NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議
〒541-0048 大阪市中央区瓦町4-8-4 井門瓦町第2ビル 3F Tel.06-4963-2107 Fax.06-4963-2127

Index

| | |
|--|-------|
| ■ 発刊にあたって | 1 |
| ■ 近畿バイオインダストリー振興会議の設立 | 2 |
| ■ トピックス | 3 |
| ■ 1990～1999年トピックス | 4 |
| ■ 2000～2004年トピックス | 5 |
| ■ 2004～2007年トピックス | 6 |
| ■ 2009～2011年トピックス | 7 |
| ■ 2012～2015年トピックス | 8 |
| ■ 2016～2019年トピックス | 9 |
| ■ 2020～2022年トピックス | 10 |
| ■ 2022～2025年トピックス | 11 |
| ■ 理事会・総会・記念講演会 | 12-21 |
| ■ 現在の事業別活動の経緯と成果 | 22-23 |
| ■ バイオコミュニティ関西 | 24-25 |
| ■ 関西バイオビジネスマッチング | 25 |
| ■ 大阪府受託事業：ライフサイエンス事業化推進事業 | 25 |
| ■ BioJapan共同出展 | 26-29 |
| ■ バイオベンチャーデータベース | 30-31 |
| ■ 生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会 | 32-33 |
| ■ 毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム | 34-36 |
| ■ バイオの次世代を考える会 | 37 |
| ■ 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー | 38 |
| ■ 会場参加型トークセミナー | 39 |
| ■ 新春国際交流会 | 40 |
| ■ 活動報告会 | 41 |
| ■ これまでの事業別活動の経緯と成果 | 42 |
| ■ 近畿経済産業局の施策との連携 | 43 |
| ■ 組織工学・再生医学ワークショップ | 44 |
| ■ 遺伝子治療シンポジウム | 45 |
| ■ コンビナトリアル・バイオエンジニアリング会議 | 46-47 |
| ■ 関西バイオの未来を考える会 | 48 |
| ■ 関西バイオビジネス研究会 | 49 |
| ■ バイオ技術シーズ公開会 | 50-51 |
| ■ 再生医療技術を活用した動物実験代替法検討会 | 52-53 |
| ■ 関西スマートセルフォーラム | 54-57 |
| ■ 先端的に中堅・中小企業、ベンチャー企業の可能性を広げる、いろいろな取組み (日本バイオベンチャー大賞、全国バイオネットワーク形成事業) | 58-59 |
| ■ 海外との交流(Local to Local、カナダ、オランダ、日韓バイオマス) | 60-61 |
| ■ 近畿バイオ・バイオマス研究会 | 62 |
| ■ 公的資金獲得 | 63 |
| ■ 年表 | 64 |
| ■ 近畿バイオの現体制図と事業 | |
| ■ 役員変遷 | |
| ■ 会員リスト | |

発刊にあたって



坂田 恒昭

このたび、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議は設立より40年の節目を迎える運びとなりました。ひとえに会員の皆様、関係機関・団体のご支援・ご協力、そして地域・行政・産学界の皆様の温かいご理解とご尽力の賜物であり、心から深く感謝申し上げます。

振り返れば、当団体の前身である近畿バイオインダストリー振興会議が発足した当初、バイオ技術はまだ芽吹きの段階でした。創設の理念は、関西・近畿地域におけるバイオインダストリーの橋渡し的プラットフォームを構築し、産・学・官が連携して技術を社会実装していくことでした。当初は限られた事業とネットワークでの活動でしたが、多くの皆様の英知と情熱により、次第に事業領域が拡充され、活動基盤も厚くなってまいりました。

この40年間、当団体が果たしてきた役割を思い返すと、大学の産学連携組織が整備されていなかった時代からの産学マッチング・バイオベンチャーの創生・育成・国際交流支援・会員相互の知見共有といった活動が脈々と積み重なってきたことを痛感します。とりわけ近年では、グローバルな潮流対応、生命医療や環境分野、再生可能資源利用などのテーマへ応えるべく、バイオエコノミーの視座で地域内外をつなぐ拠点としての位置づけを強めています。さらに、2021年からは内閣府バイオ戦略(現バイオエコノミー戦略)に基づき組成されたグローバルバイオコミュニティであるバイオコミュニティ関西(BioCK)の事務局の一翼を担うことにより、地域内だけではなく、地域とグローバルをつなぐ架け橋としての役割を果たしつつあります。

さて、40周年を迎える今、これまでの歩みを総覧するとともに、未来への指針を示すものにしていきたいと思っております。本誌を通じて、過去の挑戦と成果、さまざまな試行錯誤の記録が読み取られ、かつ未来志向の展望が共有されることを願っております。そして未来に向かって、若手研究者・起業家・行政担当者・会員の皆様にとって、次なるステップを後押しする手がかりとなれば幸いです。

これから10年、20年を見据えるにあたり、私は以下の方向性を重視したいと考えております。

バイオエコノミー視点の深化

地球規模の社会課題(環境、食糧問題、資源循環、健康長寿など)に貢献できる技術・事業の推進。バイオを軸とした持続可能性と経済発展およびイノベーションを結びつけたロードマップを描いていきたい。

オープンイノベーションと異分野連携の強化

バイオ領域のみならず、DX・AI・データサイエンス・材料工学等、異分野技術との融合を積極的に推進し、新たな価値を創出するプラットフォームとして機能を強化したい。

地域基盤と国際ネットワークの融合

関西地域を基盤に据えつつ、海外バイオクラスターや国際機関との連携をさらに深化させ、技術交流・産業展開の道を拓げることを目指します。

人材育成と次世代支援

バイオの未来を担う若手・学生層、起業志向のある研究者を育てる支援プログラムや研修機会を構築し、持続可能な人材循環を確立したい。

最後になりますが、40年という歴史は決して偶然の積み重ねではありません。そこには多くの方々の挑戦と協力、そして志があります。設立40年を迎えるのを機に、過去の歩みをしっかりと見つめ、未来へ向けたビジョンを共有しながら、さらなる飛躍を目指して邁進してまいりたいと存じます。今後とも、皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

近畿バイオインダストリー振興会議の設立

近畿バイオインダストリー振興会議は1985年3月に大阪大学総長の山村雄一先生を中心、大阪通商産業局長（現・近畿経済産業局長）、大阪科学技術センター会長らが発起人となって設立された。



近畿バイオインダストリー振興会議

1985年(昭和60年)3月6日 設立総会

委員長：山村雄一 大阪大学総長

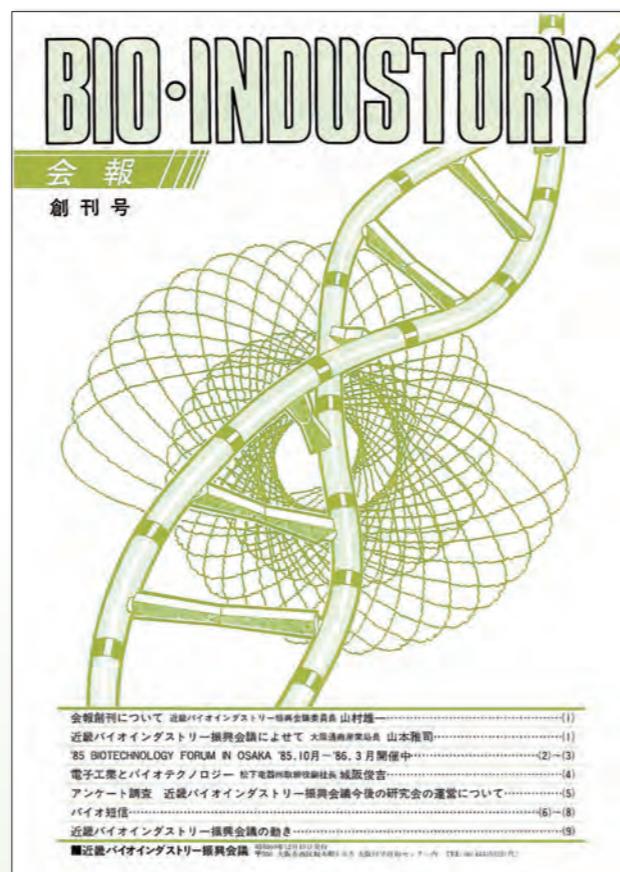
副委員長：伊藤 健 住友化学工業(株)専務取締役
城阪俊吉 大阪科学技術センター副会長
福井三郎 京都大学名誉教授

幹事長：千畳一郎 田辺製薬(株)専務取締役

監事：神田延裕 (株)三和銀行副頭取
成松啓二 関西電力(株)常務取締役

顧問：山本雅司 大阪通商産業局長

目的：産・学・官が一体となった近畿のバイオインダストリーの振興をより効果的に推進するため、新しい応用分野の開拓、技術開発基盤整備など総合的な振興の検討及びその具体策の推進を図る場として設置されたものである。



TOPICS 1990年

第2代委員長に、千畳一郎氏 就任

第5回委員総会：1990年(平成2年)6月21日

特別顧問：福井三郎 京都大学名誉教授

委員長：千畳一郎 田辺製薬(株)代表取締役社長

副委員長：岡田善雄 大阪大学細胞工学センター教授
鳴海欽一 サントリー(株)専務取締役
西澤吉彦 住友化学工業(株)専務取締役

幹事長：山田秀明 京都大学農学部教授
山田康之 京都大学農学部教授

監事：橋本安雄 関西電力(株)常務取締役

顧問：麻生渡 近畿通商産業局長



千畳一郎(ちばた いちろう)
田辺製薬(株)代表取締役社長
1948年京都大学農芸化学生物系卒業。
同年田辺製薬(株)入社。応用生化学研究所
長、研究開発副本部長を経て81年取締役就
任。83年常務取締役、85年専務取締役、87年
代表取締役副社長、89年から現職。1959年
農学博士。



TOPICS 1996年

第3代委員長に、秋吉節氏 就任

第11回委員総会：1996年(平成8年)6月18日

特別顧問：福井三郎 京都大学名誉教授

委員長：秋吉節 塩野義製薬(株)相談役

副委員長：岡田善雄 大阪大学名誉教授
安部川佳司 サントリー(株)顧問
新田恒治 松下電器産業(株)取締役研究本部長
五十川昌孝 鐘淵化学工業(株)常務取締役

幹事長：新名惇彦 奈良先端大教授

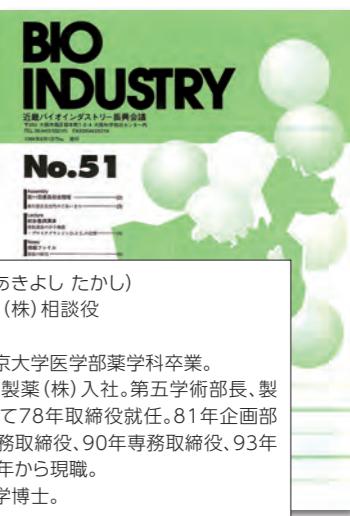
監事：橋本安雄 関西電力(株)常務取締役
清水庸介 三和銀行常務取締役

顧問：岩田満泰 近畿通商産業局長
千畳一郎 田辺製薬(株)代表取締役社長

事務局長：田村格 塩野義製薬(株)



秋吉節(あきよし たかし)
塩野義製薬(株)相談役
1953年東京大学医学部薬学科卒業。
同年塩野義製薬(株)入社。第五学術部長、製
品部長を経て78年取締役就任。81年企画部
長、85年常務取締役、90年専務取締役、93年
副社長、96年から現職。
1987年薬学博士。



TOPICS 1999年

近畿圏バイオ技術整備事業受託



バイオ技術シーズを活かすため、シーズ公開会を開始。

- ① 専属コーディネーターによるシーズ検討
(コーディネータ会議)
- ② シーズ・ニーズのマッチングの場(技術シーズ公開会)
- ③ JAICとの近畿バイオファンド設立

バイオシーズ産業化のための バイオ技術シーズ公開会

開催回数 1999年より39回

発表件数 424シーズ

参加者 3,000名以上

▼

フローラップ勉強会

▼

研究プロジェクトの創生
バイオベンチャーの創立



山村 雄一(やまむら ゆういち)
1918年7月27日～1990年6月10日
臨床免疫学者。大阪府生まれ。

委員長
山村 雄一

山村雄一先生ご永眠

1990年6月10日

岡田善雄先生(大阪大学細胞工学センター教授)の送る言葉の一節に「…先生は『天の時、地の利、人の和』という言葉で、新しい企画を説得される事が多かった。ある意味で『天の時』と『地の利』は偶然的な色合いが濃い、いわゆる『天命』的なものがある。我々が意識的に努力できるのは、この句の最後に位置している『人の和』ということになろう。そのためであったのであろう、先生は「人が総てである」と口癖のようにおっしゃっていた…」

山村 雄一(やまむら ゆういち)
1918年7月27日～1990年6月10日
臨床免疫学者。大阪府生まれ。

大阪大学医学部卒。
1949年大阪大学医学博士。「結核菌の安息香酸代謝に就て」。1956年に国立刀根山病院内科医長、1957年に九州大学医学部生化学教授、1962年に大阪大学医学部教授、1967年に同大学医学部長、1979年から1985年まで大阪大学総長を務めた。
癌の免疫療法であるBCG-CWSを開発。

山村雄一先生ご永眠

1990年6月10日

岡田善雄先生(大阪大学細胞工学センター教授)の送る言葉の一節に「…先生は『天の時、地の利、人の和』という言葉で、新しい企画を説得される事が多かった。ある意味で『天の時』と『地の利』は偶然的な色合いが濃い、いわゆる『天命』的なものがある。我々が意識的に努力できるのは、この句の最後に位置している『人の和』ということになろう。そのためであったのであろう、先生は「人が総てである」と口癖のようにおっしゃっていた…」

TOPICS 2001年

第4代委員長に、清水當尚氏 就任

第16回委員総会:2001年(平成13年)6月8日

委員長:清水當尚 大日本製薬(株)

副委員長:岡田善雄 大阪大学名誉教授
大橋武久 鐘淵化学工業(株)
橋本忠夫 サントリー(株)

幹事長:小林昭雄 大阪大学教授

監事:秋山哲夫 関西電力(株)
野村正朗 大和銀行

事務局長:遠山伸次 塩野義製薬(株)



清水當尚(しみずまさなお)
大日本製薬(株)相談役

1953年京都大学医学部薬学科卒業、同年大日本製薬(株)入社。77年取締役・総合研究所長、80年常務取締役・研究開発所長。85年専務取締役、91年副社長、93年副会長、97年から現職。
1961年薬学博士。

TOPICS 2004-2005年

地域連携フォーラム開催

近畿圏内のベンチャー間交流のみならず、バイオ研究が盛んな地域間交流を推進するために、2004年北海道バイオ産業振興協会(HOBIA)との交流協定を締結、さらに2005年沖縄・南西地域産業活性化センターとの交流を開始して、北海道-近畿-沖縄のバイオベンチャーの連携・交流を目的としてバイオ産業の発展に寄与した。



TOPICS 2002~2003年

近畿産業クラスター計画

「近畿バイオ関連産業プロジェクト」補助事業を受託

2002年7月、当振興会議が中核推進機関として指定を受け、「近畿バイオ関連産業クラスター部会」を発足させ事業を開始。

- ① 近畿圏バイオベンチャー・データマップ、研究者データマップの整備
- ② 技術シーズの収集、产业化可能性の検討(コーディネータ会議)
- ③ 技術シーズ公開会の開催
- ④ フォローアップ勉強会の開催
- ⑤ 各種バイオセミナー(異業種からの参入、先端技術の普及)
- ⑥ 情報提供

近畿バイオのNPO法人化

行政等が実施する各種公募事業(地域コンソーシアム、補助金等)を直接受託するため、法人格が必要。

| | |
|---------------|--|
| 2002年 7月 18日 | NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議設立総会(有志で設立) |
| 2002年 8月 15日 | NPO法人設立認証申請書提出 |
| 2002年 12月 4日 | 大阪府知事より認証 |
| 2002年 12月 11日 | 設立登録完了 |
| 2003年 3月 24日 | 臨時会員総会にて任意団体近畿バイオインダストリー振興会議を解散、すべての財産、権利、義務等をNPO法人近畿バイオインダストリー振興会議に承継することを承認。 |
| 2003年 4月 1日 | NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議として活動開始 |

TOPICS 2006年

「食と運動の機能性に関する研究会」発足

本研究会は、健康な生活を維持するための重要な要素である食と運動の機能性の関係を解明し、第3期科学技術基本計画にも謳われている生涯健康な生活一生涯はつらつ生活を実現するための研究情報を蓄積し、新しい産業を立ち上げることを目的として発足した。

また、臨床医・各専門分野の第一人者と開発者との連携と相互理解により、医師が認め消費者に期待される機能性食品の開発を通じて、高齢化社会における健康の維持、疾病・老化の予防、我が国の食産業の発展に寄与することもめざした。

発起人(順不同)

| | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 吉川敏一 京都府立医科大学内科学教室 教授 | 田中宏暁 福岡大学スポーツ科学部運動生理学 教授 |
| 荒井綜一 東京農業大学応用生物科学部 教授 | 高波嘉一 同志社大学スポーツ医科学研究センター 教授 |
| 大澤俊彦 名古屋大学大学院生命農学研究科 教授 | 鳥井信吾 サントリー株式会社 副社長 |
| 渡辺恭良 大阪市立大学大学院医学研究科 教授 | 高橋里美 株式会社カネカ 常務取締役・研究開発本部長 |
| 鶴淵英樹 大阪市立大学大学院医学研究科 教授 | 山田邦雄 ロート製薬株式会社 社長 |
| 松村靖夫 大阪薬科大学生命薬科学部門 教授 | 安部康久 月桂冠株式会社 専務取締役 |
| 末松誠 慶應義塾大学医学部医化学教室 教授 | 森弘之 不二製油株式会社 常務 |
| 森谷敏夫 京都大学大学院人間・環境学研究科 教授 | 田中隆治 財団法人 サントリー生物有機化学研究所 副理事長 |

TOPICS 2004年

「関西バイオの未来を考える会」発足

近畿バイオは、近畿圏のバイオの振興とともにバイオクラスター形成に向けた各種の活動を展開してきた。その成果の一端として「バイオは関西」と自他共に認められるようになった。今後、この関西のバイオが期待されるような活力を得て、わが国のバイオの核となるために、各分野の若手で最新の研究に携わっている「関西のバイオニューリーダー」の協力が不可欠である。近畿バイオでは、下記のような先生方の同意を得て、「関西バイオの未来を考える会」を結成し、各専門分野の最新のご研究を紹介して議論するとともに産業界への普及を推進した。

関西バイオの未来を考える会 会員 (50音順)

| | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1. 安達宏昭(大阪大学) 電気工学 | 10. 黒田俊一(大阪大学) ナノバイオ |
| 2. 植田充美(京都大学) コンビバイオ | 11. 近藤昭彦(神戸大学) 細胞表層工学 |
| 3. 宇山浩(大阪大学) 物質工学 | 12. 坂田恒昭(神戸大学) ゲノム創薬 |
| 4. 近江谷克裕(産総研) 発光タンパク | 13. 杉本直己(甲南大学) 機能分子化学 |
| 5. 梶本修身(大阪外大) 機能性食品 | 14. 高木昌宏(北陸先端大) タンパク質材料科学 |
| 6. 梶本哲也(京都薬大) 医薬品製造 | 15. 田畠泰彦(京都大学) 再生医療 |
| 7. 加藤功一(京都大学) 医療材料 | 16. 玉井克人(大阪大学) 遺伝子治療 |
| 8. 家戸敬太郎(近畿大学) マリンバイオ | 17. 田丸浩(三重大学) 発生バイオ |
| 9. 河田照雄(京都大学) 食品機能 | 18. 橋本堂史(神戸大学) 食品・栄養化学 |

TOPICS 2007年

「バイオマス研究会」発足

本研究会は、持続可能な社会システムの実現にむけて再生可能な植物バイオマス資源からバイオ燃料はもとより、先端材料、化学製品、医薬品などの多種多様な化合物を統合的に生産する「統合バイオリファイナリー」の確立のため、バイオマス利用分野で活躍されている先生方にご講演をいただき、環境再生、資源回収、化石燃料代替エネルギー等の実用化技術情報を集約し、企業会員と幹事の先生方との密接な連携を図ることを目的として発足した。

発起人(順不同)

| | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 新名惇彦 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 教授 | 宇山浩 大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻 教授 |
| 福田秀樹 神戸大学自然科学系先端融合研究環 教授 | 近藤昭彦 神戸大学大学院工学研究科 教授 |
| 池道彦 大阪大学大学院 工学研究科環境エネルギー工学専攻 教授 | 鍋島成泰 株式会社住化技術情報センター |
| 植田充美 京都大学大学院農学研究科応用生命科学専攻 教授 | 吉田和哉 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 助教授 |

TOPICS 2009年

バイオベンチャー企業一覧作成

産業界に対して、研究成果等を効率的にアピールする機会が少ないバイオベンチャー企業のために、最新の研究開発状況を掲載したPR媒体として、2009年に整備した。以来、毎年更新して、冊子体(2012年はDVD)を作成したが、2013年以降はWEB上にて随時更新した。



2009年作成冊子



2010年作成冊子



2011年作成冊子



2015年現在

TOPICS 2010年

「アドバイザリーボード」設置

地域的産業集積活性化支援事業(近畿経済産業局事業)において、バイオベンチャー企業の研究成果事業化促進のための問題点、意見聴取のため、創薬関連、再生医療、医療機器、食関連の分野において「アドバイザリーボード」を設置した。

ボード委員

【創薬】

| | |
|-------|----------------------|
| 森下 竜一 | 大阪大学大学院 医学系研究科 教授 |
| 坂田 恒昭 | 塩野義製薬(株) 戦略企画部 部門長 |
| 岩谷 邦夫 | クリングルファーマ(株) 代表取締役社長 |
| 湯山 和彦 | (株)ジーンデザイン 代表取締役社長 |
| 小野 圭一 | 大日本住友製薬(株) 常務執行役員 |

【再生医療】

| | |
|-------|------------------------|
| 川真田 伸 | 先端医療振興財団 上席研究員 |
| 木下 茂 | 京都府立医科大学 医学研究科 教授 |
| 田口 隆久 | 産業技術総合研究所 関西センター所長 |
| 小澤 洋介 | J-TEC(ジェイティック) 代表取締役社長 |

【食関連】

| | |
|-------|--------------------------|
| 吉川 敏一 | 京都府立医科大学 医学研究科 教授 |
| 寺尾 純二 | 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究科 教授 |
| 田中 隆治 | サントリーホールディングス(株) 技術監 |

TOPICS 2011年

「関西バイオビジネスマッチング」事業スタート

本事業は、世界的に高い成長が見込まれているバイオ関連産業分野において、地域の学術院等が連携して、中小・ベンチャー企業と大企業・中堅企業とのビジネスマッチング、国内他地域の企業とのビジネスマッチングを活発化するための取組を展開することにより、近畿地域に新たな成長産業群としてのバイオ関連産業群を創出することを目的としてスタートした。



TOPICS 2012年

第5代理事長に新名惇彦氏就任

第10回理事総会:2012年(平成24年)6月8日

理 事 長: 新 名 惇 彦 奈良先端科学技術大学院大学 副学長

副理事長: 田 中 隆 治 星葉科大学 学長
植 田 充 美 京都大学大学院 教授
山 田 正 彦 (株)カネカ 上席幹部

専務理事: 井 上 了 元大日本製薬(株)

常務理事: 坂 田 恒 昭 塩野義製薬(株)
藤 川 茂 昭 サントリーウエルネス(株)

事務局長: 魚 谷 信 夫 塩野義製薬(株)



新名惇彦(しんみょう あつひこ)
奈良先端科学技術大学院大学 副学長

1965年大阪大学工学部醸酵工学科卒業。
1970年同大学院工学研究科醸酵工学専博士課程修了(工学博士)、大阪大学工学部醸酵工学科・助手。1977年米国マサチュセッツ工科大学・博士研究員(1978年まで)1992年大阪大学工学部応用生物工学科・教授。
1994年奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科・教授。2008年同大学停年退職、名誉教授。2009年同大学理事・副学長(2013年まで)。2013年同大学特任教授。
2012年近畿バイオ理事長就任。

TOPICS 2013年～2014年

会場参加型トークセミナー開始

座長に日経BPの宮田満氏をお迎えし、関西で活躍する企業のトップのご講演をお聞きした後、参加者とともにフリートークを行う「会場参加型トークセミナー」を新しく企画した。

第一回 2013年5月9日

「サラヤのビジネスと持続可能な社会への取り組み」 サラヤ株式会社 更家悠介 社長

第二回 2013年12月12日

「タカラバイオの事業戦略」 タカラバイオ株式会社 仲尾功一 社長

第三回 2014年12月11日

「不二製油でのバイオ取り組み」 不二製油株式会社 海老原善隆 会長



関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー開始

ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の先生方にご講演いただき、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイメージジネーションを参加者に感じていただくことを目的として開始した。

第一回 2014年9月30日

大阪大学大学院医学系研究科 竹田 潔 教授
大阪大学大学院薬学研究科 小比賀 聰 教授

TOPICS 2015年

30周年記念事業の開催

記念講演 2015年6月9日

会場: 大阪科学技術センター8F 大ホール

「大阪大学が取り組む未来医療のいまとみらい」

大阪大学大学院 医学系研究科 医学部 医学系研究科長・医学部長 澤 芳樹

「神戸大学における改革」

神戸大学 前学長 福田 秀樹



30周年記念誌発刊

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議
「30年の歩み」



事務所移転

2015年9月事務所移転
新住所: 大阪市中央区瓦町4丁目8-4
井門瓦町第2ビル 3階

TOPICS 2011年

「関西バイオビジネスマッチング」事業スタート

本事業は、世界的に高い成長が見込まれているバイオ関連産業分野において、地域の学術院等が連携して、中小・ベンチャー企業と大企業・中堅企業とのビジネスマッチング、国内他地域の企業とのビジネスマッチングを活発化するための取組を展開することにより、近畿地域に新たな成長産業群としてのバイオ関連産業群を創出することを目的としてスタートした。



TOPICS 2016年

第6代理事長に田中隆治氏就任

第14回理事会・総会:2016年(平成28年)6月13日

理事長:田中 隆治 星葉科大学 学長
 副理事長:坂田 恒昭 塩野義製薬(株) シニアフェロー
 高橋 賢藏 サントリーグローバルイノベーションセンター(株)
 代表取締役会長
 山田 正彦 (株)カネカ 新規事業開発部
 食料生産支援グループ 上席幹部
 近藤 昭彦 神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科
 教授 研究科長
 専務理事:梅村 黙 田辺三菱製薬(株)
 常務理事:中尾 正宏 サントリーホールディングス(株)
 宇山 浩 大阪大学大学院 工学研究科 教授
 事務局長:松村 俊彦 大日本住友製薬(株)



田中 隆治(たなか たかはる)
 星葉科大学 学長
 1969年金沢大学理学部生物学科卒業。
 1971年神戸大学 大学院理学研究科修士・卒業、同年サントリー株式会社中央研究所入社。
 1974年大阪大学タンパク質研究所受託研究員、1978年 大阪大学 理学博士取得。
 同年サントリー株式会社中央研究所に復職。
 2002年 取締役先進技術応用研究所所長、
 2005年顧問・技術監、2008年 金沢大学 理事・副学長、2012年から2019年まで星葉科大学学長。
 2016年から2022年まで近畿バイオ理事長。

TOPICS 2016年～2017年

バイオの次世代を考える会発足

次世代を担うアカデミアと企業の若手研究者が集い、違う立場から共通の接点や役割を見出し、新しい展開や創造につなげる異業種交流の場として「バイオの次世代を考える会」を2016年度に発足させた。

「再生医療技術を活用した動物実験代替法」検討会 (近畿経済産業局主催、近畿バイオ共催)

動物実験の代替手法として、複合組織チップの研究開発が急がれており、その早期実現を目的に「再生医療技術を活用した動物実験代替法」検討会を開催した。
 (2017～2019年度)



年末バイオセミナーと新春国際交流会を一本化

2002年度から開催してきた年末バイオセミナーと新春国際交流会を、2017年度から1本化し、1月に開催することとした。

TOPICS 2018年～2019年

関西スマートセルフォーラム (近畿経済産業局と近畿バイオの共同主催)

生物が持つ物質生産能力を人工的に最大限引き出した細胞“スマートセル”を利用したものづくりは製造プロセスの抜本改革につながる可能性がある。
 スマートセルインダストリーの実現に向けた中小・ベンチャー企業に対する知財戦略支援事業として、関西スマートセルフォーラムを開催した。(2018～2020年度)



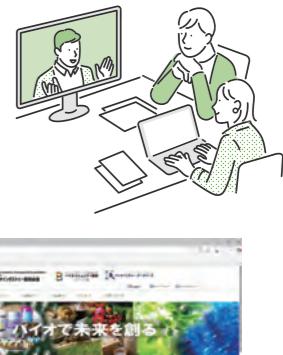
ライフサイエンス事業化推進事業(大阪府受託)

大阪府主催事業の運営を2019年度に近畿バイオとして初めて受託した。本事業では、有望な製品・技術シーズを有する府内ライフサイエンス中小・ベンチャー企業等のグローバルなビジネス展開支援の一環として、海外企業との商談会やセミナーを実施しており、2025年度現在も継続して受託している。

TOPICS 2020年

コロナ禍を機にデジタル化加速

2020年4月7日に政府から緊急事態宣言が発令され不要不急の外出は不可となった。急遽PCのモバイル化とzoom導入による会議のオンライン化を進め、在宅勤務を可能とした。年間計17回のセミナーを全てオンラインで実施した結果、参加者が前年比約2倍となり大きな効果があった。



ホームページをリニューアル

WordPressを用いた新しいシステムに刷新した。トップページはバイオテクノロジーの応用分野である「ヘルスケア/食/農業/環境」をひと目でイメージできるデザインとし、事業を体系立てて発信できる構成にした。

新規会員紹介イベントの開始

近畿バイオ会員に対して新規入会会員を紹介するオンラインイベントを企画した。会員相互の理解を深める良い機会となり、いくつかの商談に発展した。2021年以降は「活動報告会」として継続的に開催している。

TOPICS 2021年

バイオコミュニティ関西発足

内閣府のバイオ戦略に基づくグローバルバイオコミュニティの形成を目指し、「バイオコミュニティ関西(略称:BiocK)」を2021年7月に設立した。産業界が中心となって、社会課題解決のためのオープンイノベーションの場をつくることがコンセプトであり、近畿バイオと都市活力研究所が事務局を担当している。



毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム開始

毛細血管画像を健康指標として確立すること、およびその社会実装を行うことを目的として、2021年8月にコンソーシアムを設立した。

関西バイオビジネスマッチングをオンライン化

従来、リアル会場で実施していた関西バイオビジネスマッチングを完全オンライン化した。EventHub社のシステムを導入し、全国どこからでも時間と場所に制約されずに参加できる体制を整えた。

TOPICS 2022年

第7代理事長に坂田恒昭氏就任

第22回理事会 2022年(令和4年)7月1日

理事長:坂田 恒昭 大阪大学共創機構 特任教授
 副理事長:近藤 昭彦 神戸大学副学長 大学院科学技術イノベーション研究科
 教授 研究科長
 柴田 浩志 サントリーウエルネス(株) 専務取締役
 田岡 直明 (株)カネカ 理事 アグリ・バイオ&サプライメント研究所
 所長
 繩野 雅夫 田辺三菱製薬(株) 創薬本部長
 専務理事:高田 清文 サントリーホールディングス(株)
 常務理事:宇山 浩 大阪大学大学院 工学研究科 教授
 川並 弘子 田辺三菱製薬(株)
 理事・事務局長:国松 武史 住友ファーマ(株)



坂田恒昭(さかた つねあき)
 大阪大学共創機構 特任教授
 徳島大学研究支援・産学官連携推進部 客員教授
 特定非営利活動法人 情報科学生物学会
 (CBI学会)CBI研究機構
 次世代モダリティ研究所 所長
 神戸大学 産官学連携本部・産官学連携
 アドバイザリーフロー

1977年大阪大学理学部生物学科卒業。
 1979年大阪大学大学院理学研究科生理学
 専攻修了。1990年医学博士(東北大学医学
 部生理学専攻)。1979～2021年塩野義製薬
 株式会社シニアフェロー。

TOPICS 2022年

バイオコミュニティ関西が内閣府のグローバルバイオコミュニティに認定

内閣府の「バイオ戦略」に基づくグローバルバイオコミュニティに、バイオコミュニティ関西(BioCK)が認定された。2030年に世界最先端のバイオエコノミー社会を実現するため、研究開発から事業化までの多様な主体が関わる戦略的なバリューチェーンを構築し、バイオ分野で世界をリードするグローバルバイオコミュニティを形成することが目的である。



バイオベンチャーデータベース

近畿バイオが運営してきた「関西バイオベンチャー企業一覧」と、バイオインダストリー協会(JBA)が運営してきた「バイオベンチャーダイレクトリー」を統合し、新たに「バイオベンチャーデータベース」として共同で運営することとした。2025年12月現在の登録企業数は370社。



TOPICS 2023年

バイオコミュニティ関西(BioCK)の活動

BioCK発足後、各方面への趣旨説明および連携協議を進めた結果、2年間で分科会29件、アドバイザー26名、連携機関101件に達した(2024年3月現在)。

また、BioCK分科会活動支援の一環として、以下2件のJST受託事業に近畿バイオとして参画すると同時に、BioCKおよび近畿バイオの海外ネットワークの拡大を進めた。

スタートアップ創出/成長の促進支援
分科会名:デジタルバイオヘルス分科会
リーダー機関:国立循環器病研究センター
実施内容:海外調査
期間:2023~2025年度

人材育成プログラム構成の強化と実施
分科会名:フォトニクス生命工学分科会
リーダー機関:大阪大学
実施内容:国内調査、海外調査
期間:2023~2024年度



TOPICS 2024年~2025年

Bioeconomy Hub Japan開催

バイオコミュニティ関西(BioCK)が発起団体となり、全国6つの内閣府認定バイオコミュニティが組織委員会を設立し、グローバルな情報発信と市場拡大に向けた国際連携の強化を目的として、国際シンポジウムを開催した。

Bioeconomy Hub Japan 2024では国内登壇者を中心に、Bioeconomy Hub Japan 2025では海外からの登壇者も加え「バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスをどう実現するか」について議論を行った。

バイオの次世代を考える会 再スタート

バイオの若手研究者の異業種交流会として2016年から活動していたが、目的を検討し直し、関西を中心にエコシステムを根付かせるため、産官学のバイオニューリーダーの密な協力を促し、若手のネットワーク形成とオープンイノベーションに繋がる交流活動を行うことを目的として再スタートした。




理事会・総会・記念講演会

毎年6月に理事会および総会を開催し、前年度の事業報告および活動計算書、当年度の事業計画および活動予算書を審議している。終了後は有識者をお招きした記念講演会を開催している。理事および会員が集まる貴重な場であり、交流会では参加者による活発な情報交流が行われている。



| 年月日 | テーマ | 講師 |
|------------|---|---|
| 2003年6月2日 | これからのゲノム創薬 | 藤野 政彦 武田薬品工業株式会社 代表取締役会長 |
| 2004年6月7日 | 経済産業省のバイオ施策と近畿経済産業局の取り組みについて P値<臨床的意義 | 宮城 勉 近畿経済産業局 局長 福原 俊一 京都大学大学院 医学研究科 医療疫学分野 教授 |
| 2005年6月16日 | バイオが導く治療学 今、そこにあるバイオテクノロジー 人は何故、お茶を飲むのか! | 金田 安史 大阪大学大学院 医学系研究科 遺伝子治療学分野 教授 植田 充美 京都大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 教授 田中 隆治 サントリー株式会社 顧問・技術監 |
| 2006年6月16日 | 経済産業省のバイオ施策の現状 医薬基盤研究所と研究活動 | 徳増 有治 経済産業省 生物化学産業課長 山西 弘一 独立行政法人医薬基盤研究所 理事長 |
| 2007年6月8日 | ベンチャー企業経営の醍醐味 大学発ベンチャー設立の裏話 ～株式会社創立の歩み～ | 岩谷 邦夫 クリングルファーマ株式会社 代表取締役 安達 宏昭 株式会社創昌 代表取締役社長 |
| 2008年6月6日 | ゲノムサイエンスの現状と未来 ～微生物ゲノム研究を中心～ 心再生医療の現状と展望 | 小笠原 直毅 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授 澤 芳樹 大阪大学大学院 医学系研究科 外科学講座 教授 |
| 2009年6月15日 | 若さを保つ方法 ～癌、生活習慣病の予防～ 新型インフルエンザ(H1N1)の現状と問題点 | 吉川敏一 京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授 高橋 和郎 大阪府立公衆衛生研究所 副所長／感染症部長 |
| 2010年6月14日 | がんと人間と社会 | 垣添 忠生 国立がんセンター 名誉総長 |
| 2011年6月6日 | 医療のパラダイムシフト ～遺伝子解析とオーダーメイド医療～ | 堀 正二 大阪府立成人病センター 総長 |
| 2012年6月8日 | 薬物トランスポータ研究の進歩:from Bench to Bedside | 乾 賢一 京都薬科大学 学長 |
| 2013年6月3日 | iPS細胞誕生秘話 近畿バイオの3学長が語る産学連携 | 高橋 和利 京都大学 iPS細胞研究所 講師 福田 秀樹 神戸大学 学長 田中 隆治 星葉科大学 学長 吉川 敏一 京都府立医科大学 学長 |
| 2014年6月9日 | 21世紀の科学を覗く | 西川 伸一 JT生命誌研究館 顧問／NPO法人AASJ 代表 |
| 2015年6月9日 | 大阪大学が取り組む未来医療のいまとみらい 神戸大学における改革 ～バイオ分野の強化も含めて～ | 澤 芳樹 大阪大学大学院 医学系研究科長／医学部長 福田 秀樹 神戸大学 前学長 |
| 2016年6月13日 | 新規がん免疫治療薬抗PD-1抗体ニボルマブの研究開発 | 柴山 史朗 小野薬品工業株式会社 研究本部・免疫研究センター |
| 2017年6月5日 | オートファジー研究の最前線:医薬品・化粧品・機能性食品開発の可能性 | 吉森 保 大阪大学大学院 医学系研究科 遺伝子教室 特別教授／附属オートファジーセンター・センター長 |
| 2018年6月25日 | 制御性T細胞と新しい免疫医療 | 坂口 志文 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学 教授 |
| 2019年6月19日 | アベノミクスにおける規制改革と2025大阪・関西万博による関西活性化 | 森下 竜一 内閣府規制改革推進会議委員／内閣官房健康医療戦略室戦略室長 |
| 2020年6月23日 | 「人生100年時代」の医療・介護 ～アフターコロナ／withコロナをふまえて～ | 江崎 稔英 経済産業省 商務・サービスグループ 政策統括調整官（兼）厚生労働省 医政局 統括調整官（兼）内閣官房 健康・医療戦略室 次長 |
| 2021年6月17日 | データ立国論 | 宮田 裕章 慶應義塾大学 医学部医療政策・管理学教室 教授 |
| 2022年6月22日 | CEOとしての意思決定 | 中山 譲治 第一三共株式会社 常勤顧問 |
| 2023年6月20日 | 生命を捉えなおす 一動的平衡の視点から～ | 福岡 伸一 青山学院大学 総合文化政策学部 教授 |
| 2024年6月20日 | バイオインダストリーとイノベーション | 更家 裕介 サラヤ株式会社 代表取締役社長 |
| 2025年6月20日 | 免疫研究と臨床応用 | 熊ノ郷 淳 大阪大学 総長 |



内閣府のバイオ戦略に基づくグローバルバイオコミュニティの形成を目指し、「バイオコミュニティ関西(略称:BiocK)」を2021年7月に設立した。関西における産官学の法人及び団体を代表する者からなる「委員会」を中心にコミュニティを運営し、その事務局はNPO法人近畿バイオインダストリー振興会議と公益財団法人都市活力研究所が共同して担っている。最も重要な活動であるイノベーションの促進を確実に実行するため、「分科会」を設置し、社会課題解決のためのオープンイノベーションを推進している。また、ネットワーク形成促進のベースとして活用するため「アドバイザー」と「連携機関」を設けている。これらの連携・連鎖を促し、アンダーワンループの下、相乗効果を高める活動を推進している。

バイオコミュニティ関西について

| | |
|-------|---|
| ビジョン | 持続可能な社会実現のため、バイオファーストの発想を広げ、グローバルバイオコミュニティの形成をめざす |
| ゴール | 関西を拠点にバイオ分野における究極のエコシステムをつくる |
| キーワード | 「集積」から「連携」へ つなぐ、つなげる、つながる |

| | |
|------------|---|
| 名 称 | ✓ バイオコミュニティ関西 ✓ Biocommunity Kansai ✓ 略称 BiocK (バイオック) |
| 設立・認定 | ✓ 2021年7月1日設立 ✓ 2022年4月22日 内閣府より ✓ グローバルバイオコミュニティに認定 |
| アクション プラン | ✓ イノベーションの促進 ✓ ネットワーク形成促進 ✓ 国内外への情報発信 |
| コミュニティのあり方 | ✓ 「産業界」を中心のコミュニティとする ✓ バイオ界全体の連携を強化する ✓ 新たなイノベーションにつなげる |

「連携」が意味すること

ネットワーク機関が中心となって、コミュニティ内の人と情報の交流を促進することにより、各機関がお互いの状況を深く理解し、適切な情報共有が進む状態をつくり出し、必要なパートナーと協力し、人・モノ・金・情報の好循環が進み、経済的な成長を達成するとともに、グローバルな存在感を増している状態

「集積」から「連携」へ!



バイオコミュニティ関西のロゴと説明



形

バイオ関連拠点であることを、バイオ(Bio)の「B」で表します。

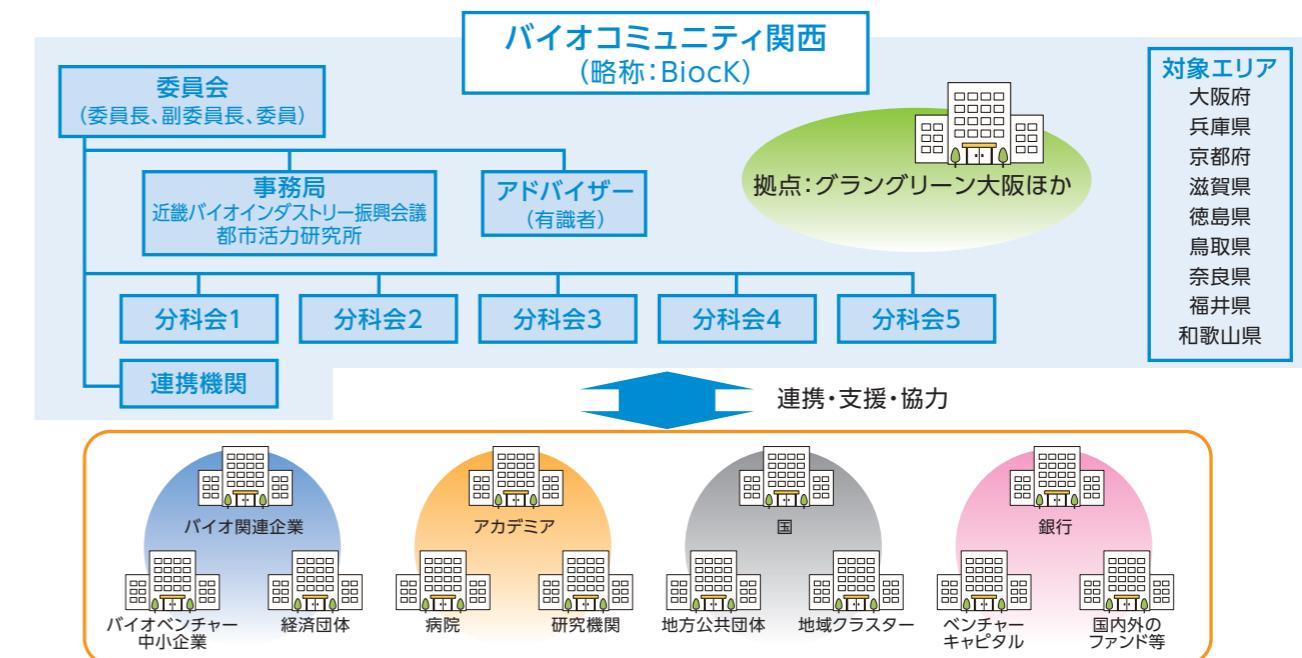
カラー

持続可能な社会の実現という大きな目標を掲げる私たちにとってSDGsは大切な指針となります。
そこで起用されている17色を用い、多様性や未来への可能性を示します。

K

BiocKの「K」は、関西(Kansai)発信の組織であることをアピール。関西は、青々とした山脈、広大な湖や豊かな海、水の都と言われる都市を擁します。また、青の中でも赤みを帯びた色調で、落ち着きある中にも情熱を感じられるBiocKの野心的かつ先進的な取組みを表現しています。

バイオコミュニティ関西の組織



バイオコミュニティ関西 委員構成



2025年7月10日現在

| 役員 | 委員長 | 澤田 拓子 | 関西経済連合会ベンチャー・エコシステム委員会 委員長 |
|--------------------|---|---|---|
| 副委員長 | 諸 富 隆一 | 関西経済連合会ベンチャー・エコシステム委員会 副委員長 関西経済同友会関西ブリッジフォーラム委員会 委員長 | |
| 副委員長 統括コーディネーター | 坂田 恒昭 | NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 理事長 大阪商工会議所ライフサイエンス振興委員会 副委員長 全国バイオコミュニティ連絡会 会長 | |
| 事務局長 | 村山 宣人 | NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 専務理事 | |
| 事務局次長 | 森田 正典 | 公益財団法人都市活力研究所 専務理事 | |
| 委員 | 関西経済連合会 関西経済同友会 | 大阪大学 京都大学 神戸大学 徳島大学 滋賀県 徳島県 鳥取県 奈良県 大阪公立大学 | 大阪府 大阪市 兵庫県 神戸市 京都府 京都市 徳島県 滋賀県 徳島県 鳥取県 奈良県 福井県 和歌山県 堺市 |
| | 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立研究開発法人国立循環器病研究センター 国立研究開発法人産業技術総合研究所関西センター 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 国立研究開発法人理化学研究所 独立行政法人製品評価技術基盤機構 公益財団法人地球環境産業技術研究機構 株式会社国際電気通信基礎技術研究所 関西健康・医療創生会議 | 関西医薬品協会 日本貿易振興機構大阪本部 独立行政法人中小企業基盤整備機構近畿本部 一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン 一般財団法人バイオインダストリー協会 | |
| 事務局 | NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 公益財団法人都市活力研究所 | | |

1 イノベーションの促進

社会課題解決のためのオープンイノベーションを推進する責任あるコンソーシアム(分科会)を組成し、1企業、1研究機関では解決できないテーマを取り上げて挑戦している。

分科会構成 企業発オープンイノベーションの促進(16件)

| 分科会名称 | 社会課題分野 | 取組内容 | リーダー機関 | 備考 |
|------------------------|-----------------|--|---------------------------|----|
| バイオメンテナンス分科会 | 環境・エネルギー | エネルギーのカーボンニュートラル化 | 大阪ガス株式会社 | |
| プラスチック分科会 | 環境・エネルギー | バイオプラスチック | サラヤ株式会社 | |
| メンタルヘルス分科会 | ヘルスケア | 社会生産性の向上 | 塩野義製薬株式会社 | |
| パーソナルデータ分科会 | ヘルスケア | パーソナルデータの利活用 | 西日本電信電話株式会社 | |
| 麹菌(国菌)ウェルビーイング分科会 | 生活習慣改善ヘルスケア | 麹菌の健康効果、美容効果の解明 | 月桂冠株式会社 | |
| ライフスタイルDX分科会 | デジタルヘルスケア | デジタルを活用したライフスタイルのアップデート | サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社 | |
| トイレ空間での新たな価値提案分科会 | ヘルスケア | トイレを利用した健康な暮らしのサポート | TOTO株式会社 | |
| お茶とフレイル研究分科会 | ヘルスケア | お茶によるフレイルの予防、改善 | 共栄製茶株式会社 | |
| スマートカルチャーベーション分科会 | 持続的一次生産システム | 一次産業におけるバイオ機能の最大限活用 | ヤンマーホールディングス株式会社 | |
| 木材・CLT利活用DX分科会 | 木材活用大型建築 | Building Information Modeling(BIM) データ活用によるCLT再利用 | 株式会社竹中工務店 | |
| KODOBUKU技術を活用した森林環境分科会 | 森林環境保全 | 豊かな生物多様性の森づくり | 株式会社シーテック | |
| バイオファウンドリ・クラスター分科会 | モノづくりバリューチェーン | バイオモノづくり | 株式会社パックス・バイオイノベーション | |
| 分析・計測分科会 | バイオ分野全般 | 分析・計測によるバイオ産業の振興 | 株式会社島津製作所 | |
| 宇宙バイオ実験分科会 | バイオ全般 | 人工衛星ペイロードを利用した日本発 民間主導宇宙バイオ実験プラットフォームの構築 | 株式会社IDDK | |
| 音でバイオの世界をかえる分科会 | バイオ生産システム・ヘルスケア | バイオ生産、ヘルスケア領域への音の利用 | オンキヨー株式会社 | |
| スタートアップ分科会 | スタートアップ支援 | 関西におけるスタートアップ支援 | 株式会社三井住友銀行 | |

新たな分科会の中核機能を担う「企業」・「産学官連携プロジェクト」募集中

分科会構成 産官学連携プロジェクトとの連携(15件)

| 分科会名称 | 社会課題分野 | 取組内容 | リーダー機関 | 備考 |
|----------------------|---------------------------|---|--------------------------|-----------|
| デジタルバイオヘルス分科会 | ヘルスケア | 総合健康産業都市 | 国立循環器病研究センター研究所 | JST共創の場 |
| フォトニクス生命工学分科会 | ヘルスケア | フォトニクス生命工学 | 大阪大学 | JST共創の場 |
| Vision to Connect分科会 | ヘルスケア | 眼科を中心としたデジタルヘルスビッグデータによる幸福なライフスタイルの社会実装 | 東北大学 | JST共創の場 |
| モダリティー分科会 | ヘルスケア | 抗体・遺伝子治療製品・ワクチン製造 | 次世代バイオ医薬品製造技術研究組合(MAB組合) | AMED・NEDO |
| メドテックイノベーション分科会 | ヘルスケア | 医療機器開発人材育成 | 大阪大学/テルモ株式会社 | |
| ヘルスエクイティDX分科会 | ヘルスケア | ケアラーのケアシステム構築 | 自治医科大学/アルム株式会社 | |
| 細胞製造分科会 | 再生医療 | 細胞製造エコシステムの構築 | 大阪大学 | AMED |
| 再生医療分科会 | 再生医療 | 再生医療エコシステムの構築とグローバル化 | 大阪大学 | |
| 健康関数®分科会 | 健康脆弱性の予知・予防・改善 | 個別健康の最大化により健康寿命を延伸する | 神戸大学、理化学研究所 | |
| フードロス分科会 | 持続的一次生産システム | 革新的なフードロス共創拠点 | 大阪大学 | |
| デジタルグリーン分科会 | 持続的一次生産システム/デジタルヘルス/バイオ生産 | けいはんな学研都市と近郊農山村が相互補完する持続可能社会の実現 | 奈良先端科学技術大学院大学 | |
| バイオマス分科会 | カーボンニュートラル | バイオマス技術によるカーボンゼロエミッションの実現 | 東京農工大学 | JST共創の場 |
| ホワイトバイオ分科会 | ホワイトバイオ関連 | バイオファウンドリ事業 | 大阪大学(代表世話人) | NEDO |
| バイオ産業人材育成分科会 | バイオものづくりの実務を担うバイオ産業人材育成 | バイオものづくりの実務を担うバイオ産業人材育成 | 大阪工業大学 | NEDO |
| 未来型都市分科会 | 持続可能社会 | 未来型的インフラモデル発信 | 大阪大学 | JST共創の場 |

新たな分科会の中核機能を担う「企業」・「産学官連携プロジェクト」募集中

分科会活動

分科会マッピング

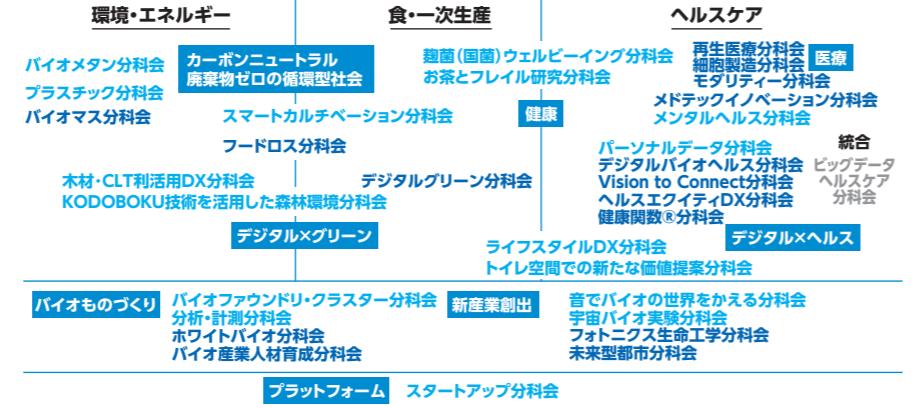
オープンイノベーションの成功に向けて

分科会会議で議論



BioCKによる分科会支援活動
分科会のニーズに応じた
①パートナー探し
②情報発信支援
③公的資金獲得支援

目標達成へ!



2 ネットワーク形成促進

バイオエコシステムの構築に向けて、国内外とのネットワークの形成を加速し、連携事業や情報交流を推進している。

国内連携 認定BC連携、京阪神自治体間連携に大きな成果



内閣府認定 グローバルバイオコミュニティ

Greater Tokyo Biocommunity 協議会(GTB)
バイオコミュニティ関西(BiocK)

内閣府認定 地域バイオコミュニティ

北海道プライムバイオコミュニティ
鶴岡バイオコミュニティ
長岡バイオコミュニティ
ひろしまバイオDXコミュニティ
福岡バイオコミュニティ
沖縄バイオコミュニティ

海外連携 各国との交流が飛躍的に拡大(2023~2025を記載)

- ◆日英ヘルスケアシンポジウム
- Healthy Ageing -
共催:パート1 2023年4月14日
パート2 2023年5月19日
- ◆日蘭ヘルスケアシンポジウム
- Cell and Gene Therapy
"Manufacturing in the UK"
共催:2025年2月25日
- ◆海外調査-2
2023年10月29日~11月9日
オランダ、イギリス
デジタルバイオヘルス分科会(国循)
JST共創の場プログラム
- ◆海外調査-3
2024年1月13日~21日
スペイン、フランス
デジタルバイオヘルス分科会(国循)
JST共創の場プログラム
- ◆海外調査-5
2024年10月24日~11月3日
フランス、スイス、デンマーク
デジタルバイオヘルス分科会(国循)
フォトニクス生命工学分科会(阪大)
JST共創の場プログラム

◆アドバイザー 各分野の専門家にアドバイザーにご就任いただき、助言を受ける体制を構築
36名(2025年7月1日現在)

- ◆日蘭シンポジウム-再生医療-
共催:パート1 2023年4月14日
パート2 2023年5月19日
- ◆日蘭再生医療シンポジウム2025
共催:2025年6月25日

- ◆海外調査-4
2024年6月2日~9日
米国(ボストン)
デジタルバイオヘルス分科会(国循)
フォトニクス生命工学分科会(阪大)
JST共創の場プログラム

- ◆海外調査-6
2025年1月12~25日
米国(ワシントン、サンフランシスコ)
デジタルバイオヘルス分科会(国循)
フォトニクス生命工学分科会(阪大)
JST共創の場プログラム

- ◆海外調査-7
2025年6月14~19日
米国(ボストン)
デジタルバイオヘルス分科会(国循)
フォトニクス生命工学分科会(阪大)
JST共創の場プログラム



3 国内外への情報発信

BioCKホームページを活用した情報発信

バイオのポータルサイトとして多くの団体が活用

分科会紹介ページの運用 アドバイザー紹介ページの運用

関連団体イベントの情報発信 HP掲載、メールマガ配信:年間約120件

BioCKおよび各団体からのお知らせ HP掲載、メールマガ配信:年間約50件

BioCK WEBサイトで情報発信中!



国際シンポジウム Bioeconomy Hub Japanの開催

バイオコミュニティ関西が発起団体となり、内閣府認定バイオコミュニティをメンバーとする組織委員会を設立し、本委員会が主催となり、グローバルな情報発信と市場拡大に向けた国際連携の強化を目的として、国際シンポジウムを開催した。

● Bioeconomy Hub Japan 組織委員会

2024年9月現在

| | |
|-------------|---|
| 委員長 | 澤田 拓子 (バイオコミュニティ関西 委員長) |
| 副委員長 | 永山 治 (Greater Tokyo Biocommunity 協議会 会長) 諸富 隆一 (バイオコミュニティ関西 副委員長) 坂田 恒昭 (バイオコミュニティ関西 副委員長兼統括コーディネーター) |
| 委員 | 瀬戸口 剛 (北海道プライムバイオコミュニティ 代表) 富田 勝 (鶴岡バイオコミュニティ (一般社団法人鶴岡サイエンスパーク 代表理事)) 磯田 達伸 (長岡バイオコミュニティ 代表) 山本 卓 (ひろしまバイオDXコミュニティ 代表) 鈴木 蘭美 (福岡バイオコミュニティ 代表) 岩本 竜吾 (沖縄バイオコミュニティ 代表) 高田 清文 (バイオコミュニティ関西 事務局長) 藤本 秀司 (バイオコミュニティ関西 事務局次長) |
| 事務局 | NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 (バイオコミュニティ関西事務局) 公益財団法人都市活力研究所 (バイオコミュニティ関西事務局) |

ディレクター

プログラムディレクター
グローバルヘルス分野: テクニカルディレクター



坂田 恒昭
バイオコミュニティ関西 (BioK)
副委員長 兼 統括コーディネーター
大阪大学 共創機構 特任教授

環境分野: テクニカルディレクター



近藤 昭彦
神戸大学
名誉教授 学長補佐

持続的な食料システム分野: テクニカルディレクター



小川 順
京都大学
大学院農学研究科
教授



Bioeconomy Hub Japan 2024



テー マ プラネタリーエルス
～バイオによるイノベーションがプラネタリーエルスをどう実現するか～

日 時 2024年4月19日(金)

場 所 グランフロント大阪

登 壇 者 国内8名、ディレクター3名

参 加 者 数 110名

主 催 Bioeconomy Hub Japan 組織委員会



基調講演 グローバルな疾病構造の変化と差し迫る地球環境問題

●井 村 裕夫 (京都大学 名誉教授)

基調講演 人新世に目指すプラネタリーエルス

●春日 文子 (長崎大学 プラネタリーエルス学環 热帯医学・グローバルヘルス研究科 教授)

講 演 脱炭素を目指すエネルギーシステム

●山地 憲治 (公益財団法人地球環境産業技術研究機構 (RITE) 理事長)

講 演 低炭素社会実現に向けたバイオものづくりへの挑戦

●上田 正博 (株式会社カネカ 常務執行役員 R&B本部長)

講 演 食産業における新たな課題

●阿部 啓子 (東京大学 名誉教授／東京農業大学 客員教授)

講 演 食のサステナビリティとWell-being

●柏原 正樹 (味の素株式会社 執行役 ビジネスマネジメント担当 グリーン事業推進部長)

講 演 One Healthアプローチの重要性: 感染症の時代を生きるために

●前田 健 (国立感染症研究所 獣医学部 部長)

講 演 ライフサイエンス研究の動向と展望(主にモダリティの観点から)

●辻 真博 (国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター
ライフサイエンス臨床医学ユニット フェロー)



2024チラシ



テー マ プラネタリーヘルス
～バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスをどう実現するか～

日 時 2025年4月17日(木)～18日(金)

場 所 ハービスホール(大阪梅田)

登 壇 者 海外6名、国内9名、ディレクター3名

参 加 者 数 339名(国内:290名、海外:25カ国 49名)

主 催 Bioeconomy Hub Japan 組織委員会



総合討論

分野:環境(Environment)

モデレーター: 近藤昭彦(神戸大学 名誉教授 学長補佐)

Bioeconomy for human wellbeing and planetary health

●Anthony Guy Capon (Director, Monash Sustainable Development Institute, Professor of Planetary Health, Monash University, Australia)

The Social-Ecological Nexus of Water: Pursuing Global Water Sustainability in the Face of Climate Change and Technological Advancements

●Shahbaz Khan (Director of the UNESCO Regional Office for East Asia, Australia/China)

地球との共存を目指す知恵とは何か

●山極壽一(総合地球環境学研究所 所長)

地球環境課題(CN/CE/NP)解決に向けた、産業界におけるバイオモノ作りへの挑戦と今後の課題●三田紀之(三菱ケミカルグループ株式会社 執行役員 チーフサステナビリティオフィサー)
(代理:佐野浩): (三菱ケミカルグループ株式会社 サステナビリティ・渉外本部 ビジネス・サステナビリティ部 部長付)**海洋生態系の課題への取り組みにおける微生物ゲノミクスの役割**

●竹山春子(早稲田大学 理工学術院 教授)

分野:持続的食料システム(Sustainable Food Systems)

モデレーター: 小川順(京都大学大学院農学研究科 教授)

Advancing Food Security and Nutrition Resilience Through Science-Driven Bioeconomy Strategies

●Máximo Torero Cullen (Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO), Italy)

How the Bioeconomy Could Improve Human Health and the Environment

●David Tilman (University of Minnesota/University of California Santa Barbara, USA)

ゲノム編集作物のラボから消費者への旅

●江面浩(筑波大学 生命環境系 特任教授)

産業界の視点から見る持続可能なアグリフードシステムの未来

●中村茂雄(味の素株式会社 代表執行役社長 最高経営責任者)

Foodtechによる食品(培養肉など)の普及に係る心がけについて

●吉富愛望アビガイル(一般社団法人細胞農業研究機構 代表理事)

分野:グローバルヘルス(Global Health)

モデレーター: 坂田恒昭(バイオコミュニティ関西 副委員長 兼 統括コーディネーター/大阪大学 共創機構 特任教授)

A new era in global health and the role of innovation

●Peter Karel Piot (London School of Hygiene & Tropical Medicine, U.K; Former Special Advisor to EC President von der Leyen on Health Security, Brussels, Belgium)

A Systems Approach to Climate and Health

●Montira Pongsiri (Lead Advisor, Climate Change and Health Department of Global Health, Save the Children, USA)

医療AIとデータ活用が切り拓く持続可能な社会への道

●小寺聰(東京大学医学部附属病院循環器内科 特任講師)

日本の基礎科学力と創薬力を生かして、世界の人々の健康に貢献する

●栄木憲和(エイキ コンサルティング 合同会社 President)

プラネタリーヘルスの実現に果たすアカデミアの役割とは

●村木倫子(大阪大学 経営企画オフィス 教授)



登壇者の集合写真

●スタートアップ紹介

| 分類 | 企業名 | 事業内容 | 地域 |
|-----------|---------------------|--|-----|
| 環境 | bitBiome株式会社 | 微生物のシングルセルゲノム解析技術 | 東京 |
| | 株式会社ミーバイオ | 光スイッチタンパク質を使ったバイオものづくり | 神奈川 |
| | Symbiobe株式会社 | 空気(CO2、窒素)の資源化 | 京都 |
| | 株式会社フレンドマイクローブ | 微生物による社会課題解決 | 愛知 |
| | ファーメランタ株式会社 | 合成生物学による植物希少成分の製造・販売 物質生産のための菌株構築サービス | 石川 |
| | 株式会社バッカス・バイオイノベーション | 統合型バイオファウンドリ | 兵庫 |
| | Spiber株式会社 | 新世代バイオ素材開発 | 山形 |
| 持続的食料システム | サンテックライフサイエンス株式会社 | ゲノム編集作物(GABA高含有トマト) | 東京 |
| | 株式会社ビオック | 麹菌によるフードテクノロジー | 愛知 |
| グローバルヘルス | X-Nef株式会社 | AIを用いた精神疾患の新しい治療 | 京都 |
| | 株式会社AdvanSentinel | 感染症下水モニタリング | 大阪 |
| | 株式会社メガカリオン | iPS細胞から血小板及び赤血球の產生 | 京都 |

●ポスター展示

| バイオコミュニティ関西 | 内閣府認定バイオコミュニティ | その他 |
|------------------------|----------------------------------|---------------------|
| バイオメタン分科会 | Greater Tokyo Biocommunity (GTB) | BioPhenolics株式会社 |
| メンタルヘルス分科会 | バイオコミュニティ関西 (BiocK) | ミーバイオ株式会社 |
| パーソナルデータ分科会 | 北海道プライムバイオコミュニティ | 株式会社シンプロジェン |
| ライフスタイルDX分科会 | 鶴岡バイオコミュニティ | 自治医科大学/株式会社アルム |
| トイレ空間での新たな価値提案分科会 | 長岡バイオコミュニティ | インフォーママーケットジャパン株式会社 |
| 木材・CLT利活用DX分科会 | ひろしまバイオDXコミュニティ | 京都バイオ計測センター |
| KODOBUKU技術を活用した森林環境分科会 | 福岡バイオコミュニティ | |
| バイオファウンドリ・クラスター分科会 | 沖縄バイオコミュニティ | |
| 分析・計測分科会 | | |
| 宇宙バイオ実験分科会 | | |
| デジタルバイオヘルス分科会 | | |
| フォトニクス生命工学分科会 | | |
| Vision to Connect分科会 | | |
| バイオマス分科会 | | |

●協賛

株式会社力ナカ
サントリーホールディングス株式会社
塩野義製薬株式会社
シスマックス株式会社
田辺三菱製薬株式会社
阪急阪神不動産株式会社
ダイキン工業株式会社

●広告協賛

アズワン株式会社



2025チラシ



2021年1月29日 バイオ戦略トークセミナー 「アグリバイオ戦略」

日本のアグリバイオ戦略2050年に向けて

●菱沼義久(農林水産省大臣官房技術総括審議官兼農林水産技術会議事務局長)

パネルディスカッション ●鶴英明(ヤンマーホールディングス株式会社技術本部イノベーションセンターイノベーション企画部部長) ●千葉一裕(東京農工大学学長)、および講演者



2021年3月29日 バイオ戦略トークセミナー 「ヘルスケアの未来戦略 デジタルヘルスの未来像」

いのち輝く未来社会の共創

●宮田裕章(慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室教授)

バイオ戦略におけるヘルスケア分野での「ワンストップ」なAI活用術

●石山洸(株式会社エクササイズ代表取締役社長)

パネルディスカッション ●小林博幸(塩野義製薬株式会社デジタルインテリジェンス部部長) ●水川貴史(塩野義製薬株式会社研究企画部部長)、および講演者

2021年10月1日 バイオ戦略トークセミナー 「環境エネルギーの未来戦略 バイオメタンの有効活用」

バイオガスのエネルギー利用とその高品質化について

●大下和徹(京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻准教授)

日立造船のカーボンニュートラルに向けたバイオメタン、合成メタンへの取り組み

●田中朝都(日立造船株式会社環境事業本部環境技術推進部部長)

バイオメタンの最大化に向けて

●坪田潤(大阪ガス株式会社エネルギー技術研究所シニアリサーチャー)

パネルディスカッション ●坪田潤(大阪ガス株式会社エネルギー技術研究所シニアリサーチャー)、および講演者

2021年11月24日 バイオ戦略トークセミナー 「プラスチックの社会課題とバイオプラスチックの有効活用」

循環型社会実現に貢献するバイオプラスチックの開発とビジネス

●佐野浩(三菱ケミカル株式会社サーキュラーエコノミー推進本部兼ポリマー&コンパウンド企画本部)

バイオプラスチック総論と研究最前線

●宇山浩(大阪大学大学院工学研究科教授)

パネルディスカッション ●宇山浩(大阪大学大学院工学研究科教授)

●奥山俊郎(サラヤ株式会社商品開発本部副本部長)、および講演者

2021年12月9日 バイオ戦略トークセミナー 「関西Bio拠点におけるスタートアップエコシステムの形成に向けて」

神戸大学発バイオベンチャーの事例研究～シード期からアーリー後期迄の事業創造プロセスと現状の課題～

●山本一彦(神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科教授)

事業会社のオープンイノベーションへの期待と課題

●劉雷(アストラゼネカ株式会社イノベーションパートナーシップ&i2.JP)

世界初の「再生誘導医薬」の開発経緯とステムリムのビジネスモデル

●岡島正恒(株式会社ステムリム代表取締役社長執行役員)

パネルディスカッション ●宮川潤(株式会社三井住友銀行関西成長戦略室成長事業開発部部長) ●長谷川宏之(三井UFJキャピタル株式会社執行役員ライフサイエンス部長) ●坂田恒昭(バイオコミュニティ関西副委員長兼統括コーディネーター)、および講演者



2022年5月27日 バイオコミュニティ関西(BioCK)キックオフセミナー

バイオコミュニティ関西への期待

●覺道崇文(内閣府科学技術・イノベーション推進事務官審議官)

バイオコミュニティ関西の挑戦

●澤田拓子(バイオコミュニティ関西BioCK委員長)

英国のバイオコミュニティからの学びとバイオコミュニティ関西に期待すること、日英連携の可能性

●竹之下泰志(ダークブルーセラピューティック社取締役/アーデージョセラピューティック社欧州代表/リブバイオ社社主/大阪大学招聘教授)

日米連携によるスタートアップ支援とバイオコミュニティ関西に期待すること

●池野文昭(MedVenture Partners株式会社取締役CMO/Stanford University Program Director(U.S.)of Japan Biodesign, Stanford Byers Center for Biodesign・Co-Director of Asia Region, SPARK Global, Stanford SPARK)

2022年7月25日 BioCKシンポジウム 「再生医療最前線～関西から世界へ～」

バイオコミュニティ関西(BioCK)について

●坂田恒昭(バイオコミュニティ関西副委員長兼統括コーディネーター)

iPS細胞を用いたパーキンソン病治療

●高橋淳(京都大学iPS細胞研究所所長・教授)

重症心不全に対する心筋再生医療

●澤芳樹(大阪大学大学院医学系研究科特任教授/大阪警察病院院長)

角膜再生医療の実現化に向けて

●西田幸二(大阪大学大学院医学系研究科脳神経感覚器外科学講座(眼科学)主任教授)

同種滑膜間葉系幹細胞を用いた軟骨再生その実用化に向けて

●中村憲正(大阪保健医療大学教授/大阪大学国際医工情報センター招聘教授)

再生医療の普及を支援する再生医療ナショナルコンソーシアムの活動について

●岡田潔(大阪大学大学院医学系研究科・医学部附属病院産学連携・クロスイノベーションイニシアティブ特任准教授)

細胞製造の未来

●紀ノ岡正博(大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻教授(兼)工学研究科テクノアリーナ細胞製造コトづくり拠点拠点長)

住友ファーマの再生・細胞医薬事業の取組状況

●木村徹(住友ファーマ株式会社代表取締役専務執行役員)

網膜再生医療と医療側の準備

●高橋政代(株式会社ビジョンケア代表取締役社長)

パネルディスカッション ●澤芳樹(大阪大学大学院医学系研究科特任教授/大阪警察病院院長)

●坂田恒昭(バイオコミュニティ関西副委員長兼統括コーディネーター)、および講演者



2023年3月9日 バイオ戦略トークセミナー 「ルール形成による市場創出～国際的な標準化や制度構築の動向について～」

NITEのご紹介

●山本耕市(独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)大阪事業所長)

国際的な標準化、ルール形成に関する活動について

●吉田耕太郎(ISO(国際標準化機構)CASCO(適合性評価委員会)特別設置タスクフォース国際エキスパート独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)企画管理部イノベーション支援課課長)

標準化政策の動向

●木井保夫(経済産業省産業標準調査会基本政策部会委員/NITE理事(バイオテクノロジー分野担当))

チームNITEの取組

●徳永清徳(独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)企画管理部イノベーション支援課専門官)

パネルディスカッション ●坂田恒昭(バイオコミュニティ関西副委員長兼統括コーディネーター)、および講演者

2023年8月3日 バイオ戦略トークセミナー 「オープンイノベーションによる成功の秘訣」

シン・一次産業:自然と共生し生命(いのち)の根幹を担うイノベーションへの挑戦

●鶴英明(ヤンマーホールディングス株式会社技術本部共創推進室専任部長)

シリコンバレーで見てきた脱炭素イノベーション～欧米事例と日本の現在地～

●出馬弘昭(東北電力株式会社事業創出部門アドバイザー/大阪大学フォースト株式会社取締役/インベストメントLab株式会社シニアアドバイザー/IZM代表)

たった一人からはじめるイノベーション～ヘトヘトからワクワクへの仕組み創り～

●竹林一(京都大学経営管理学院客員教授/オムロン株式会社イノベーション推進本部シニアアドバイザー)

パネルディスカッション ●坂田恒昭(バイオコミュニティ関西副委員長兼統括コーディネーター)

●高橋俊一(一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパンLINK-J事務局長)、および講演者

2023年12月1日 バイオ戦略トークセミナー 「関西圏バイオクラスターの歴史と発展」

特別講演:我が国バイオ政策の展開

●下田裕和(経済産業省商務サービスグループ生物化学産業課長)

“関西バイオクラスター”による産業クラスターの形成

●小谷純二(経済産業省近畿経済産業局地域経済部バイオ・医療機器技術振興課課長)

大阪商工会議所の健康医療分野の歩み～大阪・関西における健康医療産業振興20年との運動～

●横山愛湖(大阪商工会議所理事・産業部長)

バイオグリッドのこれまでとこれから

●下條真司(青森大学ソフトウェア情報学部教授)

バイオコミュニティ関西 アップデート

●高田清文(バイオコミュニティ関西BioCK事務局長)

パネルディスカッション ●坂田恒昭(バイオコミュニティ関西副委員長兼統括コーディネーター)、および講演者

2025年9月19日 バイオコミュニティ関西(BioCK)シンポジウム 「グローバル市場を目指した創薬系スタートアップ創生の加速」

創薬力強化とCDMO

●栄木憲和(Eiki Consulting, LLC・President)

Creating successful early stage biotechs - two case studies in the UK

●竹之下泰志(CEO, Senya Therapeutics/Guest Professor, Osaka University)

パネルディスカッション: 日米欧の比較による日本の医薬品産業および創薬系スタートアップの強みと問題点

●坂田恒昭(バイオコミュニティ関西副委員長兼統括コーディネーター)

●永田智也(D3LLC CEO)

●駒谷剛志(高島国際特許事務所弁理士)

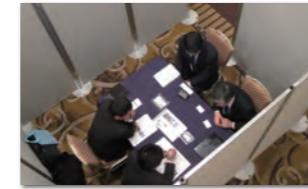
●ラナ・ゼイン(Greenstaff Lifesciences Associate Director)、および講演者

関西バイオビジネスマッチング

開催趣旨

高い成長が見込まれるバイオ関連産業分野において革新的なシーズを事業化するためには、アカデミア/スタートアップ/事業会社が持つシーズとニーズを結び付けることが重要となる。新規事業の創出、新たなイノベーション誘発の場として、「関西バイオビジネスマッチング」を2011年から継続的に開催している。

当初は近畿経済産業局の委託、補助、共催で、2017年からは近畿バイオ主催、2022年からはバイオコミュニティ関西と近畿バイオの共同主催で開催している。



基調講演者

第1回
2011年2月7日、8日

臼井 玲（レイライフサイエンス有限会社 代表取締役）
山崎 清一（いちよし経済研究所 企業調査部 首席研究員）
秋元 健吾（サントリーホールディングス株式会社 知的財産部 課長）
高橋 慶人（株式会社カネボウ化粧品 優良創成研究所 主任研究員）

第2回
2012年2月7日、8日

井垣 太介（弁護士法人北浜法律事務所）
土井 尚人（株式会社ヒューマン・キャピタル・マネジメント 代表取締役社長）
鬼頭 守和（味の素株式会社 研究開発企画部 専任部長）
林 昭伸（株式会社コーセー 研究所 開発研究室 室長）

第3回
2013年2月6日

佐藤 太郎（産業革新機構 戦略投資G 執行役員 マネージングディレクター）
柴田 浩志（サントリーウエルネス株式会社 執行役員 健康科学研究所長）

第4回
2014年2月5日

田中 隆治（星葉科技大学 学長）

第5回
2015年1月27日

森下 竜一（大阪大学大学院 医学系研究科 教授）

第6回
2017年2月23日

西村 秀隆（経済産業省 生物化学産業課長）

※基調講演は第6回まで終了

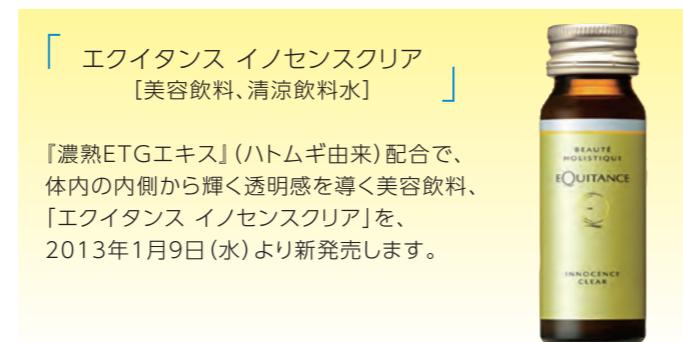


▲2011年ポスター

マッチング成功事例

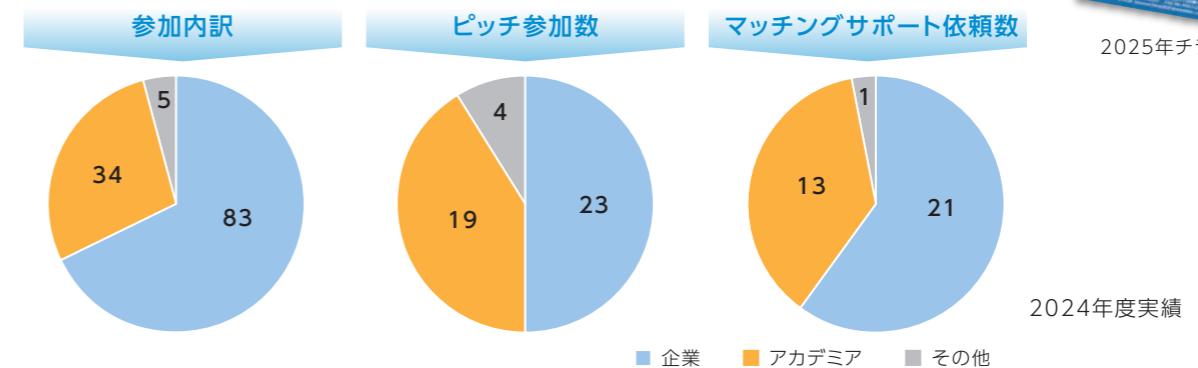
「関西バイオビジネスマッチング2011」におけるマッチング成功事例として、サンスター株式会社から2013年1月9日に新商品が発売されました。

以下、同社のニュースリリースを一部抜粋して掲載させていただきます。



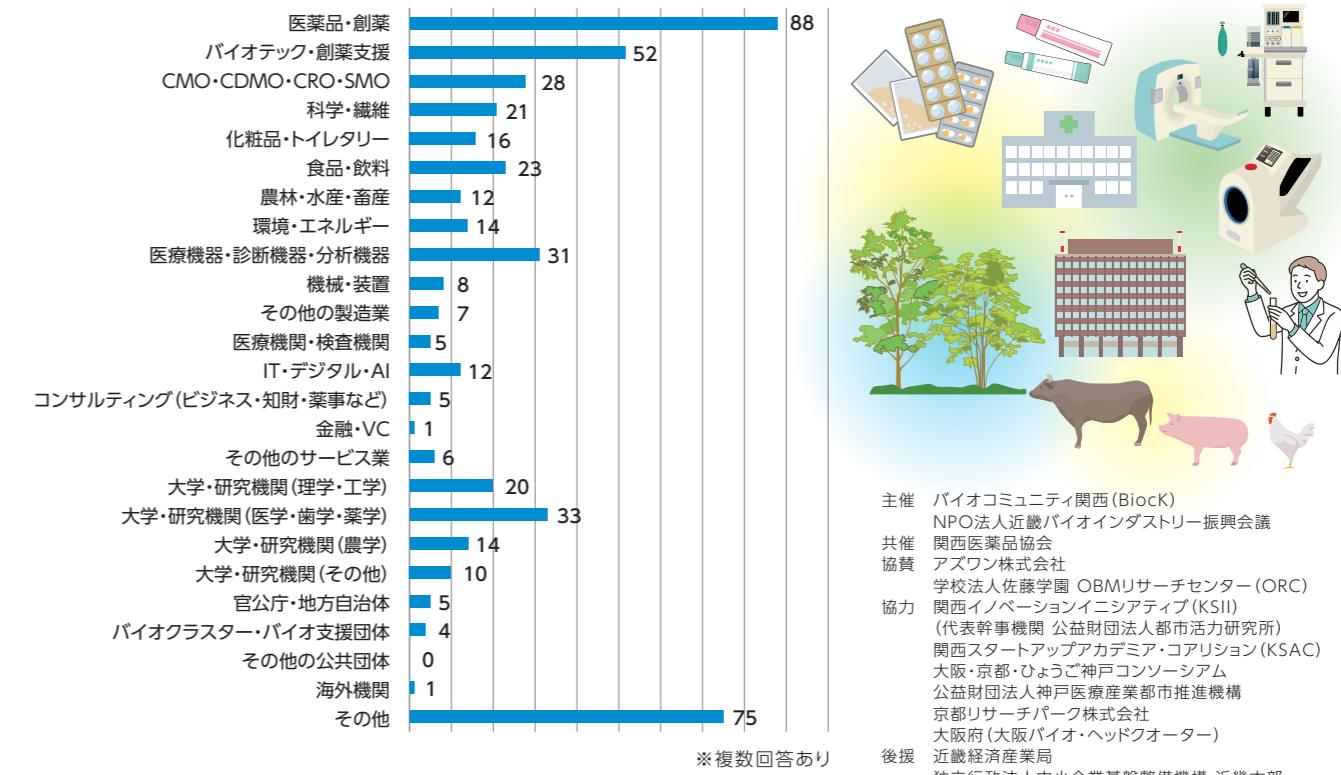
オンラインへの転換

2020年にはコロナ禍により会場での開催ができなくなつたためオンラインへと転換し、2021年からはオンライン開催の利点を生かして本格的なマッチングシステムを導入した。オンラインピッチや商談の相手先を紹介・勧誘するマッチングサポートも行っている。



2025年チラシ

業種・分野



主催 バイオコミュニティ関西 (BioCK)
NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議
共催 関西医薬品協会
協賛 アズワン株式会社
協力 学校法人佐藤学園 OBMリサーチセンター (ORC)
関西イノベーションイニシアティブ (KSI)
(代表幹事機関 公益財団法人都市活力研究所)
関西スタートアップアカデミア・コアリジョン (KSAC)
大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム
公益財団法人神戸医療産業都市推進機構
京都リサーチパーク株式会社
大阪府(大阪バイオ・ヘッドオーファー)
近畿経済産業局
独立行政法人中小企業基盤整備機構 近畿本部



マッチング成功事例

関西バイオビジネスマッチング2023における成功事例として、サーブ・バイオファーマ株式会社と日本臓器製薬株式会社が、2025年8月にサーブ・バイオファーマが開発した腫瘍溶解性ウイルス「Surv.m-CRA-1」について、骨軟部腫瘍を対象としたライセンス契約を締結しました。

大阪府受託事業:ライフサイエンス事業化推進事業 (ライフサイエンス海外ビジネス展開等支援業務)

2019年～現在

ライフサイエンス分野は国際的に急速な成長を続けており、有望な技術や研究シーズの探索は国境を越えて活発に行われている。中小企業・ベンチャー企業にとっては、国内市場にとどまらず、海外企業との提携、共同研究、ライセンスアウトなどを通じて事業拡大を図る大きな機会が広がっている。一方で、海外展開には海外ネットワークや国際ビジネスの経験が必要となるものの、多くの中小・ベンチャー企業ではその基盤が十分でないため、海外ビジネス機会を活かしきれていない状況も見られる。

こうした課題に対応するため、大阪府では、大阪府内のライフサイエンス系中小・ベンチャー企業が海外企業と出会い、事業提携に結びつける国際マッチングの促進を主目的として本事業を実施してきた。具体的には、海外企業やライフサイエンスクラスターとの面談支援、大阪での商談会開催、情報交換の機会創出などを通じて、府内企業のグローバル展開を後押しするとともに、海外企業の国内ビジネス参入を促進し、大阪のライフサイエンス産業のさらなる発展を図った。

近畿バイオは本事業を2019年度に初めて受託し、その後2025年度まで継続して受託している。事業では、以下を企画・運営し、府内企業の海外展開支援を多面的に進めた。

- 国際マッチングイベント「日欧バイオテック&ファーマ パートナリングカンファレンス」
- 2019年から2023年にかけては、上記イベントの集客を目的としてBIO INTERNATIONALに、イベント後のフォローアップを目的としてBIO EUROPEに参加
- 上記イベントの集客を目的とした産学官連携情報交流セミナー
- 海外展開を支援する海外展開サポートセミナー



①日欧バイオテック&ファーマ パートナリングカンファレンス

| 年 度 | 欧州側企業数(社) | 日本側企業数(社) | 商談数(件) |
|---------|-----------|-----------|--------|
| 2019年度 | 61(15ヵ国) | 50 | 263 |
| 2020年度 | 104(20ヵ国) | 48 | 391 |
| 2021年度* | 106(20ヵ国) | 50 | 291 |
| 2022年度 | 84(22ヵ国) | 50 | 260 |
| 2023年度 | 80(18ヵ国) | 45 | 218 |
| 2024年度 | 88(22ヵ国) | 71 | 302 |
| 2025年度 | 110(18ヵ国) | 82 | 339 |

*コロナ禍のためオンラインのみ実施



②産学官連携情報交流セミナー 開催リスト

| 年度 | 回 | 開催日 | 講 演 テ ー マ | 講 演 者 (敬称略) |
|--------|-----|---|---|--|
| 2019年度 | 第1回 | 7月29日 | 外国企業との事業提携の実務～外国企業と提携する際のビジネスモデルと契約のポイント | イズミ国際コンサルティング 代表 泉 仁 史 |
| | 第2回 | 9月6日 | ライフサイエンス企業におけるM&A戦略～M&Aの概要とライフサイエンス企業におけるM&A戦略 | 株式会社テック・コンシリエ 共同創業者兼COO 小林 誠 |
| | 第3回 | 12月6日 | 欧州におけるDigital Health/Digitalized Innovation 実現への挑戦 | デロイトマツコンサルティング合間会社 モニー・アロト ライフサイエンス&ヘルスケア 執行役員 京都大学 大学院医学研究科 特命准教授 柳本 岳史 |
| | 第4回 | 【デジタルメディスンの現状と展望】 | 製薬企業とのパートナリングに必要なデータと訴求力のあるプレゼンテーション | FORESIGHT & LINX株式会社 代表取締役 能見 貴人 |
| | | 世界初のデジタルメディスン エビリファイマイサイトについて | 大塚製薬株式会社 医薬品事業部 医薬品企画グループ マネージャー 伴 真紀子 | |
| | | デジタルメディスンの現状と田辺三菱製薬の取り組み | 田辺三菱製薬株式会社 執行役員 デジタルトランスフォーメーション部長 清水 良 | |
| | | 【AI/IoTからのヘルスケアビジネスの展開】 | 富士通株式会社 ヘルスケアビジネス推進部部長 兼 エバンジェリスト(ヘルスケア担当) 岩津 聖二 | |
| | | 富士通のヘルスケアビジネスへの取り組み紹介 | 【ライフサイエンスピジニアス・ピッチ】 | |
| | | 【ライフサイエンスピジニアス・ピッチ】 | インターネット(株)やティーエフケイ(株)など、大阪・関西の | |
| | | インターネット(株)やティーエフケイ(株)など、大阪・関西の | ライフサイエンス関連企業が登場!気になった発表者とネットワーキングでコネクト! | |
| 2020年度 | 第1回 | 7月31日 | Post Covid-19時代、オンライン商談会はここに注意! | 合同会社トロ 芳賀 淳 |
| | | コロナ下におけるベンチャー企業の経営革新へのアドバイスと欧米バイオパートナリングの現状 | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 コンサルティング事業本部 経営コンサルティング1部 部長 兼 ヘルスケアコンサルティング室長 外石 満 | |
| | 第2回 | 9月1日 | マッチングシステムを使いこなそう! | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 コンサルティング事業本部 一般財團法人日欧産業協力センター 備報サービス EENマネージャー Daniel Gralik(ダニエル・グラリック) |
| | | オンライン商談の必勝戦略 | 大阪ビジネスユニット 人の育ち支援室 チーフコンサルタント 松本 良平 | |
| | | | 京都大学 大学院医学研究科 人創健康科学系専攻 ビッグデータ医学分野 教授 奥野 恒史 | |
| | 第3回 | 12月3日 | スーパーコンピュータ・AI が拓く創薬の未来 | タカラバイオの事業戦略 新型コロナウイルス関連事業などの取り組みについて |
| | | | タカラバイオ株式会社 代表取締役社長 仲尾 功一 | |
| 2021年度 | 第1回 | 9月2日 | 医療と創薬でのAI活用事例 | 株式会社HACARUS 代表取締役CEO 藤原 健真 |
| | | デジタル技術を活用した生活習慣病への対応とコロナ対策の取組み | 富士通Japan株式会社 ソリューションビジネス本部 ヘルスケアソリューションビジネス統括部 シニアディレクター 岩津 聖二 | |
| | 第2回 | 12月2日 | 脳回路マーカーを用いたデジタルヘルス | ATR脳情報通信総合研究所 所長/株式会社Knef 代表取締役 CEO 川人 光男 |
| | | COI-NEXT でのデジタルバイオヘルス実現への取組み | 国立循環器病研究センター 理事・研究所長 望月 直樹 | |
| 2022年度 | 第1回 | 9月9日 | 国産初の核酸医薬品であるデュシエンヌ型筋ジストロフィー治療剤ビルテノンの開発 | 日本新薬株式会社 研究開発本部 創薬研究所 東部創薬研究所 所長 中村 善隆 |
| | | 翻訳反応の制御を目的とした核酸分子の開発 | 国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学大学院 理学研究科 理学専攻化学 教授 機構教育研究推進等組織 糖鎖生命コア研究拠点 教授(兼任) 阿部 洋 | |

産学官連携情報交流セミナー 開催リスト つづき

| 年度 | 回 | 開催日 | 講 演 テ ー マ | 講 演 者 (敬称略) |
|--------|-----|--------|--|--|
| 2022年度 | 第2回 | 12月13日 | 新型コロナウイルス感染症の罹患後症状 | 国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター 国際感染症対策室 医長・医療教育部門 副部門長(兼任) 森岡 憲一郎 |
| 2023年度 | 第1回 | 7月19日 | 産官学連携による難病治療薬開発のエコシステム | 大阪大学 大学院医学系研究科 再生誘導医学寄附講座 教授 玉井 克人 |
| | 第2回 | 12月18日 | 除菌消臭剤のメカニズム解明から生まれた創薬ツール～グライオ電子顕微鏡用グラフェングリッドの開発～COVID-19経口治療薬ゾコバの創製とパンデミックへの備え | 塩野義製薬株式会社 研究本部 創薬疾患研究所所長 佐藤 剛章 |
| 2024年度 | 第1回 | 8月2日 | デジタル技術による持続可能な医療 | サスメド株式会社 代表取締役・医師・医学博士 上野 太郎 |
| | 第2回 | 1月15日 | AI創薬の基礎としてのデータベースと多面的モデリング | 大阪大学 蛋白質研究所 教授/医薬基盤・健康・栄養研究所 AI健康・医薬研究センターセンター長(兼任) 水口 賢司 |
| 2025年度 | 第1回 | 8月1日 | ChatGPT最速導入。DXが当たる前の住友ファーマ ChatGPTが誕生したときの想い | 住友ファーマ株式会社 デザイン室 兼 IT&デジタル革新推進部 主席部員 菅原 秀和 |
| | | | AIが医療を取り巻くが国の法整備と開発現場の現状と課題について | 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 医薬基盤研究所 副所長 ヘルス・メディカル微生物研究センター センター長(併) 國澤 純 |
| | | | 再生医療を取り巻くが国の法整備と開発現場の現状と課題について | 株式会社FRONTEO 取締役/CEO 川真田 伸 |
| | | | AIを駆使したタンパク質デザインの現状と応用 | 株式会社FRONTEO 取締役/CSO(Chief Science Officer) 豊 柴 博義 |
| | | | | 大阪大学 産業科学研究所 准教授 曽宮 正晴 |

③海外展開サポートセミナー 開催リスト

| 年度 | 回 | 開催日 | 講 演 テ ー マ | 講 演 者 (敬称略) |
|--------|-----|-------|--|--|
| 2023年度 | 第1回 | 8月21日 | 医薬品創出において日本人が海外に展開していくためには? | イーライリリー株式会社 コーポレートビジネスディベロップメント リーベンチャーズジャパンアンドアジア シニアディレクター 本田 孝雄 |
| | 第2回 | 9月7日 | 技術情報流出をめぐる現状と課題について | 大阪府警察本部 外事課 経済安全保障担当 石村 徳彦 |
| | 第3回 | 9月12日 | ライフサイエンスプレゼンテーション力向上セミナー 「理系プレゼンテーション成功のカギ『要約力』を磨こう」 | 読売新聞大阪本社 社長直属「新聞のちから」委員会事務局 事務局長 戸田 博子 読売新聞大阪本社 社長直属「新聞のちから」委員会事務局 専任次長 |
| 2024年度 | 第1回 | 8月28日 | 創薬イノベーションの未来を切り拓く:長期的なグローバルパートナーシップの価値 | 日本ベーリングインターナショナル株式会社 創薬研究アライアンス部 部長 大阪大学共創機構 特任教授 前田 朋子 |
| | 第2回 | 9月12日 | 英国・ケンブリッジのエコシステム発展の歴史と弊社の果たしてきた役割 | ケンブリッジコンサルティング株式会社 メディカルテクノロジー事業部 事業開発部 部長 松井 拓也 |
| 2025年度 | 第1回 | 9月1日 | 国境も組織も越えて向き合うコミュニケーションギャップとそこから生まれるイノベーション スタートアップの海外展開・連携に向けたヒント | JPRO INCUBATION OFFICE 代表 上谷 和司 |
| | 第2回 | 9月25日 | バイオ医薬品における米国市場への外国企業の参入と関連業事の動向 | 京都大学「医学領域」産学連携推進機構 特定教授 鈴木 忍 |
| | | | 日本から世界へ:ビジネスディベロップメント成功のための戦略 | 一般社団法人 ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン 事務局長 高橋 俊一 BLA Regulatory, LLC 創業者 兼 主任コンサルタント Frank Li |

BioJapan共同出展

2013年～現在

研究成果を効率的にアピールする機会が少ない関西のバイオ関連ベンチャー企業のために、海外企業の参加が多い大規模展示会であるBioJapan(毎年10月、パシフィコ横浜)において、近畿バイオでブースの一一定区画を確保し出展を支援している。

| | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 2013年度: 7社 | 2014年度: 8社 | 2015年度: 8社 |
| 2016年度: 14社 | 2017年度: 6社 | 2018年度: 9社 |
| 2019年度: 11社 | 2020年度: 13社 | 2021年度: 14社 |
| 2022年度: 14社 | 2023年度: 14社 | 2024年度: 10社 |
| 2025年度: 14社 | | |



バイオベンチャーデータベース(JBAと共同運営)

2022年～現在

全国のバイオベンチャー情報を登録した本データベースを、2022年からバイオインダストリー協会(JBA)と共に運営している。JBAは主に東日本を、近畿バイオは主に西日本を担当し、新規掲載の勧誘や掲載情報のメンテナンスを行っている。各社の事業概要、主な製品・技術・サービス、成果や実績およびアライアンスの目標・ニーズ等を掲載しており、バイオベンチャー企業にアクセスするための有用ポータルとして役立っている。日英のサイトがあり海外への情報発信ツールとしても有用である。

2025年12月現在の掲載企業数 370社



生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会

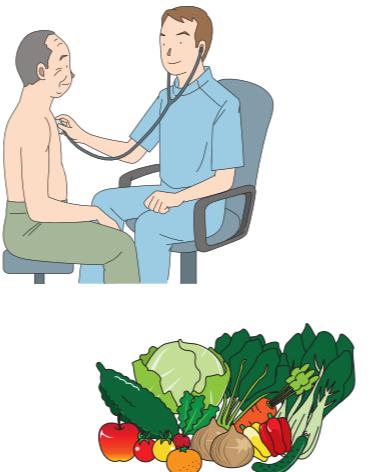
2006年～現在

京都府立医科大学大学院
教授 内藤 裕二

第一期 2006年発足～2010年

「食と運動の機能性に関する研究会」

～関西における食・運動関連クラスター形成に向けて～



開催趣旨

本研究会は、健康な生活を維持するための重要な要素である食と運動の機能性の関係を解明し、第3期科学技術基本計画にも謳われている生涯健康な生活一生はつらつ生活を実現するための研究情報を集積し、新しい産業を立ち上げることを目的とする。

第二期 2010年～現在

「生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会」

～アグロメディカル・イニシアティブとの連携～

開催趣旨

臨床医・各専門分野の第一人者と開発者との連携と相互理解により、医師が認め、消費者に期待される機能性食品の開発を通じて、高齢化社会における健康の維持、疾病・老化の予防、食産業の発展に寄与する。
「くすり」の専門家である薬剤師も含め、健康食品が「予防医学・代替医療」として有効に生かされるよう、科学的根拠に基づいた健康食品の機能性、有効性および安全性を議論し、健康食品の信頼性を高める場とした研究会を開催する。

運営体制

初代会長 吉川敏一（京都府立医科大学 学長）

2025年9月時点

会長 内藤裕二（京都府立医科大学大学院 教授）

副会長 栗木 隆（江崎グリコ株式会社 取締役 研究フェロー）

委員 亀井淳三（順天堂大学 特任教授）

田岡直明（株式会社カネカ アグリ・バイオ&サプリメント研究所 所長）

芦田均（武庫川女子大学 食物栄養科学部 教授／神戸大学 名誉教授）

青井渉（京都府立大学大学院 準教授）

柴田浩志（サントリーウエルネス株式会社）

アドバイザー 吉川敏一（レイ・パストゥール医学研究センター 理事長）

田中隆治（NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 相談役／星葉科大学 元学長）

事務局長 村山宣人（NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 専務理事）

| 講演テーマ | 講演者（敬称略） |
|---|-------------------------------------|
| 2010年 1月27日 パーソナライズド・ニュートリションを目指したバイオセンター | 大阪大学大学院 工学系研究科 教授 民谷栄一 |
| 食品機能成分のスクリーニングと運動の併用効果 | 奈良女子大学 生活環境学部 食物栄養 井上裕泰 |
| 透析患者における抗疲労臨床試験の事例 | 大阪市立大学大学院 医学研究科 福田早苗 |
| 予防医療の実践に向けたバイオマーカーの研究開発 | (株)バイオマーカーサイエンス 解析センター 中西 守 |
| シームレスカプセル化技術とその応用の可能性 | 森下仁丹(株) バイオファーマ研究所 浅田雅宣 |
| 体質改善サプリ:カネカ・グラボノイド | カネカ(株) QOL事業部 中川 格 |
| 卵白ペプチドランペップが血管拡張・血流改善に与える効果 | (株)ファーマフーズ 開発部 佐内勇亮 |
| 7月6日 「生活習慣病研究会」開催の趣旨 | 京都府立医科大学 消化器内科学教室 教授 吉川敏一 |
| 腎障害の発症機序と食品による予防と改善 | 医療法人良秀会 藤井病院 岸和田藤井第2診療所 宗正 敏 |
| メタボ時代の大腸癌発症機序と食品による予防 | 京都府立医科大学大学院 医学研究科 准教授 内藤裕二 |
| 9月6日 皮膚と体型の見た目のエージング | 北里大学 名誉教授 塩谷信幸 |
| 脳の老化の機序と食品による予防と改善 | 杏林大学 医学部 精神神経科学教室 教授 古賀良彦 |
| ドライマウスの発症機序と食品による予防と改善 | 鶴見大学 歯学部口腔病理学講座 教授 斎藤一郎 |
| 11月8日 老化の共通基盤である酸化ストレスと食品による予防 | 大阪大学大学院 医学系研究科 教授 森下竜一 |
| ケルセチンによる高血圧予防 | 京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授 丸中良典 |
| 食事と行動変容による成人病疾患予防の最前線 | 日経BP社 医療局 主任編集委員 宮田 満 |
| 2011年 3月2日 変形性膝関節症の病態と食品による予防・改善 | 大阪大学 整形外科 助教 前達雄 |
| 老人性難聴の発症機序と食品による予防と改善 | 滋賀医科大学 消化器内科 教授 藤山佳秀 |
| 7月25日 医農連携への新たな挑戦 | 東京大学大学院 医学系研究科 教授 山崎達也 |
| 網羅的プロテオミクスが明らかにする栄養動態変動の機序 | 京都府立医科大学 内科学教室 教授 吉川敏一 |
| 肝臓の栄養代謝からみた食と疾病予防対策 | 大阪大学大学院 医学系研究科 教授 金井好克 |
| 10月20日 医農連携への新たな挑戦 | 金沢大学大学院 医学系研究科 第一内科 教授 金子周一 |
| 前立腺癌の発症機序と食品による予防と改善 | 京都府立医科大学 学長 吉川敏一 |
| 北海道産素材の機能性評価の取り組み | 帝京大学 医学部 泌尿器科講座 主任教授 堀江重郎 |
| 還元型コエンザイムQ10 ～食事からもきちんと摂りたい～ | (株)アミノアップ化学 研究員 三浦健人 |
| アンチエイジング素材としての明日葉カルコン・長命草 | (株)カネカ QOL事業部 幹部職 藤井健志 |
| 大豆由来の脂質代謝調節機能素材PIPSナガセ | タカラバイオ(株) 機能性食品部 大野木宏 |
| 歯周病バイオフィルムを制御する鶏卵抗体(IgY)の開発 | ナガセケムテックス(株) 研究員 渥美祐太 |
| LOX-1を用いた変性LDL(酸化LDL)の活性測定法の確立 | (株)ファーマフーズ 開発部 第2グループ長 山下裕輔 |
| 11月17日 カナダサスカチュワン州Ag-west bioの紹介 | (株)バイオマーカーサイエンス 解析センター長 大木 誠 |
| 温州みかんの三ヶ日コホート研究 | Ag-west bio President Wilf Keller |
| 脱脂大豆からの機能性食品への利用 | (独)農研機構 果樹研 主任研究員 杉浦 実 |
| 植物が生産するヒアルロン酸 | 不二製油(株) 執行役員 廣塚元彦 |
| 生活習慣病予防のための機能性食品研究 | 東洋紡績(株) 総研 柴谷滋郎 |
| 2012年 2月28日 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)の紹介 | 京都府立医科大学 学長 吉川敏一 |
| A-STEP採択研究「消化管は全身の新たな司令塔」 | (独)科学技術振興機構 技術移転プラットフォーム 谷村修也 |
| ドライアイの発症機序と食品による予防と改善 | 京都府立医科大学 消化器内科学 准教授 内藤裕二 |
| 7月2日 緑茶の機能性解明と利用技術の開発 | 慶應義塾大学 医学部 眼科 専任講師 川北哲也 |
| 教職員および大学生における生活習慣病予防のための調査 | (独)農研機構 野菜茶業研 上席研究員 山本(前田)万里 |
| アスタキサンチンによる脂肪肝炎の進展抑止 | 近畿大学 薬学部 医療薬学科 教授 川崎直人 |
| 9月20日 アディポネクチン経路に着目した機能性食品開発 | 金沢大学 医薬保健研究域 准教授 太田嗣人 |
| 肥満予防が期待できる食品素材の開発 | 東京大学大学院 医学系研究科 特任准教授 山内敏正 |
| 清酒から見出されたα-グルコシルブリセロールの機能性 | 辰馬本家酒造(株) 研究開発室 室長 竹中史人 |
| 酒粕から生まれた機能性新素材 プロファイバー | 大関(株) 総合研究所 次長 峰時俊貴 |
| 麹菌產生鉄キレート型環状ペプチド フェリクリシンの機能性 | 月桂冠(株) 総合研究所 副主任研究員 入江元子 |
| 12月21日 薬用食品にメタボリックシンドローム予防物質を探る | 京都薬科大学 教授 吉川雅之 |
| セサミンの抗高血圧作用と血管弛緩作用メカニズム | 大阪薬科大学 病態分子薬理学研究室 教授 松村靖夫 |
| 抗がん剤シスプラチンの副作用緩和における漢方薬の役割 | 星葉科大学 藥動力学教室 教授 杉山 清 |
| 2013年 3月5日 腸管免疫修飾による動脈硬化予防法の開発 | 神戸大学大学院 医学研究科 内科学講座 講師 山下智也 |
| 味覚受容体の機能と消化管における役割 | 味の素(株) イノベーション研究所 フロンティア研グループ長 中村英志 |
| 6月21日 リンゴポリフェノール(プロシアニジン類)の機能性について | (独)農研機構 果樹研究所 庄司俊彦 |
| 医農連携の成果を普及させるための戦略研究 | 神奈川県立保健福祉大学 学長 中村丁次 |
| 9月24日 健康食品の現状と課題 | 公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 理事長 下田智久 |
| 機能性表示健康食品は、実現するか? | 大阪大学大学院 医学系研究科 教授 森下竜一 |
| 11月18日 アルツハイマー病発症機構の解明に向けた基盤的研究 | 岐阜大学大学院 医学系研究科 助教 太田和徳 |
| 海藻起源の機能性食品素材: フコイダンとアガロオリゴ糖 | タカラバイオ(株) バイオ研究所 主任研究員 大野木宏 |
| 生活習慣病対策の新規機能性食品素材 | (株)カネカ QOL事業部 機能性食品グループ 北村志郎 |

現在の事業別活動の経緯と成果

| 講演テーマ | | 講演者(敬称略) |
|-------------|---|---|
| 2014年 2月19日 | 北海道産天然素材を用いた機能性食品素材の開発 ホウレン草糖脂質のがん対策(予防と治療) 食による予防医学～ω3系脂肪酸とアンチオキシダント～ ナノテクノロジーを活用した天然物のヒト受容体と医学応用 | (株)アミノアップ化学 三浦健人 神戸学院大学 宗養学部 准教授 水品善之 東京海洋大学 特任教授 矢澤一良 慶應義塾大学 医学部 医化学教室 教授 末松 誠 |
| 7月18日 | くすりと食品機能に関するネットワークの形成 調剤薬局が期待する健康食品 見た目の科学からみたサプリメントの考え方 | 星葉科大学 薬物治療学教室 教授 亀井淳三 (株)阪神調剤薬局 薬局統括本部研修リーダー 蓬萊哲也 近畿大学 アンチエイジングセンター 教授 山田秀和 |
| 9月29日 | カロテノイド色素β-クリプトサンチンと生活習慣病予防 新たな機能性表示制度の枠組と今後の展望 糖尿病と食生活:酸性体质の恐ろしさ | (独)農研機構 果樹研究所 上席研究員 杉浦 実 名古屋文理大学 フードビジネス科 教授 清水俊雄 京都府立医科大学 大学院 医学研究科 教授 丸中良典 |
| 11月14日 | 『食品薬学』一機能性食品素材に有用なシス~を求めて～ タカラバイオの機能性食品素材について ユビキノール(還元型CoQ10)の抗疲労効果と市場展開 | 近畿大学 薬学総合研究所 准教授 森川敏生 タカラバイオ(株) CDMセンター 課長 大野木宏 (株)カネカ QOL事業部 幹部職 藤井健志 |
| 2015年 2月27日 | スノーデンのプラセンタ・紅参・乳酸菌 抗ストレス食品「アスピラガス茎熱水抽出物(ETAS)」と「ヘルシーDo」 カロテノイド類の生体調節機能に着目した抗メタボ食品提供技術の開発とその効果の実証研究 栄養成分としてのコラーゲンの作用 腸内細菌治療で健康長寿 | (株)アミノアップ化学 学術部 学術開発室 前田哲宏 (株)ニッピ バイオマトリックス研究所 理事・主任研究員 小山洋一 慶應義塾大学 医学部 消化器内科 教授 金井隆典 |
| 6月26日 | 慢性咳嗽時の咳嗽感受性亢進機序とそれに対するマヌカハニーの抑制効果 神経ペプチドGALPによる摂食・エネルギー代謝調節 | 星葉科大学 薬物治療学教室 教授 亀井淳三 星葉科大学先端生命科学研究所 生命科学先導研究センター 教授 塩田清二 |
| 9月25日 | 食物繊維由来腸内細菌代謝物、短鎖脂肪酸と抗肥満 腸内代謝物による免疫修飾作用と炎症性腸疾患 | 東京農工大学 大学院 農学研究院 応用生命化学専攻 准教授 木村郁夫 慶應義塾大学 葉学部 生化学講座 教授 長谷耕二 |
| 11月27日 | 人を対象とした疫学研究における科学的エビデンス メタボロミクスの食品・生薬の官能評価への応用 | 大阪大学 大学院 医学系研究科 臨床統計疫学 教授 新谷 歩 大阪大学 大学院 工学研究科 生命先端工学専攻 教授 福崎英一郎 |
| 2016年 3月7日 | 生体移行性に注目した食品由来ペプチドの機能性研究 食と肥満:腸管の役割 | 京都大学 大学院 農学研究科 教授 佐藤健司 京都大学 大学院 医学研究科 教授 兼 京都大学医学部附属病院 病院長 稲垣暢也 |
| 7月1日 | シート型生体センサによる医療・介護・福祉・ヘルスケアへの貢献～パッチ式脳波センサを例に～ 食品機能とバイオセンター | 大阪大学 産業科学研究所 先進電子デバイス研究分野 教授 関谷 純 大阪大学 大学院 工学研究科 精密化・応用物理学専攻 教授 民谷栄一 |
| 9月26日 | ビフィズス菌GCL2505株の機能性研究 乳酸菌・腸内細菌の新たな脂肪酸代謝－機能性脂肪酸生産と腸内脂質代謝制御への展開－ | 江崎グリコ(株) 健康科学研究所 チームリーダー 滝井 寛 京都大学 大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 応用微生物学講座 助教 岸野重信 |
| 11月25日 | オルガノイド培養法を用いた腸内細菌と宿主の相互作用の研究 健康に寄与する微生物の育成により皮膚疾患を予防する脂肪酸素材 | 慶應義塾大学 医学部 消化器内科 助教 佐々木伸雄 大阪市立工業研究所 生物・生活材料研究部 脂質工学研究室長 永尾寿浩 |
| 2017年 2月27日 | 腸内環境・腸内微生物叢を標的にした高機能農林水産物開発:現状と展望 食品機能性評価のための新規マーカーの探索 | 京都府立医科大学 大学院 医学研究科 准教授 内藤裕二 (公財)神奈川科学技術アカデミー 常勤研究員 亀井飛鳥 |
| 7月5日 | 生活習慣病予防・改善に役立つ希少糖の生理機能 希少糖含有シリップ～レアショガースウィートの食品への利用～ | 香川大学 副学長・医学部 細胞情報生理学 教授 德田雅明 松谷化学会(株) 研究所 課長代理 内山朋子 |
| 9月6日 | リソファジーと生活習慣病 脳による食物摂取の認知とアミノ酸恒常性維持の仕組み～おいしく食べて健康づくり～ | 大阪大学 大学院 医学系研究科 遺伝医学講座 准教授 濱崎万穂 (株)鳥居食情報調節研究所 代表 鳥居邦夫 |
| 12月13日 | 脳腸相関を介したプロバイオティクスの身体症状緩和作用 グリシンの睡眠改善効果 | 徳島大学 大学院 医歯薬学研究部 准教授 西田憲生 味の素(株) イノベーション研究所 グループ長 塩崎 誠 |
| 2018年 2月26日 | 乳酸菌と腸管や炭水化物との相互作用の研究 Microbiome解析への新しいアプローチ:Single cell解析の進展 | 関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科 助教 山崎思乃 早稲田大学 先進理工学部 生命医科学科 教授 竹山春子 |
| 8月8日 | 腸内フローラと健康・疾病 隈篠エキスの育毛効果および活性成分の探索 | 杏林大学 保健学部 学部長 神谷 茂 星葉科大学 副学長 杉山 清 |
| 10月17日 | 腸内細菌叢と循環器疾患・生活習慣病 In Vitroで構築したヒト組織モデルの医療・創薬・食品分野への可能性 | 神戸大学 医学部附属病院 循環器内科 准教授 山下智也 大阪大学 大学院 工学研究科 准教授 松崎典弥 |
| 12月13日 | 皮膚の細菌叢解析と病気 メタボロミクスを用いた歯周病トランフレーショナルリサーチの新展開 | 岡山大学 大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 富田秀太 大阪大学 大学院 歯学研究科 准教授 久保庭雅恵 |
| 2019年 2月22日 | 神戸薬科大学における生涯研修支援事業と健康食品領域研修認定薬剤師制度 健康食品機能性食品研修ポータルサイト“セルフメディケーション.com”的構築と運営 | 神戸薬科大学 エクステンションセンター 講師 鎌尾まや 星葉科大学 生体分子薬理学研究室/応用医療情報研究室 教授 亀井淳三 |
| 7月16日 | JSPS産学協力「未病マーカー」研究委員会の活動と次世代機能性食品の新側面 超高齢社会における新しい認知症予防 | 東京大学 大学院 農学生命科学研究所 応用生命化学専攻 特任教授 阿部啓子 岡山大学 大学院 医歯薬学総合研究科 脳神経内科学 教授 阿部康二 |
| 9月19日 | ディープラーニングを用いた食事画像の自動認識 腸内環境を決める因子は？遺伝子、母子環境、食、環境要因？ | 電気通信大学 大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 教授 柳井啓司 京都府立医科大学 大学院 医学系研究科 消化器内科 准教授 内藤裕二 |
| 11月19日 | 日本食と健康～脳機能を中心として～ ペプチドハンティング～多彩な機能性を示す食品由来ペプチドの発見とそのメカニズム～ | 北海道大学 大学院 工学研究院 客員教授 木曾良信 京都大学 大学院 農学研究科 准教授 大日向耕作 |

現在の事業別活動の経緯と成果

| 講演テーマ | | 講演者(敬称略) |
|-------------|---|--|
| 2020年 1月30日 | マイクロニードル技術を活用した化粧品の最前線 | コスメディ製薬(株) 取締役 権 英淑 |
| 8月25日 | 大豆タンパク質のさらなる可能性 | 不二製油(株) 開発部門 企画室 主席研究員 河野光登 |
| 9月15日 | 腸内細菌に応答する膜タンパク質の機能解析～プレ・プロバイオティクスの効果の検証～ | 星葉科大学 生体分子薬理学研究室 特任講師 今 理紗子 |
| 10月27日 | COVID-19長期化に備えた腸管免疫 | 京都府立医科大学 大学院 医学系研究科 消化器内科学 准教授 内藤裕二 |
| 2021年 2月25日 | ケトン体(β-ヒドロキシ酪酸、BHB)の発酵生産とその利用 | 大阪ガス(株) エネルギー技術研究所 シニアリサーチャー 坪田 潤 |
| 3月23日 | ポスト・ウイズコロナの時代の毛細血管ケア | 大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉伸幸 |
| 5月18日 | 絶食や食品成分により誘導される冬眠様低代謝状態の神経基盤の解明 | 名古屋大学 環境医学研究所 ストレス受容・応答研究部門 神経系分野Ⅱ 特任助教 山口裕嗣 |
| 7月6日 | 生活習慣病予防における骨格筋の役割 | 京都府立大学 生命環境科学研究科 分子栄養学研究室 教授 亀井康富 |
| 9月7日 | 長鎖高度不飽和脂肪酸と脳の健康 | サントリーウエルネス(株) 健康科学研究所 研究主幹 金田喜久 |
| 11月11日 | 実験動物に優しい新しい食品機能評価法の開発～腎臓障害からサルコペニア～ | 広島大学 大学院 統合生命科学研究科 分子栄養学研究室 所長 植木鶴彦 |
| 12月1日 | 魚肉タンパク質および魚肉ペプチドの健康機能性 | (株)鈴廣蒲鉾店 製造チーム 研究開発部 部長 兼 魚肉たんぱく研究所 所長 植木鶴彦 |
| 3月8日 | 機械学習を取り入れた全身循環の血流シミュレーション | 東京大学 大学院 情報学環 教授 大島まり |
| 5月18日 | 毛細血管の健康(ヘスペリジンを例として) | 江崎グリコ(株) 応用研究室 宅見央子 |
| 7月6日 | 生活習慣病の性差と機能性食品開発のターゲット | 大阪府立大学 大学院 生命環境科学研究科 准教授 原田直樹 |
| 9月7日 | 眼精疲労を含む視機能の加齢性変化への取り組み | ロート製薬(株) 営業企画推進部 学術情報グループ 植松由起 |
| 11月11日 | 皮膚感覺の分子メカニズムとその応用 | (株)マンダム 基礎研究所 ライフサイエンス研究室 室長 藤田郁尚 |
| 12月1日 | 食で健康維持をはかる～軽度不調改善による仕事のパフォーマンス向上に資する食 | 農研機構 食品研究部門 主席研究員 山本(前田)万里 |
| 2022年 1月20日 | Well-being実現に向けた機能性食品の役割 | 京都府立医科大学 大学院 医学研究科 教授 内藤裕二 |
| 3月8日 | 日本食から考える機能性素材 | 順天堂大学 健康総合科学先端研究機構 客員教授 亀井淳三 |
| 6月23日 | オルガノイドが切り拓く腸内細菌研究 | 群馬大学生体調節研究所 粘膜エコシステム制御分野 教授 佐々木伸雄 |
| 9月6日 | 柑橘成分の脳保護作用の研究および食品素材への展開 | 松山大学 名誉教授 古川美子 |
| 11月12日 | 肥満に伴う代謝異常症の予防・改善に有用な食品素材の探索と機能解析 | 京都大学 大学院 農学研究科 准教授 後藤 剛 |
| 12月1日 | 健康寿命延伸のための毛細血管強化と機能性食品の役割 | 神戸大学 大学院 保健学研究科 教授 藤野英己 |
| 2023年 3月16日 | 高水溶性カルシウム・リン酸化オリゴ糖カルシウムの食を介したオーラルケアへの応用 | 江崎グリコ(株) 応用研究室 田中智子 |
| 6月23日 | 医学から機能性食品研究へ～疾病予防の要としての食品～ | (公財)ルイ・パストゥール医学研究センター 理事長 吉川敏一 |
| 9月6日 | 食と微生物と健康 | 京都大学 大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 教授 小川 順 |
| 11月12日 | 水溶性食物繊維の機能性を考える | 京都府立医科大学 大学院 医学研究科 教授 内藤裕二 |
| 12月1日 | 機能性食品開発のためのゲノム編集技術の活用 | (株)セツロテック 代表取締役CEO 竹澤慎一郎 |
| 2024年 3月12日 | 老化研究による新たな生活習慣病治療法の探索 | 大阪大学 大学院 医学系研究科 健康発達医学寄附講座 教授 中神啓徳 |
| 6月18日 | オートファジー活性調整によるビヨンドエイジングの可能性 | (株)AutoPhagyGO 代表取締役社長 石堂美和子 |
| 12月12日 | 食のパーソナライズと今後の展望 | (株)AIIVICK 代表取締役 矢津田智子 |
| 2025年 3月4日 | ポリフェノールの健康効果を腸から紐解く | 星葉科大学 生体分子薬理学研究室 特任講師 今 理紗子 |
| 6月13日 | 菌群デフリエクリシンの機能性食品素材としての可能性 | 月桂冠(株) 総合研究所 副主任研究員 戸所健彦 |
| 9月12日 | 京丹後長寿研究から見えてきた健康～腸内細菌～食事関連 | 京都府立医科大学 大学院 医学研究科 生体免疫栄養学講座 教授 内藤裕二 |
| 11月12日 | 食物繊維による短鎖脂肪酸を介した代謝機能改善作用と機能性食品素材応用 | 京都大学 大学院 生命科学研究所 生体システム学分野 教授 木村郁夫 |
| 12月12日 | 腸内細菌と認知症:食品から展望する認知症予防 | 国立長寿医療研究センター もの忘れセンター 医長・副センター長 佐治直樹 |
| 2026年 3月12日 | 腸内細菌と認知症:食品から展望する認知症予防 | 摂南大学 農学部 応用生物科学動物機能科学研究所 教授 井上 亮 |
| 6月18日 | エンテロタイプと機能性食品 | 摂南大学 農学部 応用生物科学動物機能科学研究所 教授 井上 亮 |
| 12月12日 | TREM2に着目した糖尿病認知症の新規認知症評価系の開発と植物由来フラボノイド・タキシフォリンの展開医療 | 国立病院機構京都医療センター 腸研究センター 内分泌代謝高血圧研究部 部長 浅原哲子 |
| 2027年 3月4日 | 健康な食と生殖能力の関係:マウスを用いて神経回路の観点から | 国際研究開発人理化研究所 生命機能科学研究センター 神戸/再生・再生研究棟新規 比較コネクタクス研究チーム 宮崎和哉 |
| 6月30日 | 骨格筋と腸のクロストークから考える食品機能 | 京都府立大学 大学院 生命環境科学研究科 栄養科学 准教授 青井 涉 |
| 9月3日 | クロダイズポリフェノールの血管機能向上効果について | 神戸大学 大学院 農学研究科 教授 芦田 均 |
| 12月3日 | 筋萎縮に有効な機能性宇宙食の開発 | 京都府立医科大学 大学院 医学研究科 生体免疫栄養学 教授 内藤裕二 |
| 9月3日 | 生活より軽減化の新規見つけ出しセサイン/骨髄細胞による血管新生～心外膜脂肪と毛細血管Vasa Vasorum～ | 徳島大学 大学院 医歯薬学研究部 循環器内科学分野 教授 佐田政隆 |
| 12月3日 | 骨格筋と腸のクロストークから考える食品機能 | 大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉伸幸 |
| 12月3日 | 認知症基本法と最近の施策の動向:生活習慣病の視点から | 国際研究開発人理化研究所 国立長寿医療研究センター もの忘れセンター 客員研究員 佐治直樹 |
| 12月3日 | 腸内環境を守るPaneth細胞・αディフェンシンの健康と疾患における役割 | 北海道大学 大学院 先端生命科学研究所 教授 中村公則 |
| 2028年 3月4日 | 骨格筋Microphysiological Systems(MPS)を活用した機能性食品開発 | 名古屋大学 大学院 工学研究科 生命分子工学専攻 准教授 清水一憲 |
| 6月30日 | 認知症の回復を目指したと漢薬研究 | 富山大学 和漢薬学総合研究所 神經機能学領域 教授・副所長 東田千尋 |
| 9月3日 | 食品成分がもつ免疫調節機能 | 十文字園女子大学 人間生活学部 食品開発学科 教授 辻 典子 |
| 12月1日 | 感覚栄養学とポリフェノール | 芝浦工業大学 システム理工学部 教授 越阪部奈緒美 |
| 12月1日 | 食品機能とマイクロRNA | 九州大学 大学院農学研究院 生命機能科学部門 食料科学工学講座 食糧化学分野 主幹教授 立花宏文 |
| 12月1日 | カロテノイドとビタミンAによる骨格筋の調節 | 大阪公立大学 大学院農学研究科 生命機能化学専攻 助教 北風智也 |
| 12月1日 | 腸内細菌叢～宿主のクロストークを媒介するマイクロRNAと食餌要因 | 北海道大学 大学院農学研究院 基盤研究部門 生命機能化学分野 食糧化学研究室 教授 園山 慶 |
| 12月1日 | 自身の脂肪酸バランスの状態を知って、日々の食生活に活かそう | 麻布大学 発展センター 株式会社 食機能探索研究所 BABILON 取締役 原馬明子 |
| 12月1日 | 中枢NAD+代謝に着目した中枢-骨格筋連関とサルコペニアについて | 駒澤大学 互連接制御センター シロワズ研究所 基盤研究部門 生命機能学分野 助教 加賀チホ |
| 12月1日 | ヒトiPS細胞を活用した骨格筋研究:萎縮および筋分化に関する話題提供 | 東京大学 大学院農学生命科学研究所 応用生命化学専攻 教授 山内祥生 |

毛細血管ラボ・ 社会実装コンソーシアム

2021年～現在



大阪大学
微生物病研究所
教授 高倉伸幸

開催趣旨

高齢者の健康維持、医療費増大などを解決するためには、未病の段階で病気への進行を止めるセルフケアが重要であり、その実現には手軽に健康状態をチェックできる指標が必要となる。毛細血管計測画像は、特定の疾患、老化、疲労、ストレスなどの健康状態と関連する指標として活用できる可能性がある。毛細血管計測画像を用いて、会員の研究・ビジネスの発展に貢献し、かつ、当該画像を健康指標として確立すること、およびその社会実装を進めることを目的に活動を展開している。

運営体制

委員長 高倉伸幸 (大阪大学微生物病研究所 教授)

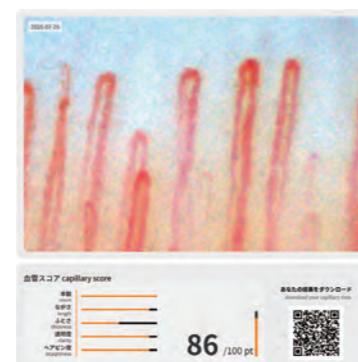
副委員長 武野團 (あっと(株) 代表取締役)

事務局長 国松武史 (NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 理事・事務局長)

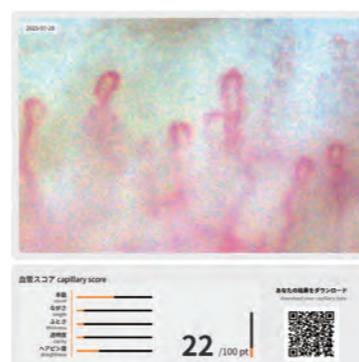
法人会員 10社 / 個人会員 3名



毛細血管観察装置



健康な人の毛細血管画像



ゴースト化した毛細血管画像

2020年12月10日 オープンセミナー ※オープン

毛細血管の老化・劣化と加齢関連疾患の関係 一ゴースト血管による治療抵抗性－
線内障診療における爪床毛細血管測定の活用の可能性
毛細血管スコープの研究および社会実装の現状と構想

大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野 教授/大阪大学 総長補佐 高倉伸幸
東北大学大学院 医学系研究科 神経・感覚器病態学講座眼科学分野 教授 中澤徹
あっと株式会社 代表取締役 武野團

2021年4月14日 第2回オープンセミナー ※オープン

血流美人!ゴースト血管を作らないために
毛細血管の健康に寄与する商品開発

金沢医科大学 総合内科学 准教授 赤澤純代
ヘルスケア商品企画開発コンサルタント 藤井千春

2021年8月20日 (発足後)第1回オープンセミナー ※オープン

機能性表示食品取得を見据えた毛細血管測定の利用

たしかにプラス株式会社 代表取締役 深谷泰亮

2021年11月8日 (発足後)第2回オープンセミナー ※オープン

血管機能の非侵襲的評価法としての爪床毛細血管指標の可能性

愛媛大学大学院 抗加齢医学(新田ゼラチン)講座教授/
愛媛大学医学部附属病院 抗加齢予防医療センター長 伊賀瀬道也

2022年3月29日 (発足後)第3回セミナー ※会員限定

血管形成に関わる薬剤・食品開発の試験法
毛細血管の老化予防に着目した植物素材の開発～植物原料メーカーの挑戦～
未来社会健康デザイン拠点について 紹介

大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授/大阪大学 総長補佐 高倉伸幸
丸善製薬株式会社 研究開発本部 基盤技術研究科 主任研究員 大戸信明
東北大学 医学部 眼科学教室 主任教授 中澤徹

2022年7月21日 2022年度 会員総会・第1回研究会 ※会員限定

毛細血管を対象とした未病・疾患対策
毛細血管研究の進展、毛細血管指標を用いた臨床試験の事例報告
健康経営の現状と毛細血管指標の健康経営企業での活用に関して

大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授/大阪大学 総長補佐 高倉伸幸
あっと株式会社 代表取締役 武野團 あっと株式会社 CSO 中野譲
あっと株式会社 白田明生

2022年10月4日 2022年度 第2回研究会 ※会員限定

大動脈・細動脈・毛細血管と運動トレーニング
炎症をターゲットにした非感染性疾患(NCDs)
Cardiometabolic Diseases の予防と治療
共同研究提案

流通経済大学 スポーツ健康科学部 教授 大槻毅
認定NPO法人アジア太平洋心臓病学会 理事長 松森昭

あっと株式会社 代表取締役 武野團

2023年1月12日 2022年度 第3回研究会 ※オープン

血行促進と予防医学

健康社会の実現に向けた腸内環境の見える化と血管・毛細血管との関連可能性

早稲田大学 ナノ・ライフ創成研究機構 規範科学総合研究所
ヘルスフード科学部門 部門長 矢澤一良
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所／
ワクチン・アジュバント研究センター センター長 國澤純

2023年3月28日 2022年度 第4回研究会 ※会員限定

コンソーシアム会員様との意見交換会

大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授/大阪大学 総長補佐 高倉伸幸
あっと株式会社 代表取締役 武野團

2023年7月11日 2023年度 会員総会・第1回研究会 ※会員限定

最近の血管の研究データ
コンソーシアムの今後の計画と分担案

大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授/大阪大学 総長補佐 高倉伸幸
あっと株式会社 代表取締役 武野團

2023年8月24日 2023年度 第2回研究会 ※会員限定

機能性食品成分による生活習慣改善への毛細血管指標の活用

東北大学 名誉教授 特任教授 駒井三千夫

2023年12月5日 2023年度 第3回研究会 ※会員限定

毛細血管の可視化と再生医療
毛細血管顕微鏡を用いたウロリチンA含有素材による血管改善効果

大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉伸幸
ダイセル株式会社 ヘルスケアSBU 事業推進室 事業戦略グループ 卵川裕一

2024年2月14日 2023年度 第4回研究会 ※会員限定

毛細血管病である全身性強皮症
毛細血管最新研究の紹介－「毛細血管論文と解析システム紹介」

大阪大学大学院医学系研究科 血管作動温熱治療学共同研究講座/免疫内科 鳴良仁
あっと株式会社 代表取締役 武野團

2024年7月23日 2024年度 会員総会・第1回研究会 ※会員限定

最新の毛細血管研究動向
食と健康と毛細血管の関わり～ポリフェノール研究者の取り組み～
毛細血管指標のPHR連携

大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉伸幸
損南大学 農学部食品栄養学科 准教授 岸本良美
あっと株式会社 代表取締役 武野團

2024年9月3日 2024年度 第2回研究会 ※生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会と合同開催

動脈硬化の新知見とケルセチン配糖体による血管新生
～心外膜脂肪と毛細血管Vasa Vasorum～
毛細血管の維持がもたらす健康寿命の延伸

徳島大学大学院医歯薬学研究部 循環器内科学分野 教授 佐田政隆
大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉伸幸

2024年12月20日 2024年度 第3回研究会 ※会員限定

皮膚老化と毛細血管とのかかわり

資生堂株式会社 みらい開発研究所 シーズ開発センター
センター長(Vice President) 加治屋健太郎

2025年2月17日 2024年度 第4回研究会 ※会員限定

健康長寿を支える血管・リンパ管機能の維持とその実現に向けて
毛細血管へのアプローチを目指した健康食品の研究開発について

東京科学大学 大学院 医歯学総合研究科 病態生化学分野 教授 渡部徹郎
全薬販売株式会社 パワーライン営業部 学術開発課 課長 桜庭大樹

2025年7月1日 2025年度 会員総会・第1回研究会 ※会員限定

臓器間ネットワークによる代謝恒常性制御機構～発見から応用へ～

東北大学 SiRIUS(医学イノベーション研究所)所長／副理事 片桐秀樹

2025年8月6日 2025年度 第2回研究会 ※オープン

サルコペニアにおけるゴースト血管の関与
セルフ型毛細血管スコープによるエビデンススペースヘルスケアと社会実装の可能性
爪先毛細血管指標と毛細血管に関わる機能性表示に向けて

大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉伸幸
あっと株式会社 代表取締役 武野團
あっと株式会社 藤井千春

2025年11月18日 2025年度 第3回研究会 ※会員限定

血管の形成・機能維持と疾患・加齢に伴う破綻
着るだけで血行促進させる衣服技術

日本医科大学 福原茂朋
MTG社 GISHW 大阪・関西万博関連イベント 動画配信

バイオの次世代を考える会

バイオの次世代を考える会 2016年～2020年

次世代を担うアカデミアと企業の若手研究者が集い、違う立場から共通の接点や役割を見いだし、新しい展開や創造につなげる異業種交流の場として「バイオの次世代を考える会」を立ち上げ、交流活動を実施した。

第1回 けいはんな地区におけるサントリーの取組み

- 高橋 賢蔵（サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社 会長）
- 重松 千昭（公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構 参与 PDMM支援センター 総括部長）
- 馬場 健史（九州大学 生体防御医学研究室 附属トランスオミクス医学研究センター メタボロミクス分野 教授）

第2回 ご挨拶と会社紹介

- 藤田 克哉（大日本住友製薬株式会社 研究本部 研究企画 GM）
- 中塚 徹（大日本住友製薬株式会社 人事（人材育成）担当 シニアオフィサー）
- 田中 孝幸（研究本部研究管理部 人材企画G 人材育成担当主任）
- 木村 徹（大日本住友製薬株式会社 取締役執行役員）
- 荻野 千秋（神戸大学大学院 工学研究科 応用化学専攻 教授）

第3回 カネカのバイオテクノロジーへの取り組み

- 八十原 良彦（株式会社カネカ バイオテクノロジー開発研究所 上席幹部）
- 植田 充美（京都大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 教授）

第4回 田辺三菱製薬をAIでどうデザインするか？

- 清水 良（田辺三菱製薬株式会社 執行役員 フューチャーデザイン部 部長）
- 大野 研（創薬基盤研究所 研究員）
- 内山 進（大阪大学大学院 工学研究科 生命先端工学専攻 教授）

第5回 パナソニックのご紹介

- 吉岡 俊彦（パナソニック株式会社 テクノロジーイノベーション本部 センサ・デバイス研究所 所長）
- 岡澤 敦司（大阪府立大学 生命環境科学研究所 準教授）

第6回 大塚製薬（株）の紹介

- 中澤 徹（大塚製薬株式会社 創薬戦略部 戰略企画室 室長）
- 松浦 友亮（大阪大学大学院工学 研究科生命先端工学 準教授）

第7回 経験と考え方～ベンチャーキャピタルの視点から

- 北岡 侑子（日本ベンチャーキャピタル株式会社 常務執行役員）

第8回 加藤朝胤管主による寺院案内および講話

- 近畿バイオ 著者全員

バイオの次世代を考える会 再スタート 2024年～現在

次世代を担う産学官の若手のネットワーク形成と、オープンイノベーションに繋がる異業種交流活動を目的として活動を再スタートした。今後、バイオテクノロジーがわが国のイノベーションの核となるよう期待されるためには、各分野において最新の研究に携わっている産学官のバイオニューリーダーの密な協力が不可欠と考え、アカデミア・産業界から最新の研究を紹介し、議論するとともにバイオエコノミーを推進し、関西におけるエコシステムを根付かせることを目的に活動している。

座長 青木 航（大阪大学 大学院工学研究科 教授）

副座長 蓮沼 誠久（神戸大学先端バイオ工学研究センター・センター長 教授）

白石 晃将（京都大学大学院農学研究科 助教）

菅原 雄一（塩野義製薬株式会社 ワクチン事業本部）

メンバー 関谷 毅（大阪大学 産業科学研究所 教授）

三浦 夏子（大阪公立大学大学院 農学研究科 准教授）

山崎 聖司（大阪大学 産業科学研究所 准教授）

村木 倫子（大阪大学 経営企画オフィス 教授）

高田 啓（富山県立大学 工学部 生物工学科／生物・医薬品工学研究センター 講師）

西藤 真太郎（近畿経済産業局 地域経済部 バイオ・医療機器技術振興課 課長補佐）

中村 修士（NTT西日本株式会社 ビジネス営業本部 主査）

朝見 陽次（サントリーホールディングス株式会社 イノベーション企画部）



第1回 バイオを取り巻く周辺状況に関するセミナー（知財・法務・財務）

スタートアップの財務戦略

- 三澤 宏之（みやこキャピタルパートナー）

法務戦略

- 中森 亘（北浜法律事務所 弁護士）

国際知的戦略の現状

- 駒谷 剛志（高島特許法律事務所 弁理士）

第2回 オープンイノベーション（産学連携）の成功事例共有

新規抗CCR8抗体S-531011の創製から学ぶ産学連携の意義

- 柳楽 康史（塩野義製薬株式会社 創薬開発研究所 がんransレーショナル・リサーチ 領域長）

異分野への挑戦—サプリメント原料・発酵ケトン体D-BHBの発酵生産—

- 坪田 潤（大阪ガス株式会社 エネルギー技術研究所 フェロー）

食による健康長寿社会の実現に向けた取り組み～セルフケアード協議会の近況～

- 堅田 一哉（株式会社島津製作所東京支社 産学官・プロジェクト推進室 特任部長）

花事業を研究開発の力で育てる～ベンチャー企業や官学との連携～

- 田中 良和（元サントリーホールディングス株式会社）



第3回 活動提案・意見交換

バイオエコノミー推進における日本の課題について

第4回 意見交換

日本のバイオテクノロジーを加速させる未来戦略・グラントデザインを議論する

第5回 意見交換

合成生物学の現状と将来展望



関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー

2014年～現在

ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の先生方にご講演をいただき、製薬企業、医療機器企業、診断薬企業、健康食品、サプリ、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションおよび産業化へのイマジネーションを感じていただき、産官学にわたる組織横断的なコミュニティーを醸成して産官学の対話を促進することを目的として開始した。毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題を提供いただき、講師の先生と直接お話しいただける場を提供している。当初は全10回を予定していたが、好評のため継続している。

モダレーター 大阪大学共創機構 特任教授 坂田 恒昭
大阪大学大学院 医学研究科 教授 竹田 潔

共 催 公益財団法人都市活力研究所



坂田 恒昭

竹田 潔

講演一覧

- 第1回**
2014年9月30日
参加人数: 61
炎症性腸疾患の発症機構の解析
●竹田 潔 (大阪大学大学院 医学系研究科・免疫制御学、免疫学フロンティア研究センター 教授)
核酸医薬開発の現状と将来展望
●小比賀 聰 (大阪大学大学院 薬学研究科 教授)
- 第2回**
2014年12月15日
参加人数: 59
メタボリックシンドロームの病態学と治療標的
●下村伊一郎 (大阪大学大学院 医学系研究科 内分泌代謝内科学 教授)
計算生物学によるシステムの理解から創薬へ
●水口賢司 (医薬基盤研究所 プロジェクトリーダー)
- 第3回**
2015年3月4日
参加人数: 44
がん細胞のアミノ酸取り込みを標的としたがんPET診断と抗腫瘍治療の開発
●金井好克 (大阪大学大学院 医学系研究科 生体システム薬理学 教授)
スーパーコンピュータで挑む創薬と医療
●奥野恭史 (京都大学大学院 医学研究科 臨床システム腫瘍学 特定教授)
- 第4回**
2015年6月12日
参加人数: 67
アレルギーとがん免疫に対するアジュvant開発研究の新展開
●石井 健 (医薬基盤・健康・栄養研究所 創薬デザイン研究センター センター長)
米国における臨床ビッグデータを用いた観察研究
●新谷 歩 (大阪大学大学院 医学系研究科 寄附講座 教授)
- 第5回**
2015年9月11日
参加人数: 51
日本の免疫研究とその臨床応用 ~疾患の鍵分子セマフォリン研究も含めて~
●熊ノ郷淳 (大阪大学 免疫学研究フロンティアセンター 教授)
我が国発のバイオ医薬の創出に向けて ~抗体医薬にフォーカスして~
●堤 康央 (大阪大学大学院 薬学研究科 教授)
- 第6回**
2015年12月11日
参加人数: 45
細胞の守護者オートファジー:細胞の自己分解システムが様々な疾患を抑制している
●吉森保 (大阪大学大学院 医学系研究科 遺伝学教室 特別教授)
第3世代抗体医薬品の開発に必須のアダプター分子の設計
●井上豪 (大阪大学大学院 工学研究科 教授)
- 第7回**
2016年3月11日
参加人数: 59
iPS細胞がもたらす新たな軟骨疾患研究
●妻木範行 (京都大学 iPS細胞研究所 教授)
復活した遺伝子治療 ~最近の成果と課題~
●金田安史 (大阪大学大学院 医学系研究科 教授)
- 第8回**
2016年6月10日
参加人数: 50
生体内骨髄間葉系幹細胞を標的とした体内再生誘導医療開発の現状と未来
●玉井克人 (大阪大学大学院 医学系研究科 再生誘導医学寄附講座 教授)
京都大学発アカデミア創薬 一卓越した基礎研究から医師主導治験まで
●萩原正敏 (京都大学大学院 医学系研究科 教授)
- 第9回**
2016年9月21日
参加人数: 64
最新の生体イメージング技術で捉える免疫炎症・骨破壊の動的実体
●石井 優 (大阪大学大学院 医学系研究科・生命機能研究科 免疫細胞生物学 AMED・JST, CREST 教授)
中枢神経障害に対する再生治療戦略
●山下俊英 (大阪大学大学院 医学系研究科 教授)
- 第10回**
2016年12月6日
参加人数: 44
mRNA分解による炎症調節メカニズム
●竹内理 (京都大学 ウィルス・再生医科学研究所 AMED-CREST, AMED 教授)
遺伝統計学で迫る疾患病態の解明とゲノム創薬
●岡田随象 (大阪大学大学院 医学系研究科 遺伝統計学 教授)
- 第11回**
2017年3月9日
参加人数: 41
実用化された最新クライオ電顕技術 ~創薬への応用~
●岩崎憲治 (大阪大学 蛋白質研究所 准教授)
腸内環境が導く生体応答の基礎的解明と健康科学への新展開
●國澤純 (医薬基盤・健康・栄養研究所 プロジェクトリーダー)



第36回風景(2023年7月3日)

第12回2017年6月1日
参加人数: 62

ゲノム編集技術の進歩と課題

- 伊川正人 (大阪大学 微生物病研究所 教授)
- インフルエンザウイルスの増殖機構
- 野田岳志 (京都大学ウイルス研究所 ウィルス微細構造研究領域 教授)

第13回2017年9月15日
参加人数: 71

人工知能で精神疾患・発達障害を再定義し治療する

- 川人光男 (株)国際電気通信基礎技術研究所 通称ATR、脳情報通信総合研究所 所長)
- 腎臓の「治る」と「治らない」の境界線はどのように決まるのか
- 柳田素子 (京都大学大学院 医学研究科腎臓内科学 教授)

第14回2017年12月1日
参加人数: 42

HIVインテグラーゼ阻害薬ドルテグラビルの創薬と開発の道程

- 藤原民雄 (塩野義製薬株式会社 HIV Integrase Inhibitor グローバルプロジェクトリーダー)
- 腸管IgA抗体による腸内細菌選別とその制御
- 新蔵礼子 (奈良先端科学技術大学院大学→2017/11/1～ 東京大学分子細胞生物学研究所 バイオサイエンス研究科 教授)

第15回2018年3月8日
参加人数: 40

眼とiPS細胞の未来

- 西田幸二 (大阪大学大学院 医学系研究科 脳神経感覚器外科学(眼科学) 教授)
- 向社会性の脳内メカニズムとストレス
- 春野雅彦 (情報通信研究機構(NICT) 脳情報通信融合研究センター 脳情報工学研究室 研究マネージャー)

第16回2018年7月3日
参加人数: 74

細胞老化による発がん制御機構の解明とその制御

- 原英二 (大阪大学 微生物病研究所 遺伝子生物学分野 教授)
- iPS細胞を用いた再生医療の実用化に向けて
- 木村徹 (大日本住友製薬(株) 取締役 執行役員)

第17回2018年9月27日
参加人数: 44

ウイルス感染に対する宿主核内システムの応答機構

- 今井由美子 (医薬基盤・健康・栄養研究所 感染病制御ワクチンプロジェクト プロジェクトリーダー)
- 体内時計メカニズムと調節機構
- 大西芳秋 (産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 副部門長)

第18回2018年12月5日
参加人数: 72

英国のゲノム医療の研究開発:実績と今後の展望

- 英國領事館/Genomics Englandとコラボ開催

第19回2019年3月5日
参加人数: 34

ネットワーク構造から生まれる命システムの恒常性

- 望月敦史 (京都大学 ウィルス・再生医科学研究所/理化学研究所 望月理論生物学研究室 教授)
- 多発性骨髄腫に対する新規CAR T細胞療法の開発
- 保仙直毅 (大阪大学大学院 医学系研究科 癌幹細胞制御学 寄附講座准教授)

第20回2019年6月25日
参加人数: 64

ライフサイエンス・オープンソースへの私感

- 坂田恒昭 (大阪大学 サイバーメディアセンター 招聘教授)
- 炎症性腸疾患の病態解明をめざした腸管恒常性の維持機構の解析
- 竹田潔 (大阪大学大学院 医学系研究科 教授)

第21回2019年9月4日
参加人数: 67

大腸菌研究からのネットワーク生物学への展開

- 森浩穎 (奈良先端科学技術大学院大学 データ駆動型サイエンス創造センター システム微生物学 教授)
- 腸内細菌叢とがん ~腸内細菌関連因子による肝がんの進展機構~
- 大谷直子 (大阪市立大学大学院 医学研究科 教授)

第22回2019年12月9日
参加人数: 46

細胞動態からみた皮膚免疫反応

- 本田哲也 (京都大学医学部附属病院 皮膚科 講師)
- 医療データ二次活用環境構築のためのロードマップ
- 松村泰志 (大阪大学大学院 医学系研究科 情報統合医学講座 医療情報学 教授)

第23回

※2020年3月に開催を予定していた第23回セミナーは新型コロナウイルス感染拡大の影響により急遽中止となった

脳波センシング技術とAI技術が生み出す医療・ヘルスケア創生 ~ブレインビッグデータを活用した予防・治療の開拓~

- 関谷毅 (大阪大学 総長補佐・誉教授 大阪大学産業科学研究所 教授)
- 「血管内皮幹細胞を用いた新しい血管再生療法の開発」
- 高倉伸幸 (大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野 教授)

第24回2020年6月25日
参加人数: 132

WEB開催

白血病を発症させる原因遺伝子の解明 一生まれた時から白血病は始まっている

- 牧島秀樹 (京都大学大学院 医学研究科 腫瘍生物学講座 準教授)
- 新しい医薬品としてのラクダ科動物由来VHH抗体
- 萩原義久 (産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 研究部門長)

第25回2020年9月29日
参加人数: 80

K値をもじった解析で分かった新型コロナ感染拡大の特徴

- 中野貴士 (大阪大学 核物理研究センター長)
- 新型コロナウイルスの性状とワクチン開発の現状
- 松浦善治 (大阪大学 微生物病研究所 教授)

第26回2020年12月11日
参加人数: 88

WEB開催

新型コロナウイルス等の感染症検査用超高速リアルタイムPCRシステムの開発

- 永井秀典 ((国開)産業技術総合研究所 先端フォトニクス・バイオセンシングオーブンソースラボラトリ 研究グループ長)
- スポーツ医学からの健康研究・情報科学とバイオインダストリー:東京オリンピックとCOVID-19を迎えて
- 中田研 (大阪大学大学院 医学系研究科 健康スポーツ科学講座 スポーツ医学教室 教授)

第27回2021年3月2日
参加人数: 84

WEB開催

ゼブラフィッシュを用いた循環臓器発生学研究

- 望月直樹 (国立循環器病研究センター 理事 研究所長)
- ポストコロナ時代における多剤耐性菌感染症克服に関する研究
- 西野邦彦 (大阪大学産業科学研究所 教授)

第28回2021年6月9日
参加人数: 78

WEB開催

| | |
|-------------|---|
| 第29回 | IPS細胞を材料とした汎用性即納型T細胞製剤の作製 一急性骨髓性白血病の治療へ向けた開発研究とウイルス感染症への応用— ●河本 宏 (京都大学 ウィルス・再生医科学研究所 副所長 再生免疫学分野 教授) |
| 第30回 | 感染症の重症化機構:マラリアから新型コロナウイルス感染症 ●荒瀬 尚 (大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 免疫化学研究室/微生物病研究所 免疫化学分野 教授) |
| 第31回 | ヒト嗅覚受容体セルアレイセンサーが拓く新しいにおいビジネス ●黒田 俊一 (大阪大学産業科学研究所 教授/株式会社香味醸酵 創業者・CSO・取締役) 炎症応答を制御するユニークなユビキチン修飾系と炎症性疾患への寄与 ●岩井 一宏 (京都大学大学院 医学研究科 研究科長 教授) |
| 第32回 | 全ゲノム解析等を用いた網羅的ゲノム解析による消化器神経内分泌腫瘍の病態解明 ●谷内田 真一 (大阪大学大学院 医学系研究科 医学専攻 ゲノム生物学講座・がんゲノム情報学 教授/ 国立がん研究センター研究所 ゲノム医科学分野 分野長) 「消化器がんの自然史に沿った疾患モデルの構築と応用」 ●妹尾 浩 (京都大学大学院 医学研究科 消化器内科学 教授) |
| 第33回 | 工学的な臓器モデルの現状と課題、将来展望 ●松崎 典弥 (大阪大学大学院 工学研究科 応用化学専攻 教授) 生理活性合成化合物の新しい世界 ●上杉志成 (京都大学化学研究所 教授/京都大学物質-細胞統合システム拠点 副拠点長) |
| 第34回 | QbDに基づく細胞製剤製造の現状と展望 ●川真田伸 ((公財)神戸医療産業都市推進機構 細胞療法研究開発センター センター長) ヒト多能性幹細胞由来オルガノイド作製と眼の再生医療への利用 ●林竜平 (大阪大学大学院 医学系研究科 寄附講座 教授) |
| 第35回 | 感染症ワクチンの最適化に資する基盤技術構築 ●林竜平 (大阪大学先導的学際研究機構・微生物病研究所 特任教授) 表皮の恒常性維持機構とその破綻の病態生理 ●久保亮治 (神戸大学大学院 医学研究科 内科系講座皮膚科学分野 教授) |
| 第36回 | 量子化学計算を用いた構造生命科学研究 ●福澤 薫 (大阪大学大学院 薬学研究科 量子生命情報薬学分野 教授) 黄色ブドウ球菌オラムセンシングの皮膚および全身感染症における役割 ●松岡悠美 (大阪大学免疫学フロンティア研究センター 皮膚アレルギー生体防御 教授) |
| 第37回 | 脳AI融合の臨床応用 ●柳澤琢史 (大阪大学 高等共創研究院 教授) T細胞の老化と再生 ●濱崎洋子 (京都大学IPS細胞研究所 副所長・教授/京都大学医学研究科 免疫生物学 教授) |
| 第38回 | 組換え蛋白質の超高効率生産を実現する鶏卵バイオリアクター ●大石 勲 (産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 副研究部門長) リンパ球動態を標的とした自己免疫疾患の新規治療法の開発に向けて ●鈴木一博 (大阪大学免疫学フロンティア研究センター 教授/大阪大学感染症総合研究教育拠点 教授) |
| 第39回 | 生命的試験管内再構成とその再発明への挑戦 ●青木航 (大阪大学大学院 工学研究科 教授) |
| 第40回 | マルチオミクス解析による小児がんの病態理解と新規克服法の開発 ●滝田順子 (京都大学大学院 医学研究科 教授) |
| 第41回 | がん抑制因子活性化創薬によるがん治療刷新を目指す ●片桐豊雅 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 所長) AI×量子×バイオの融合 ●谷口正輝 (大阪大学 産業科学研究所 教授) |
| 第42回 | データ駆動的患者層別化と創薬標的の探索に向けたAI開発 ●夏目やよい (医薬基盤・健康・栄養研究所 AI健康・医薬研究センター センター長代行・バイオインフォマティクスプロジェクト プロジェクトリーダー/ 徳島大学 先端酵素学研究所 特任教授(併任)/大阪大学 蛋白質研究所 特任教授(併任)) |
| 第43回 | 生体イメージングによる難治性疾患の病態理解と創薬への応用 ●菊田順一 (神戸大学 大学院医学研究科 未来医学講座 免疫学分野 教授) |
| 第44回 | 生物発光が持つ多様な応用展開 一生理活性物質の探索から農薬検出までー ●近江谷克裕 (産業技術総合研究所 生命工学領域 主席研究員) |
| 第45回 | ゲノム編集スクリーニングを用いたがんの新しい病態理解と治療応用 ●井上大地 (大阪大学大学院医学系研究科 生命機能研究科(兼任)がん病理学 教授) |
| 第46回 | 代謝経路を測定してバイオものづくりに活用する ●松田史生 (大阪大学大学院 情報科学研究科 教授) |
| 第47回 | 腸内細菌叢のメタゲノム解析を基盤とした新規治療法の開発 ●植松智 (大阪公立大学大学院 医学研究科 ゲノム免疫学 教授/東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター メタゲノム医学分野 特任教授) |
| 第48回 | オルガノイドを用いた肝疾患治療 ●武部貴則 (大阪大学大学院 医学系研究科 ヒューマン・メタバース疾患研究拠点 教授・副拠点長/東京科学大学 総合研究院 ヒト生物学研究ユニット 教授/ 横浜市立大学 特別教授/コミュニケーション・デザイン・センター長/シンシナティ小児病院 幹細胞・オルガノイド医療研究センター副センター長/准教授) |
| 第49回 | 腸内細菌と宿主の糖代謝連関 ●木村郁夫 (京都大学大学院 生命科学研究所 教授) |
| 第50回 | 産学連携で推進する標的アルファ線核医学治療の社会実装 ●中野貴志 (大阪大学 核物理研究センター長) |
| 第51回 | GPCRシグナルの精緻解析から解明する統合理論 ●井上飛鳥 (京都大学大学院 薬学研究科 教授/東北大学大学院 薬学研究科 教授) |
| 第52回 | 21世紀の国際感染症対策と日本 ●高島義裕 (大阪大学 ワクチン開発拠点 先端モダリティ・ドラッグデリバリー・システム研究センター 特任教授) |
| 第53回 | mRNA創薬の可能性と未来 ●位高啓史 (大阪大学 感染症総合研究拠点(CIDER) 臨床生命工学チーム 教授) |

会場参加型トークセミナー

2013年~2024年



株式会社宮田総研の宮田満様*に座長をお願いし、関西で活躍する企業トップの方のお話を伺うという企画で全13回開催した。宮田様からはバイオの最新の潮流についてお話を、企業のトップの方からは経営のビジョンや戦略のお話を伺ったあと、ざっくばらんにフリートークをしていただいた。会場からの質問や発言も加わって毎回エキサイティングなトークが展開された。

*初代日経バイオテク編集長

講演一覧

| | |
|-------------|--|
| 第1回 | (座長+パネルディスカッション) ●宮田 満 (株式会社日経BP) サラヤのビジネスと持続可能な社会への取り組み ●更家 悠介 (サラヤ株式会社 代表取締役社長) |
| 第2回 | バイオテクノロジーの最新潮流2013/2014 ●宮田 満 (株式会社日経BP 特命編集委員) タカラバイオの事業戦略 ●仲尾 功一 (タカラバイオ株式会社 代表取締役社長) |
| 第3回 | バイオテクノロジーの最新潮流2014/2015 ●宮田 満 (株式会社日経BP 特命編集委員) 不二製油でのバイオの取り組み ●海老原 善隆 (不二製油株式会社 代表取締役会長) |
| 第4回 | (座長+パネルディスカッション) ●宮田 満 (株式会社日経BP 特命編集委員) バイオビジネス「着想の原点」 ●金 武祚 (株式会社ファーマフーズ 代表取締役社長) |
| 第5回 | 再生医療に未来はあるのか? ●宮田 満 (株式会社日経BP 特命編集委員) 健康社員、健康企業を目指して ●ジユネジャ・レカ・ラジュ (ロート製薬株式会社 取締役副社長/エムジーファーマ株式会社 代表取締役社長) |
| 第6回 | 腸内細菌叢バームの真相 ●宮田 満 (株式会社日経BP 特命編集委員) 茶色い宝石が切り拓く病気ゼロの社会 ●福田 真嗣 (株式会社メタジョン 代表取締役社長CEO/慶應義塾大学先端生命科学研究所 特任准教授) |
| 第7回 | 日本のバイオ産業が、国際競争に勝つ条件 ●宮田 満 (株式会社日経BP 特命編集委員) 技術で勝つビジネスでも勝てる日本 ●窪田 規一 (ペプチドリーム株式会社 代表取締役会長) |
| 第8回 | バイオ産業に何故、ベンチャーが必要なのか? ●宮田 満 (株式会社宮田総研 代表取締役) ベンチャーだからこそ出来るイノベーションと国際競争 ●山田 英 (アンジェス株式会社 代表取締役社長) |
| 第9回 | 新型コロナウイルス対応と免疫 ●宮田 満 (株式会社宮田総研 代表取締役) ゲノム編集T細胞を用いたがん治療への挑戦 ●鈴木 隆二 (Repertoire Genesis株式会社 代表取締役会長) |
| 第10回 | 希少疾患がバイオを救う ●宮田 満 (株式会社ヘルスケイノベーション 代表取締役/株式会社宮田総研 代表取締役) 希少疾患のビジネスチャンス ●塙村 仁 (ノーベルファーマ株式会社 代表取締役社長) |
| 第11回 | バイオ最新潮流2022 ●宮田 満 (株式会社ヘルスケイノベーション 代表取締役/株式会社宮田総研 代表取締役) mRNAワクチンの最前線 ●鈴木 蘭美 (モデルナ・ジャパン株式会社 代表取締役社長) |
| 第12回 | 合成生物学の時代は来るか? ●宮田 満 (株式会社宮田総研 代表取締役社長) 日本の合成生物学研究の現状と今後の課題 ●近藤昭彦 (神戸大学 副学長/神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 教授) |
| 第13回 | 21世紀前半における、ヘルスケア・医薬産業の挑戦 ●宮田 満 (株式会社宮田総研 代表取締役社長) システムズ長期経営戦略 VA33;ヘルスケアジャーニーの実現に向けた取組みについて ●吉田智一 (システムズ株式会社 取締役執行役員 CTO) |



第12回風景(2023年7月21日)

新春国際交流会

2002年～現在

近畿バイオインダストリー振興会議の新春の催しとして、「新春国際交流会」を2002年から毎年1月に開催している。英国領事館をはじめ各国のバイオ関連機関にもご参加いただき、会員の皆様との交流の場として活用いただいている。2017年度からはそれまで開催してきた「年末バイオセミナー」と一本化した。



ご講演



**2025年1月31日(金)
ライフサイエンスハブウェスト**

第I部 ご講演

- 主催者挨拶 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 理事長 坂田 恒昭
来賓ご挨拶 近畿経済産業局 局長 信谷 和重氏
ご 講 演 「バイオテクノロジーの最新潮流2024/2025」
株式会社ヘルスケイノベーション 代表取締役 兼
株式会社宮田総研 代表取締役 宮田 満氏

第II部 海外機関ご紹介

- 来賓ご挨拶 政府代表／特命全権大使(関西担当) 三澤 康氏
来賓ご挨拶 JETRO 大阪本部長 庄 秀輝氏

海外機関ご紹介

- アイルランド政府産業開発庁
- イスラエル大使館
- ケベック州政府在日事務所
- 在大阪オーストラリア総領事館
- 在大阪オランダ王国総領事館
- 在大阪・神戸米国総領事館
- ノースカロライナ州政府日本事務所
- 米国ペンシルベニア州政府日本投資事務所
- 米国メリーランド州政府日本投資事務所
- 英国総領事館(動画配信)



海外機関代表の集合写真

閉会の挨拶 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 副理事長 田岡 直明

懇親会・名刺交換会



懇親会



活動報告会

2020年～現在

近畿バイオの会員を対象として、活動報告会を年2～3回継続的にオンラインで開催している。新規入会会員の事業紹介と近畿バイオの新たな活動の紹介を中心としたプログラムで構成しており、会員相互の情報交換の場として活用されている。

| | | 講 演 テ ー マ | 講 演 者 (敬称略) |
|--------|--------|--|---|
| 2020年度 | 2月2日 | ヤンマープループにおける活動内容のご紹介 ケント体損取サブリ向け発酵生産D-BHBおよび非侵襲ミトコンドリアセンターのご紹介 サノフィにおけるパートナリング活動のご紹介 農学の新スタイル 爪床毛細血管像の臨床研究 | ヤンマーホールディングス(株) 大阪ガス(株) サノフィ(株) 県南大学 あつと(株) |
| | 2月4日 | LINK-J West 始動 患者組織由来がん細胞 一がんアバター-モデルの構築と臨床応用 ゲノム編集技術による研究支援と畜産分野の開拓 シンガポール発 microRNAの発現解析から癌診断キットの開発、販売 鴻池運輸グループの医療関連事業ご案内 環農水研のぶどう・ワイン研究 | (一社)ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J) 大阪府立病院機構 国際がんセンター 株式会社セツロテック MIRXES Japan(株) 鴻池運輸(株) 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 |
| 2021年度 | 5月12日 | 世界最高性能の遺伝子発現プロファイリング技術の紹介とその応用 最新の培養実験で使用可能な実験機材の紹介 独自開発した育毛原料の紹介 | (株)ナレッジパレット シーエスクリエイツ(株) 富士産業(株) |
| | 5月17日 | 世界最高性能の遺伝子発現プロファイリング技術の紹介とその応用 最新の培養実験で使用可能な実験機材の紹介 | (株)ナレッジパレット シーエスクリエイツ(株) |
| | 10月7日 | バイオコミュニティ関西 設立説明会 バイオ3Dプリントによる医療・創薬革命 | NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 セルリンク(株) |
| 2022年度 | 4月20日 | 神戸市ポートアイランド市進競争のスタートアップ支援事業 Kansai Life Science Accelerator Program (KLASP) の参加・賃貸企業募集 バイオコミュニティ関西の現状報告 未利用バイオマス資源を用いたグリーンケミカルプロダクトの創出 | 神戸市医療産業都市推進機構 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 Innovare(株) |
| | 5月12日 | バイオものづくりを加速させる関西のバイオファンド(バイオものづくりパンフレットの紹介) NEDOが取り組むバイオものづくり - バイオファンド拡点整備と人材育成(NEDO特別講座) 透過画像を用いたスマートフォンの非侵襲評価技術 統合型バイオ・ファンドによるバイオ産業クラスターの形成 事業紹介と個人最適食実現のための「食」と「の融合」 GRAS発酵食品微生物の代謝物と腸内菌叢の相互作用 新たな微細藻類の分離・培養とその利用 | 近畿経済産業局 NEDO 住友電気工業(株) (株)パッカス・バイオイノベーション (株)AIICK 国民バイオ(株) (株)SeedBank |
| | 9月15日 | 日本政策投資銀行(DBJ)関西支店のご紹介 大阪ソーダグループのヘルスケア事業への取組み 事務所紹介-バイオ分野の実績を中心に- 関西イノベーションニシアタイプの活動および参画大学のシーズ集のご紹介 オープンイノベーションに資する新たな研究施設「ターンキーラボ健都」のご紹介 関西バイオビジネススマッッチング2022のご案内 | (株)日本政策投資銀行 (株)大阪ソーダ 弁護士法人山本特許法律事務所 関西イノベーションニシアタイプ(代表幹事機関:公益財団法人都市活力研究所) 京都リサーチパーク(株) NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 |
| | 3月15日 | バーンズアンドソーンパーグ法律事務所-事務所紹介 システムズの研究開発 - オープンイノベーションに関する取組み 竹中工務店 バイオ領域への取組 と 関連する保有技術のご紹介 サプリメント・医薬品原料 リン脂質型オメガ3を含むオーライソワントリ油の紹介 ゲノミクスを用いた研究開発コンサルティングの紹介 当社とお客様・お客様との「つながり」およびイノベーションの推進に向けて バイオベンチャーダーベースのご案内 | バーンズアンドソーンパーグ法律事務所 システムズ(株) (株)竹中工務店 アーケル・バイオマリン・ジャパン(株) (株)日本バイオデータ 第一生命保険(株) NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 |
| 2023年度 | 7月12日 | 関西医薬品協会のイノベーション関連の取り組み 「健康寿命の延びる沿線」実現に向けた取組について バイオコミュニティ関西におけるIT西日本の取り組み ~医療・健康分野におけるパーソナルデータ利活用の促進に向けた取組み~ DCIパートナーズの活動紹介 ティカ株式会社の事業内容のご紹介 H.U.セルズの再生医療・バイオ医薬品向け品質試験サービスの紹介 ケンブリッジコンサルタンツ社の紹介 | 関西医薬品協会 阪急阪神ホールディングス(株) 西日本電信電話(株) DCIパートナーズ(株) ティカ(株) H.U.セルズ(株) ケンブリッジコンサルタンツ(株) |
| | 9月19日 | 東南アジアへの事業展開におけるDocquity(ドクティ)の活用 オーディオの技術をウェルネス・ヘルスケアへ 農業の関係人口創出におけるAwaji Nature Lab&Resortの取組について 川崎重工業の紹介および医療・ヘルスケア領域における取り組み | Docquity Holdings Pte. Ltd. オンキヨー(株) (株)パシナ農援隊 川崎重工業(株) |
| | 2月21日 | バイオコミュニティ関西(Block)活動報告 国際シンポジウム(Bioeconomy Hub Japan)開催について クリニップ向け簡易型PCR施設に関する取り組み 株式会社シーテックおよびKODOBOKU技術の紹介 ぶどう圧搾残渣を用いたサステナブル事業のご紹介 大阪公立大学のアガニア創業の紹介 福岡県のバイオ産業振興に係る取組紹介 | NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 八洲薬品株式会社・BizScience株式会社 (株)シーテック (株)旗ヶ岡ナイチャー研究所 大阪公立大学 福岡県大阪事務所 |
| | 2024年度 | バイオ・ヘルスケア企業の人材課題を解決する新サービスのご提案および事例紹介 ワールドインテックの特徴について EY Japanの概要とEYライフサイエンスセクターのご紹介 ダイキン工業の協創イノベーションヒーニーズのご紹介 | (株)RDサポート (株)ワールドインテック EY新日本有限責任監査法人 ダイキン工業(株) |
| | 3月11日 | AMR(Antimicrobial Resistance)問題の解決に向けた難培養性細菌の可能性 会社概要およびナビゲート技術を使った微細藻類関連事業化検討例のご紹介 DNA/RNA ヘテロ 2 本鎖核酸(HDO)の紹介 神鋼環境ソリューション搅拌技術の培養分野への適用 生体内部鏡を用いた細胞レベルでのリアルタイム In Vivoイメージング | (株)村田製作所 Yokogawa Innovation Switzerland GmbH レナセラピュテイクス(株) (株)神鋼環境ソリューション IVIMテクノロジー |
| | 2025年度 | ライフサイエンス、バイオームガバーネルについて、BCHどのようにして、米国に興味のある日本企業を支援できるかについて Synapto Venturesによるユニークな資金調達支援サービス 「グローバルな規制対応パスウェイ医薬品・医療機器の成功に向けたパートナーシップ」 遺伝子細胞製剤に特化したCDMOサイト・ファクトの事業紹介 再生医療に係る業務、およびヨコヨリ社を利用した評価試験について ~総合環境衛生企業としての各種業務ご紹介~ 箕面市における貢献度(事務所兼研究所)の開発計画のご紹介 ACROBiosystems株式会社のご紹介 | Biocom Japan Consulting (BJC) Synapto Ventures BLA Regulatory (株)サイト・ファクト 環境衛生薬品(株) 東京建物(株) アクロバイオシステムズ(株) |
| | 7月3日 | 光スイッチスマートセルおよび光制御型バイオ生産システムのご紹介 お茶摂取による健康寿命の延伸に関する研究の取組みについて 「誰もが病にならない未来」「誰もが自分らしく生きられる社会」を目指して 信頼性の高いエビデンス創出を支えるヘルスケアCROの取り組みと事例紹介 会社概要 (一財)大阪科学技術センターの活動内容 当社のバイオ関連取り組みについて 既知から未知を発見するAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory」 会社紹介と関西圏におけるラボオフィス開発について | (株)ミーバイオ 共栄製茶(株) フォースライフ(株) (株)アイムップRD ノーベルファーマ(株) (一財)大阪科学技術センター 双日(株) (株)FRONTEO JR西日本不動産開発(株) |
| | 12月24日 | | |

近畿経済産業局の施策との連携

■産業クラスター政策

地域の中堅中小企業・ベンチャー企業が大学、研究機関等のシーズを活用して、産業クラスター（新事業が次々と生まれられるような事業環境を整備することにより、競争優位を持つ産業が核となって広域的な産業集積が進む状態）を形成し、国の競争力向上を図る。

第1期（2001～5年）産業クラスターの立ち上げ期

クラスターの実態と政策ニーズを踏まえて、国が中心となって進める産業クラスター計画プロジェクトとして20程度を立ち上げ、自治体が独自に展開するクラスターと連携しつつ、産業クラスターの基礎となる「顔の見えるネットワーク」を形成する。

第2期（2006～10年）産業クラスターの成長期

引き続きネットワークの形成を進めるとともに、具体的な事業を展開していく。また、同時に企業の経営革新、ベンチャーの創出を推進する。なお、必要に応じて、プロジェクトの見直し、新たなプロジェクトの立ち上げを柔軟に行う。

第3期（2011～20年）産業クラスターの自律的発展期

ネットワークの形成、具体的な事業展開を更に推進していくとともに、産業クラスター活動の財政面での自立化を図っていき、産業クラスターの自律的な発展を目指す。

関西の強みを活かした地域連携の取組

■関西地域健康長寿関連産業活性化協議会（2010年～2014年）

事業の背景と目的

- 平成22年2月に企業立地促進法の広域計画を促進するために発足する。行政機関及び産業支援機関の広域的な連携により、産学連携・人材育成等の支援事業を一体となって実施する。
- 関西地域における最先端の研究拠点と多様な産業集積を活用し、次世代の健康長寿関連ビジネスを創出するとともに、地域内の企業立地件数、製品出荷・新規雇用創出件数の増加を図る。

協議会構成員

- 長浜市、京都市、吹田市、茨木市、神戸市
- 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県
- 大阪商工会議所、神戸商工会議所
- (社)バイオビジネス創出研究会、(財)京都高度技術研究所、(財)千里ライフサイエンス振興財団、(財)先端医療振興財団、(財)神戸市産業振興財団、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議

目標に向けた事業環境整備等

- 人材育成セミナー、シンポジウムの開催 → 医工人材の育成
- 人的ネットワークの形成、情報提供事業
- 地域連携コーディネーターの配置 → シーズの発掘
- 新事業創出支援
- 産学医の連携支援 → 医療現場のニーズによる製品開発
- ビジネスマッチング・販路開拓支援
- 海外クラスターとの連携 → 海外とのアライアンスの促進



「組織工学・再生医学 ワークショップ」

再生医療とスーパー特区

JT生命誌研究館
NPO法人AASJ
代表 西川伸一



主 催 kTi（関西ティッシュ・エンジニアリング・イニシアティブ）、財団法人大阪科学技術センター、近畿バイオインダストリー振興会議、産業クラスター部会

後 援 独立行政法人産業技術総合研究所、近畿経済産業局、神戸市

開催趣旨

日本の研究助成機関はこの10年近くの間多くの研究費を再生医療につぎ込んできました。その見返りとして、研究助成機関と社会は再生医療の早急な実現化を求めています。そのような状況の中で、再生医療研究は厚生労働省から出された幹細胞研究指針の枠を通じた臨床研究という公の場への船出を始めたところです。再生医療にかかる医師、研究者、研究助成機関、そして市民にとって重要な時期にさしかかっています。本シンポジウムは、再生医療研究における基礎研究から始まり企業化成功例まで、また、指針に沿った臨床研究の実施とその問題点、そして規制の実際などについて考える機会を設けることを目的に、これらの問題に関わる第一人者の講師陣をお迎えして開催いたします。（開催時の案内から）

ワークショップの議題（第6回から記載）

| | | |
|------|---|---|
| 第6回 | 2003年10月25日 第1部 再生医療に関するRegulation 第2部 再生医療の日米のトピックス | 2006年4月22日 第12回 第1部 自己細胞を用いた再生医療 第2部 関西の再生医療関連ベンチャー交流会 |
| 第7回 | 2004年3月6日 第1部 ゲノムベイ東京構想と東西連携 第2部 再生医療関連企業パネル展示 | 2006年11月25日 第13回 第1部 体性幹細胞を取り巻く研究指針動向 第2部 長期培養における細胞の機能変化とその規制 |
| 第8回 | 2004年12月18日 第1部 細胞組織医療材料の製品化のための環境整備 第2部 再生医学と工学 | 2007年8月25日 第14回 第1部 再生医療の产业化 第2部 イノベーション施策と再生医療 |
| 第9回 | 2005年3月12日 第1部 ランゲルハンス氏島移植と脾臓移植の現状と展望 第2部 糖尿病患者団体との連携 | 2008年9月6日 第15回 第1部 ヒトES細胞培養法-創薬開発ツールとしての利用 第2部 再生医療の速やかな社会還元を目指して 第3部 先進医療推進のための施策の最近の動向 |
| 第10回 | 2005年6月4日 第1部 CPCの実際-医療機関の取組み 第2部 CPCの実際-企業の取組み | 2009年9月26日 第16回 第1部 スーパー特区の制度とその運用 第2部 スーパー特区の制度を活用して推進する再生医療 |
| 第11回 | 2005年11月26日 第1部 再生医療 from 再生医学 第2部 ビジネスチャンス in 再生医療 | 2010年9月18日 第17回 第1部 指針の見直しとそのreview 第2部 実現化している幹細胞指針適合臨床研究の現状 |

「遺伝子治療シンポジウム」

我が国における
遺伝子医薬品承認申請に向けた課題と取組み

大阪大学大学院
医学系研究科
教授 金田安史



主 催 近畿バイオインダストリー振興会議、近畿バイオ産業クラスター部会
後 援 近畿経済産業局、財団法人大阪科学技術センター、大阪商工会議所

開催趣旨

当振興会議では、近畿経済産業局の近畿産業クラスター計画の一環として、「遺伝子治療シンポジウム」を企画します。バイオテクノロジー分野の中でも遺伝子治療は、特に将来の有望な治療手段として社会の注目を集めております。遺伝子や合成核酸を用いた難病の分子治療の臨床研究、治療用遺伝子の分離や新規遺伝子導入技術などの研究開発も推進されており、他の機関でも研究開発が盛んに行われています。

このような状況のもと、欧米の研究者とわが国の研究者が一同に会し、遺伝子治療に関する開発状況の現状と将来を議論することにより、遺伝子治療の研究開発・実用化の可能性を探るとともに、わが国における先端医療分野および周辺技術の普及・啓蒙を図り、近畿地域において創薬関連産業のクラスター形成を目的に開催いたします。(開催時の案内から)

シンポジウムの議題

| | | |
|------------|------------|-------------------------------|
| 第1回 | 2003年2月6日 | 第1部 遺伝子治療の現状総括 |
| | | 第2部 遺伝子治療の技術進展と将来展望 |
| | | 第3部 遺伝子治療の臨床研究と将来展望 |
| 第2回 | 2004年1月30日 | 第1部 遺伝子の導入と発現技術の進展 |
| | | 第2部 生活習慣病遺伝子治療の進展 |
| | | 第3部 遺伝子治療の発展 |
| 第3回 | 2005年1月28日 | 第1部 siRNAの治療薬への応用 |
| | | 第2部 遺伝子探索のためのハイスループットスクリーニング法 |
| | | 第3部 画期的な遺伝子診断法とイメージング法の開発 |
| 第4回 | 2006年2月3日 | 第1部 遺伝子治療のための技術革新 |
| | | 第2部 感染症の予防と治療 |
| | | 第3部 神経変性疾患の予防と治療 |
| 第5回 | 2007年2月2日 | 第1部 遺伝子医薬品の実用化に向けて |
| | | 第2部 国内遺伝子治療ベンチャーの動向 |
| 第6回 | 2008年2月1日 | 第1部 合成系を用いた高機能ベクターの開発 |
| | | 第2部 ウィルスを用いた高機能ベクターの開発 |
| 第7回 | 2009年1月30日 | 第1部 遺伝子分離と導入技術の開発 |
| | | 第2部 癌治療への応用 |
| | | 第3部 循環器疾患への応用 |
| 第8回 | 2010年2月5日 | 第1部 国内外の遺伝子医薬品の現状 |
| | | 第2部 遺伝子治療臨床研究申請の問題点 |
| | | 第3部 遺伝子治療の臨床研究と将来展望 |
| 第9回 | 2011年2月1日 | 第1部 癌遺伝子治療臨床研究 |
| | | 第2部 生活習慣病の遺伝子治療臨床研究 |
| | | 第3部 総合討論 |
| 第4部 今後の進め方 | | |

「コンビナトリアル・バイオエンジニアリング会議」

京都大学大学院
農学研究科
代教授 植田充美



主 催 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議

後 援 コンビナトリアル・バイオエンジニアリング研究会、(社)未踏科学技術協会・「生命をはかる」研究会、コンビナトリアルバイオ工学部会、ナノバイオテクノロジー部会、近畿経済産業局、日本生物工学会、文部科学省科学研究費特定領域「ライフサーベイナー」

開催趣旨

生命活動を動的に解析するプローブやシステムを研究開発する新分野「ライフサーベイナー」(後援の(社)未踏科学技術協会・「生命をはかる」研究会の和田昭允先生のご提唱)研究分野を日立・中研の神原秀記先生をリーダーに、科研費特定領域研究で創成・育成してきました。現在、オミックスやインタラクトームなどの多変数解析を踏まえ、生命や生物の動的なダイナミクスを自然の姿のまま捉え、究極的にはシングルセル解析を目指して生命現象を定量的に測定していく研究へと展開してきています。これまでに得られた研究手法を、「不思議」のあふれる生命現象の解析研究に融合させて貢献していくには、という点を大命題に、この「生命の不思議」を研究されている先生方をお招きして議論してゆきたいと考えております。(開催時の案内から)

フォーラムの議題

| | | |
|-----|-------------|---|
| 第1回 | 2004年7月21日 | 議題 コンビナトリアル・バイオエンジニアリング 分子ディスプレイの発展 |
| 第2回 | 2005年10月20日 | 議題 ヒューマン・ライフサイエンス・フォーラム |
| 第3回 | 2006年11月10日 | 議題 「分子ライブラリー」構築に向けたコンビナトリアル・バイオエンジニアリングの挑戦 |
| 第4回 | 2007年11月9日 | 議題 定量的生命計測研究からの現代科学と社会へのメッセージライフサーベイナーの構築に向けて |
| 第5回 | 2008年11月7日 | 議題 ポストゲノムデータベース時代の幕開け バイオテクノロジー新時代をゆく |
| 第6回 | 2009年11月13日 | 議題 生命の不思議をはかるために |
| 第7回 | 2010年11月12日 | 議題 感覚の不思議をはかるために |

「関西バイオの未来を考える会」

設立の経緯と趣旨

近畿経済産業局のバイオクラスター形成計画の推進に協力して活発に活動を行っており、創生・育成に関わったバイオベンチャーも20数社に進展した。今後バイオテクノロジーが期待されるような力を發揮し、わが国のバイオ産業の核となるべく発展していくためには、各分野を牽引する"関西のバイオニューリーダー"と言える先生方の英知の結集が必要と考え、「関西バイオの未来を考える会」を2004年に発足させ、最先端のバイオ技術について議論するとともに広く産業界への普及を推進した。

講演者

| | |
|--------------------|---|
| 第1回 2005年2月28日 | 福崎英一郎(大阪大学大学院工学研究科応用生物工学専攻 助教授) 藤井 郁雄(大阪府立大学大学院先端科学研究所 教授) 田丸 浩(三重大学生物資源学部生物圈生命科学科 助教授) 坂田 恒昭(神戸大学大学院自然科学研究科 教授) 梶本 修身(大阪外国语大学 助教授) |
| 第2回 2005年6月20日 | 杉本 留三(経済産業省産業技術環境局研究開発課 課長補佐) 玉井 克人(大阪大学大学院医学系研究科 助教授) 安達 宏昭(大阪大学大学院工学研究科 助手) 高木 昌宏(北陸先端科学技術大学院大学材料科学研究科 教授) |
| 第3回 2005年11月11日 | 田畠 泰彦(京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究分野 教授) 杉本 直己(甲南大学先端生命工学研究所 所長) |
| 第4回 2006年5月23日 | 黒田 俊一(大阪大学産業科学研究所生体触媒科学研究分野 助教授) 梶本 哲也(京都薬科大学薬品製造学教室 助教授) 家戸敬太郎(近畿大学水産研究所 助教授) 矢野 浩之(京都大学生存圏研究所生物機能材料分野 教授) |
| 第5回 2006年10月2日 | 吉田 和哉(奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科 助教授) 山中 伸弥(京都大学再生医科学研究所再生誘導研究分野 教授) 河田 照雄(京都大学大学院農学研究科食品生物科学専攻 教授) 宇山 浩(大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻 教授) |
| 第6回 2007年7月13日 | 近藤 昭彦(神戸大学大学院工学研究科 教授) 橋本 堂史(神戸大学大学院農学研究科食品・栄養化学 助教) 南野 直人(国立循環器病センター研究所薬理部 部長) 加藤 功一(京都大学再生医科学研究所 准教授) |
| 第7回 2008年1月21日 | 近江谷 克裕(北海道大学医学研究科 教授) 渡部 邦彦(京都府立大学農学研究科 教授) 三宅 正人(産業技術総合研究所細胞情報工学研究 グループ長) 民谷 栄一(大阪大学大学院工学研究科 教授) |
| 第8回 2008年5月26日 | 田畠 泰彦(京都大学大学院再生医科学研究所 教授) 福崎英一郎(大阪大学大学院工学研究科 教授) 池 道彦(大阪大学大学院工学研究科 教授) 植田 充美(京都大学大学院農学研究科 教授) |
| 第9回 2009年2月16日 | 藤原 伸介(関西学院大学理工学部生命科学科 教授) 近藤 昭彦(神戸大学大学院工学研究科 教授) 安達 宏昭(株式会社 創晶 代表取締役社長) 小玉 崇(株式会社 トラスト 代表取締役社長) |

「関西バイオビジネス研究会」

設立の経緯と趣旨

日本公認会計士協会近畿会、日本弁理士会近畿支部、大阪弁護士会の三つの専門士業が協力し合って関西のバイオ産業を積極的に支援するため、「バイオサポートーズ三会協議会」が2003年10月に発足した。近畿バイオは、バイオの基礎知識・専門用語・専門知識を習得するための勉強会の設定・運営を支援してきた。さらに、具体的なビジネスモデル作成等の事例研究会も支援した。

2004年10月には、三会のバイオビジネスに関する専門知識を有する専門家で構成した「関西バイオビジネス研究会」を発足させ、バイオベンチャー企業の創業支援、経営支援等に役立つ特許戦略、財務戦略、法務戦略等の研修を開始し、その実践の中から設立されたベンチャー企業を支援した。

また、2015年2月には、“バイオサイエンス”を事業にする手引き書『ビジネスプラン策定のポイント』が近畿経済産業局により製作された。

バイオ起業「3土」の援

「援(えん)」は、「たすける」という意味を持ち、その意味通り2004年～2010年までの6年間で3社の立ち上げを後押ししてきた。活動はすべてボランティア。「全国でもここだけ」という珍しい取り組みを行った。



研究会が支援して設立された主な企業

| | | |
|--------------------------|---|---|
| 社名 所在地 設立時期 代表者 | マグナビート 株式会社 千葉県 市原市 2005年7月 代表取締役 大西徳幸 | 事業内容 熱応答性磁性ナノ粒子の販売、市場開拓、用途開拓、技術サポート及び検査診断システムや診断薬材料の開発・研究。 |
| 社名 所在地 設立時期 代表者 | 株式会社 BNA 大阪府 茨木市 2008年5月 代表取締役 河原三紀郎 | 事業内容 スーパー人工核酸BNAに関する核酸医薬品の開発研究、遺伝子診断技術開発、各種BNAの製造と販売、新規BNAの開発と知的財産化(特許化)等。 |
| 社名 所在地 設立時期 代表者 | 株式会社 プロテクティア 大阪府 茨木市 2010年6月 代表取締役社長 内田国克 | 事業内容 カテキン誘導体を利用した感染症対策部材等の各種製品の研究開発・製造・販売、化合物・技術シーズに関する受託合成・分析・評価。 |
| 社名 所在地 設立時期 代表者 | アンチエイジングペプトイド株式会社 大阪府 茨木市 2016年4月 代表取締役 橋弥尚孝 | 事業内容 化粧品素材の販売、化粧品の販売 |
| 社名 所在地 設立時期 代表者 | ユナイテッド・イミュニティ株式会社 三重県 津市 2017年11月 代表取締役社長 原田直純 | 事業内容 がん免疫療法を中心とする医薬品の研究・開発・製造・販売 |
| 社名 所在地 設立時期 代表者 | 株式会社ビズジーン 大阪府 茨木市 2018年4月 代表取締役 開發邦宏 | 事業内容 ウイルスの迅速検出技術、病原体やヒトの遺伝子診断技術、ウイルス濃縮技術に関する研究開発と各種受託研究 |

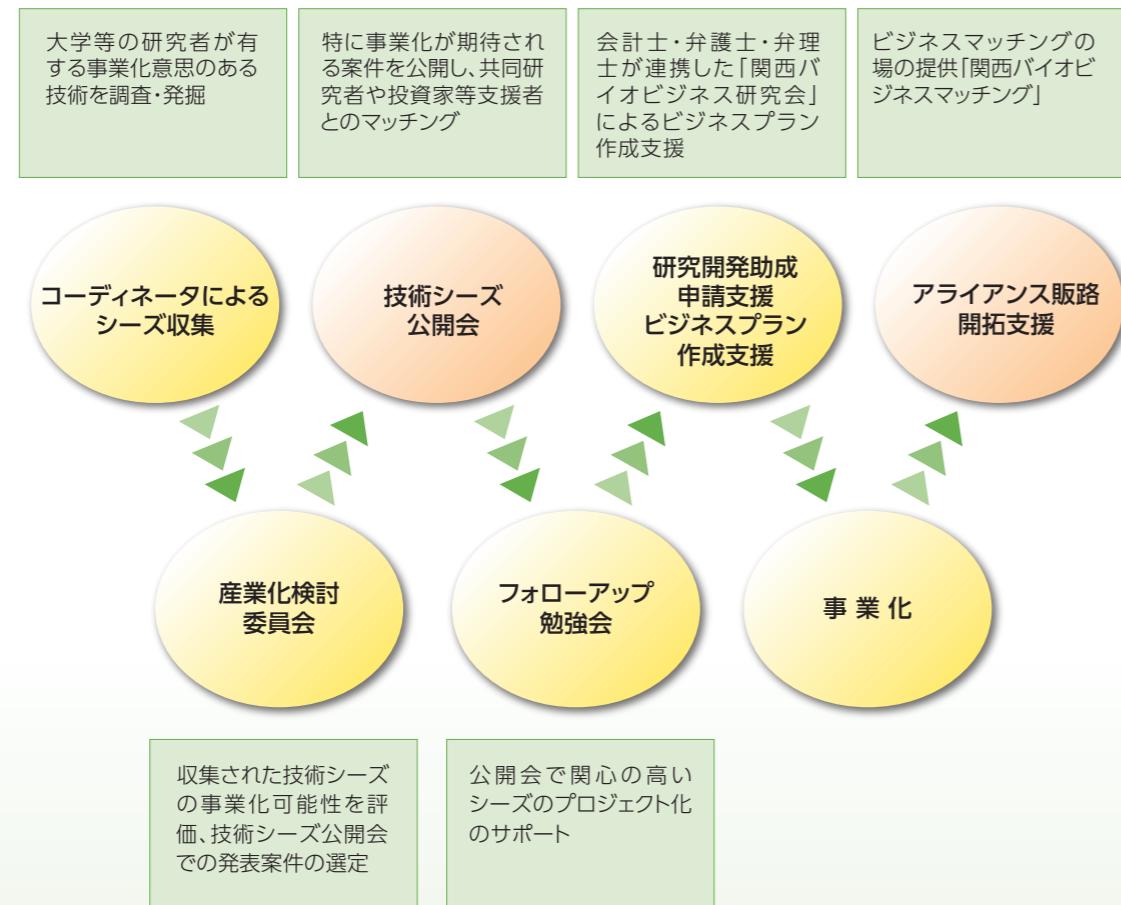
バイオ技術シーズ公開会

設立の経緯と趣旨

1999年に通商産業局よりJBAを介して近畿圏バイオ技術基盤整備事業を受託して、近畿圏のバイオ分野の産業化基盤技術、産業化促進のための課題を調査した結果、基盤技術として1999年当時約300名のバイオ研究者、約600のバイオ技術シーズが存在することが判明した。にもかかわらずそれらが産業化されていない原因としては、①バイオ技術シーズ・ニーズのマッチングのためのコーディネーター機能、また、マッチングのための場の欠如、②バイオ研究のためのインキュベーターの欠如、③スタートアップ時の資金の欠如、この3つの課題があると判断した。

そこで、解決策として会員企業OBでバイオ知識豊富な方、大学の名誉教授らに依頼して、収集したバイオ技術シーズの産業化可能性を検討する専属コーディネーターに就任していただき、コーディネーター会議を設けて検討いただいた技術シーズヒニーズをマッチングさせるための技術シーズ公開会を開催した。(1999年~2017年)

事業化に向けての一貫したハンズオン支援



この事業を通じて40名もの企業家マインドをもった若いポスドク等のコーディネーターを育成するとともに、自らがベンチャー企業を立ち上げたコーディネーターも育てることができた。

成果事例 1

NPO近畿バイオが創出・育成をしたベンチャー各社(例)

1999年の第1回の公開会から2017年の終了まで全39回の開催となり、発表件数は424シーズ、その参加者数は延べ3,000名以上となった。このシーズ公開会を通した研究プロジェクト、バイオベンチャーが数多く生まれた。

- | | | |
|-----------------------|-----------------------------|--------------------|
| ■ アンジェスMG 株式会社 | ■ AntiCancer Japan 株式会社 | ■ 株式会社 エマオス京都 |
| ■ オーストリッチファーマ 株式会社 | ■ 株式会社 Office高分子医薬 | ■ 株式会社 カルディオ |
| ■ カルナバイオサイエンス 株式会社 | ■ 株式会社 京都コンステラ・テクノロジーズ | ■ 株式会社 京都モノテック |
| ■ クリングルファーマ 株式会社 | ■ 株式会社 グリーンゴールドバイオシステム 株式会社 | ■ 株式会社 グリーンバイオ |
| ■ 株式会社 四国核酸化学 | ■ 株式会社 ジーンデザイン | ■ 株式会社 ジェイティック |
| ■ ジェノミディア 株式会社 | ■ 株式会社 ジエノラックBL | ■ 株式会社 植物ハイテック研究所 |
| ■ 株式会社 創晶 | ■ 株式会社 ソフセラ | ■ 日本アバンストアグリ 株式会社 |
| ■ ネオケミア 株式会社 | ■ 株式会社 バイオエックス | ■ Bio-energy 株式会社 |
| ■ バイオサイトキャピタル 株式会社 | ■ 株式会社 バイオセレンタック | ■ バイオベース 株式会社 |
| ■ 株式会社 バイオマーカーサイエンス | ■ バイオリーダースジャパン 株式会社 | ■ 株式会社 ハイペップ研究所 |
| ■ 株式会社 BNA | ■ 株式会社 ビーエムティーハイブリッド | ■ 株式会社 ビークル |
| ■ 有限会社 ピック・ワールド | ■ 株式会社 ファーマフーズ | ■ 株式会社 フェアリー・エンジェル |
| ■ 株式会社 プロテクティア | ■ マイクロ波化学 株式会社 | ■ マグナビート 株式会社 |
| ■ 株式会社 ミレニアムゲートテクノロジー | ■ 株式会社 魁半導体 | ■ メド・ソリューション 株式会社 |

成果事例 2 第10回シーズ公開会 (2003年11月14日 開催)

| 発表者 | 機関名 | 所属 | 役職 | テーマ |
|----------------------|-------------------------------|-------------|-----|-----------------------------|
| 高橋 和利 | 奈良先端科学技術大学院大学 | 遺伝子教育研究センター | 研究員 | ERasとNanogによる幹細胞の多能性と増殖能の改善 |
| 山中 伸弥 (iPS細胞研究所長・教授) | 「ノーベル生理学・医学賞」を受賞 (2012年10月8日) | | | |

成果事例 3

第13回シーズ公開会 (2005年2月18日 開催)

「コンビナトリアル・バイオエンジニアリングによる
新規生体機能分子の創出」
藤井 郁雄 大阪府立大学大学院 農学生命科学研究科

フォローアップ勉強会 (2005年3月15日 開催)

「コンビバイオを基盤とした
低分子医薬リード化合物の開発技術」

内閣総理大臣表彰「第5回 ものづくり日本大賞」
製品・技術開発部門「経済産業大臣賞」(2013年9月13日)

AS OneCell picking システム

100万規模の細胞から1個の細胞
を生きたまま回収

「世界初マイクロチップでの単一細胞自動解析・回収装置の商品化」
我が国の医療分野における、創薬や再生医療研究における貢献に期待
アズワン株式会社



成果事例 4 新社屋へ移転



株式会社 ジェイティック
大阪府茨木市の開発センター



株式会社 ジーンデザイン
大阪府茨木市の本社

成果事例 5



株式会社 ファーマフーズ
2006年6月
東京証券取引所
マザーズへ株式上場



京都市西京区の本社

「再生医療技術を活用した動物実験代替法」検討会 (近畿経済産業局主催、近畿バイオ共催)

動物実験の代替手法としてヒトの生体環境を模した複数の人工臓器を連結した複合組織チップの研究開発が急がれており、その早期実現を目的として「再生医療技術を活用した動物実験代替法」検討会を開催した。本検討会は、近畿経済産業局の関西再生医療産業コンソーシアム(KRIC)事業の一環として開催され、近畿バイオも共催として参画しプログラム作成や運営を行った。(2017年度～2019年度)

| | |
|--|---|
| キックオフ 2017年8月31日 | 動物実験を代替する細胞組織評価デバイスと国内外の動向 藤田聰史(産業技術総合研究所 関西センター 細胞マイクロシステム研究グループ長) |
| | 細胞組織評価デバイスの産業化に向けた課題と必要となる要素技術 杉浦慎治(産業技術総合研究所 医薬品アッセイデバイス研究グループ 主任研究員) |
| | 細胞組織評価デバイスの創薬応用ニーズと規格化に向けて 石田誠一(国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 薬理部 第3室 室長) |
| 第1回 2017年10月30日 「流路等デバイス」 | Organ-on-a-chip技術の開発と骨髄機能の再現に向けた取り組み 鳥澤勇介(京都大学 白眉センター 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 特定准教授) |
| | マイクロ・ナノ光学による生体外「ヒト」モデル開発 鶴井謙一郎(京都大学高等研究院 物質・細胞統合システム拠点 特定拠点准教授) |
| | ES/iPS細胞を用いた動物実験代替法開発 斎藤幸一(住友化学株式会社 先端材料開発研究所 上席研究員) |
| 第2回 2017年11月15日 「細胞」 | 細胞組織評価デバイスのための臓器モデル開発の現状と課題 松崎典弥(大阪大学大学院 工学研究科 応用化学専攻 准教授) |
| | 再生医療、創薬で求められる細胞規格に対する考え方 伊藤弓弦(産業技術総合研究所 生命工学領域創薬基盤研究部門 幹細胞工学研究グループ長) |
| | ヒトiPS細胞の創薬利用を加速するLSIメディエンス社の取り組み 井上裕章(株式会社LSIメディエンス 創薬支援事業本部 先端事業推進部 部長) |
| 第3回 2017年11月28日 「計測・検出」 | 細胞・組織・臓器機能の分子解析デバイスと応用展開 民谷栄一(大阪大学大学院 工学研究科 精密機械・応用物理学専攻 ナノバイオ領域 教授) |
| | 無標識細胞分析:ラマン分光イメージングの活用 藤田克昌(大阪大学大学院 工学研究科 応用物理学専攻 准教授) |
| | 多点平面電極を用いた細胞組織の機能性評価 下野健(パナソニック株式会社 先端研究本部 研究企画部 主幹) |
| 第4回 2018年8月30日 「人体組織デバイス 開発における課題とニーズ」 | 新規化合物のヒト体内動態予測の現状と課題 楠原洋之(東京大学大学院 薬学系研究科 分子薬物動態学教室 教授) |
| | 医薬品の研究開発における人体組織デバイスへの期待～海外での先行事例を参考に～ 赤羽隆文(幹細胞評価基盤技術研究組合 技術部 担当部長) |
| | 皮膚を標的とした化粧品・医薬品開発における培養モデル皮膚の現状と今後 井上紳太郎(岐阜薬科大学 香粧品健康学講座 特任教授) |
| 第5回 2018年10月3日 「人体組織デバイスの 開発における レギュレーションの 現状と今後」 | 細胞加工製品の造腫瘍性の評価法の開発 佐藤陽治(国立医薬品食品衛生研究所 再生・細胞医療製品部 部長) |
| | 細胞特性及びその測定に関する国際標準化の現状 伊藤弓弦(国立研究開発法人産業技術総合研究所 生命工学領域 創薬基盤研究部門 幹細胞工学研究グループ長) |
| | 動物を用いない新たな安全性評価試験法の動向と課題 小島肇(国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 安全性予測評価部 第二室 室長) |
| 第6回 2018年12月14日 「臓器モデルの現状と今後」 | 3次元腎臓オルガノイドの創薬利用への可能性と課題 高里実(理化学研究所 生命機能科学研究センター ヒト器官形成研究チーム チームリーダー) |
| | ヒトiPS細胞を用いた小腸モデルの構築とその利用について 松永民秀(名古屋市立大学大学院 薬学研究科 臨床薬学分野 薬学生臨床薬学教育研究センター 教授) |
| | 中枢創薬においてヒト血液脳関門モデルに期待される役割とその開発状況 降幡知巳(千葉大学大学院 医学研究院 中核研究部門 呼吸・循環治療学研究講座 助教) |
| 第7回 2019年8月6日 「マイクロ流路及び周辺技術」 | モデレーター 亀井謙一郎(京都大学高等研究院 物質・細胞統合システム拠点 准教授) |
| | 自律神経系の再構築に向けた神経誘導・培養技術の開発 高山祐三(産業技術総合研究所 生命工学領域 創薬基盤研究部門 主任研究員) |
| | 細胞塊を用いた創薬実験プラットフォームの開発 池内真志(東京大学大学院 情報理工学研究科 システム情報学専攻 生体医用マイクロシステム講座 講師) |
| 第8回 2019年10月18日 「細胞培養及び周辺技術」 | モデレーター／オルガノイド培養技術の動向 高里実(理化学研究所 生命機能科学研究センター ヒト器官形成研究チーム チームリーダー) |
| | 皮膚器官形成における細胞外環境の役割 藤原裕展(理化学研究所 開拓研究本部 萩原生体模倣システム理研白眉研究チーム チームリーダー) |
| | モジュール型臓器チップによる動物実験代替法の構築 萩原将也(理化学研究所 開拓研究本部 萩原生体模倣システム理研白眉研究チーム チームリーダー) |
| 第9回 2019年12月16日 「センシング及び周辺技術」 | モデレーター 藤田聰史(産業技術総合研究所 先端フォトニクスバイオセンシングOIL副ラボ長) |
| | 誘導ラマン散乱顕微法による振動分光イメージングとその応用 小関泰之(東京大学大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 准教授) |
| | 光で読み解く生命活動—分子から個体まで 谷知己(産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 主任研究員) |

関西スマートセルフォーラム(近畿経済産業局との共同主催)

| | | |
|-------------|--|---|
| 2018年9月25日 | 生物が持つ物質生産能力を人工的に最大限引き出した細胞“スマートセル”を利用したものづくりは製造プロセスの抜本改革につながる可能性がある。スマートセルインダストリーの実現に向けた中小・ベンチャー企業に対する知財戦略支援事業を推進している近畿経済産業局との共催で、関西スマートセルフォーラムを開催した。(2018年度～2020年度) | |
| | 【総論】 バイオエコノミーの実現に向けた国際動向と我が国の取組 バイオエコノミーを加速するスマートセルインダストリー～技術開発・産業の動向～ スマートセルインダストリー実現のための技術開発(NEDOスマートセルプロジェクト) 遺伝子組換え生物に係る法規制の動向について 関西スマートセルフォーラム2018のねらい | |
| | 上村昌博(経済産業省 商務情報政策局 商務・サービスグループ 生物化学産業課長) | 近藤昭彦(神戸大学 大学院科学技術イノベーション研究科 教授) |
| | 林智佳子(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 材料・ナノテクノロジー部 主査 プロジェクトマネージャー) | 松尾康範(独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE) バイオテクノロジーセンター 安全審査室 室長) |
| | 足立光晴(近畿経済産業局 地域経済部 バイオ・医療機器技術振興課 課長) | |
| 2018年11月9日 | 【スマートセルをめぐる最新技術動向】 植物・作物におけるゲノム編集の現状と展望～ジャガイモ研究を例にして 鶴卵バイオリアクター～「金の卵」による組換え蛋白質生産技術～ 植物の特異的スマートセルとその制御戦略 スマートセル技術の応用事例～植物組織培養による活性型ビタミンD3高効率生産の研究～ | |
| | 【知財戦略】 ゲノム編集技術における知財戦略 【ベンチャー企業の技術シーズ紹介】 動物細胞版スマートセルの開発 ～新規細胞樹立・人工染色体ベクターによる物質生産の可能性～ | |
| | 村中俊哉(大阪大学 大学院工学研究科 生命先端工学専攻 教授) | 大石勲(産業技術総合研究所 バイオメティカル研究部門 先端ゲノムデザイン研究グループ長) |
| | 矢崎一史(京都大学 生物圈研究所 森林圈遺伝子統御分野 教授) | 水谷敦司(株式会社竹中工務店 技術研究所 研究コーディネート部 連携推進グループ長) |
| | 秋元浩(知的財産戦略ネットワーク株式会社 代表取締役社長) | 福岡道公(株式会社chromocenter 専務取締役) 源治尚久(研究開発部 部長) |
| 2019年1月30日 | 【スマートセルをめぐる最新技術動向】 スマートセル創製を加速するAI基礎技術 スマートセル創出プラットフォームの構築と実証に向けて 酵素変換・微生物変換プロセス開発の現状と展望 デジタル・バイオエコノミーの実現に向けて(バイオプラスチックをはじめとして) | |
| | 【知財戦略】 スマートセルインダストリーにおいて利用される情報と特許 【ベンチャー企業の技術シーズ紹介】 PPRタンパク質を利用した細胞内核酸操作技術 | |
| | 武田志津(株式会社日立製作所 研究開発グループ 技師長 兼 基礎研究センター 日立神戸ラボ長) | 蓮沼誠久(神戸大学先端バイオ工学研究センター センター長) |
| | 小川順(京都大学 大学院農学研究科 応用生命科学専攻 教授) | 水無渉(三菱ケミカル株式会社 横浜研究所 バイオ技術研究室長) |
| | 川上桂子(特許事務所イノベンティア 代表) | |
| 2019年10月8日 | 【イントロダクション】 国内におけるスマートセルの概要 【ベンチャー企業の技術シーズ紹介】 新規ゲノム編集ツール:CRISPR-Cas3 ゲノム編集の社会実装を加速する | |
| | 【アカデミアのスマートセル関連最新技術動向】 細胞内で可逆的に形成する代謝酵素集合体“G-body”調節機構の解明と利用に向けて 【スマートセルインダストリーと知的財産】 スマートセルインダストリー関連技術の特許出願動向について | |
| | 近藤昭彦(神戸大学 大学院科学技術イノベーション研究科長) | 真下知士(C4U株式会社 科学技術顧問) |
| | 奥原啓輔(プラチナバイオ株式会社 代表取締役CEO) | 三浦夏子(大阪府立大学 大学院生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 発酵制御化学研究室 助教) |
| | 千葉直紀(特許庁 審査第三部 生命工学 審査官) | |
| 2019年12月11日 | 【イントロダクション】 バイオ戦略とスマートセルインダストリー政策の動向 【アカデミアのスマートセル関連最新技術動向】 リン酸基修飾酵母を活用した低環境負荷型有価金属回収システムの創出 【企業のスマートセル技術紹介】 微生物が生産するカスカラ生分解性ポリマーPHBHの実用化に向けて | |
| | 【スマートセルインダストリーと知的財産】 スマートセルでも負けてしまわないための知財戦略 ～研究開発・企画ステージにおける知財戦略・ポートフォリオの策定の重要性を考える | |
| | 佐々木章(経済産業省 生物化学産業課 課長補佐) | 東雅之(公立大学法人大阪市立大学 大学院工学研究科 化学生物系専攻 細胞工学研究室 教授) |
| | 藤木哲也(株式会社カネカ R&B本部R&Bテーマ推進室 幹部職) | |
| | 駒谷剛志(山本特許法律事務所 博士(薬学)/学士(法学)/弁理士) | |
| 2020年3月10日 | 【イントロダクション】 「スマートセルインダストリー」の実現に向けて 【シーケンス発表】 スマートセル創出に向けた生命現象の理解と新規バイオツールの開発 微生物の中核代謝経路フラックスを制御するための技術 | |
| | 【事例紹介】 モノづくりの可能性を広げるスマートセル技術 麹菌・遺伝子組換えカイコ・無細胞系でのタンパク質合成サービス スマートセル技術を用いたUnavailable Made Available の実現 バイオデジタル時代の微生物利用促進プラットフォーム NEDOスマートセルプロジェクトの成果普及と新たなプロジェクト展開について | |
| | 庄司信一郎(株式会社シニアート 代表取締役) | 山田浩之(大関株式会社 大関総合研究所 総合研究所事業開発G) |
| | 劉曉麗(長瀬産業株式会社 ナガセ&Dセンター長) | 久保寛之(独立行政法人製品評価技術基盤機構 バイオテクノロジーセンター 参事官) |
| | 林智佳子(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 材料・ナノテクノロジー部 バイオエコノミー推進室 プロジェクトマネージャー/主査) | |

可能性を広げる、いろいろな取り組み

先進的な中堅・中小企業、ベンチャー企業の

日本バイオベンチャー大賞

独創的なバイオ関連技術・製品・サービスを事業化し、起業家、また事業家として経営に邁進する先進的な中堅・中小企業、ベンチャー企業(大学発ベンチャー、企業内ベンチャー含む)を対象に、フジサンケイビジネスアイが主催する日本バイオベンチャー大賞の後援を行い、2002年から2009年まで近畿バイオインダストリー振興会議賞としてベンチャー企業の表彰を行った。

日本バイオベンチャー大賞

- 第1回 2002年 3月 6日 アンジェスMG 株式会社
- 第2回 2003年 2月 5日 株式会社 総合医科学研究所
- 第3回 2004年 2月 3日 該当企業なし
- 第4回 2005年 10月 19日 株式会社 ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
- 第5回 2007年 10月 18日 株式会社 ホソカワ粉体技術研究所
- 第6回 2009年 10月 21日 クリングルファーマ 株式会社
- 第7回 2012年 2月 29日 プレシジョン・システム・サイエンス 株式会社
- 第8回 2013年 2月 7日 ペプチドリーム 株式会社
- 第9回 2015年 2月 27日 ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ 株式会社
- 第10回 2017年 3月 2日 サンバイオ株式会社

近畿バイオインダストリー振興会議賞

- 第1回 2002年 3月 6日 株式会社 ファーマフーズ
- 第2回 2003年 2月 5日 株式会社 サンルイ・インターナショナル
- 第3回 2004年 2月 3日 ネオケミア 株式会社
- 第4回 2005年 10月 19日 株式会社 フェニックスバイオ
- 第5回 2007年 10月 18日 アルブラスト 株式会社
- 第6回 2009年 10月 21日 バイオ21 株式会社
- 第10回 2017年 3月 2日 エコサイクル株式会社

※第7回、第8回、第9回は近畿バイオインダストリー振興会議賞の設定なし



全国バイオネットワーク形成事業 (JBA受託)

研究者の有する技術シーズ(基礎研究シリーズ、産業化に結びつき易いシリーズ、市場性に課題を残す技術シーズ等)を評価して、それぞれの段階にあった指導・助言を行い、事業化・製品化に向けたより優れた技術シーズを育成・見い出すため、バイオ分野に造詣の深い専門知識をもった方々にその研究開発の促進や事業化の可能性について審議していただくネットワーク形成推進委員会を設立して事業化を推進した。

第1回 委員会 2003年6月11日発足～2008年度まで開催

- 委員長** 小林昭雄 (大阪大学大学院工学研究科 教授)
- 委員** 清水當尚 (近畿バイオインダストリー振興会議 理事長)
荒井基夫 (大阪府立大学大学院農学生命科学研究科 教授)
宮本和久 (大阪大学大学院薬学研究科 教授)
細川信義 (エンゼル証券株式会社 代表取締役)
大井満彦 (三井物産戦略研究所バイオセンター長)
橋本久芳 (財団法人大阪産業振興機構新産業支援部アドバイザー)
荒河敏 (元大日本製薬株式会社 研究所部長)
田村格 (大阪科学技術センター技術・情報振興部 部長)
八島毅祐 (近畿経済産業局バイオインダストリー振興 室長)
井上了 (近畿バイオインダストリー振興会議 事務局長)
遠山伸次 (近畿バイオインダストリー振興会議 専務理事)
- オブザーバー** 大平昌幸 (近畿経済産業局)
小谷純二 (近畿経済産業局)

海外との交流

Local to Local 産業交流事業

日本貿易振興会(JETRO)の支援事業として2001年にローカル・トゥ・ローカル産業交流事業(LL事業)を受託した。地域経済の活性化を目的として、日本の地方企業と外国の企業との国際ビジネス交流を支援して、双方の企業にメリットのある物、技術、経営ノウハウや資本の交流への発展を目指し、近畿地域と英国スコットランド地域の医療・医療福祉機器分野企業のビジネス交流を2003年まで計5回実施した。



オランダフードバレーとの連携

2009年にMOUを締結し、オランダフードバレー訪問や会員企業へのフードバレーの紹介などを行った。

Core of the Dutch Food Valley is the interaction between research and business with the aim to enhance the innovation strength of the agrifood sector. Wageningen University and Research Centre, NIZO Food Research, TNO Quality of life, Rikilt Food Safety Institute and Plant Research International play a key role.



カナダ・サスカチュワントとの連携

2010年にMOUを締結し、サスカチュワント、大阪双方でシンポジウム、企業や研究機関の訪問などを行った。

Ag-West Bio was established in 1989 and is supported through funding by the Ministry of Agriculture, Province of Saskatchewan and strives to be a catalyst for building a strong agricultural biotechnology cluster in Saskatchewan.

サスカチュワントとのマッチング

2014年4月23日 大阪科学技術センター
【カナダ側機関】 Ag-West Bio, National Research Council Canada-NRC, Prairie Tide Chemicals, Star Produce Ltd., Biologinal Food & Science Corp., Prairie Berries
【日本側機関】 不二製油(株)、ロート製薬(株)、奈良先端科学技術大学院大学

2015年11月10日 大阪科学技術センター
【カナダ側機関】 Ag-West Bio、カナダ領事
【日本側機関】 サントリーグローバルイノベーションセンター(株)、(株)カネカ、ヤンマー(株)、第一工業製薬(株)

2016年12月13日 大阪科学技術センター
【カナダ側機関】 Bioenterprise Corporation
【日本側機関】 (株)カネカ/近畿パイオ/長瀬産業(株)/江崎グリコ(株)/サントリーグローバルイノベーションセンター(株)

2017年5月26日 企業訪問
【カナダ側機関】 PlantForm, Vive Crop
【日本側機関】 (株)カネカ、不二製油(株)

2018年3月12日 企業訪問
【カナダ側機関】 Ag-west Bio
【日本側機関】 日本戦略投資(株)、(株)カネカ



日韓バイオマス研究会

- 第1回 2007年12月 7日 ソウル
- 第2回 2008年12月20日 神戸(神戸大)
- 第3回 2009年11月 6日 ソウル
- 第4回 2010年11月 5日 京都(月桂冠)
- 第5回 2011年 6月23日 慶州(KMB)
- 第6回 2012年10月25日 神戸(生物工学会)
- 第7回 2013年 7月 4日 ピョンチャン(KMB)
- 第8回 2014年 9月10日 札幌(生物工学会)
- 第9回 2015年 6月25日 プサン(KMB)
- 第10回 2016年 9月29日 富山(生物工学会)

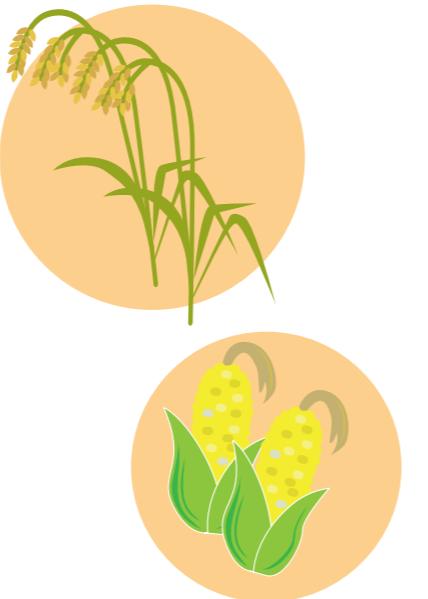


KMB: The Korean Society for Microbiology and Biotechnology

近畿バイオ・バイオマス研究会

2007年～2018年

開催趣旨 地球環境の持続・人口増加・脱石油・成熟社会での新価値の創造などに対応するため、バイオマス資源や微生物・動物・植物を有効に活用して、エネルギー・燃料・化成品・マテリアル・高付加価値食品などを生産する上流から下流まで一貫した実用化技術・商品開発の情報提供や支援、国の施策の情報提供なども行った。幹事の先生方と密接に連携し、国プロの取得や、会員企業の事業計画の企画立案に役立つ活動を行った。企業会員と幹事の先生方との密接な連携を図った。



運営体制

初代会長 新名惇彦（奈良先端科学技術大学院大学 副学長）

二代目会長 植田充美（京都大学大学院 教授）

2018年9月時点

会長 近藤昭彦（神戸大学 大学院工学研究科 教授）

副会長 田丸浩（三重大学 大学院生物資源学研究科 教授）

幹事 宇山浩（大阪大学 大学院工学研究科 応用化学専攻 教授）
明石欣也（鳥取大学 農学部 准教授）
片倉啓雄（関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科 教授）
福崎英一郎（大阪大学 大学院工学研究科 生命先端工学専攻 教授）
片岡道彦（大阪府立大学 大学院生命環境科学研究科 教授）
赤松史光（大阪大学 大学院工学研究科 機械工学専攻 教授）

顧問 新名惇彦（奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授）
植田充美（京都大学 大学院農学研究科 応用生命科学専攻 教授）
成文喜（大韓民国 国民大学校 自然科学大学 生命ナノ化学科 教授）

事務局 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議

| | | 講演テーマ | 講演者(敬称略) |
|-------|--------|--|--|
| 2010年 | 2月15日 | 酵素電池、微生物電池の開発動向 木質バイオマスの微粉碎によるバイオエタノール製造技術 バイオプラスチック「ポリ乳酸」の最新動向と将来展望 | (株)住化技術情報センター 銚島成泰 (独)産総研 中国バイオマス研究センター 遠藤貴士 京都工芸織維大学 織維科学センター 特任教授 望月政嗣 |
| | 5月10日 | 木質バイオマスの水熱反応によるバイオリファイナリーの構築 アセトン・ブタノール発酵の温故知新 | 京都大学大学院 エネルギー科学研究科 教授 坂志朗 佐賀大学 農学部 生命機能科学課 准教授 小林元太 |
| | 6月9日 | カネカ生分解性バイオポリマー 担子菌を用いたバイオマス利用の実用化に向けて | (株)カネカ 研究開発本部 イノベーション企画部 藤木哲也 信州大学 工学部 物質工学科 教授 天野良彦 |
| | 8月28日 | 超音波二酸化チタン法とイオン液体を組み合わせた前処理 水のサステナビリティと低炭素企業を目指して | 金澤大学 環日本海域環境研究センター 助教 仁宮一章 サントリーホールディングス(株) エコ戦略部部長 高屋雅光 |
| | 公開 | 持続可能なバイオ燃料 藻類ポトリオコッカス～未来の石油代替資源～ | (社)日本エネルギー学会副会長 横山伸也 筑波大学大学院 生命環境科学研究科 教授 渡邊信 |
| | 11月29日 | 温室効果ガス排出量を対象としたバイオ燃料プロセスのLCA ポリ乳酸及びL-乳酸の製造技術について | (独)産総研 安全科学研究部門 玄地裕 武蔵野化学研究所 谷口正明 |
| | | トータルソリューションとしてのバイオマス利活用 | 九州工業大学 教授 白井義人 |
| 2011年 | 2月14日 | 海藻利用と未来社会～海藻バイオ燃料構想を含めて～ 微生物オイル生産の可能性 | 能登谷応用藻類学研究所 能登谷正浩 (独)産総研 生物プロセス研究部門 横地俊弘 |
| | | 生命の根源物質5-アミノレブリン酸 | SBIアラプロモ株式会社 取締役 CTO 田中徹 |
| | 5月13日 | 資源作物栽培によるバイオマス原料の安定供給とその利用 株式会社ファーストバイオスの木質バイオマス発電事業 | 九州沖縄農業研究センター 我有満 (株)ファーストバイオス 日下田伸 |
| | 7月15日 | 大震災によってパラダイムシフトしたバイオマス利用位置づけ 新規バイオポリマー創出に向けた植物由来モノマー精密重合 | 東京大学 農学部 教授 鮫島正浩 名古屋大学大学院 工学研究科 准教授 佐藤浩太郎 |
| | | 樹脂触媒を用いた高品質バイオディーゼル燃料製造技術 | 東北大学大学院 工学研究科 准教授 北川尚美 |
| | | 水素化分解反応によるバイオマス由来ジオールの合成 | 東北大学大学院 工学研究科 教授 富重圭一 |
| | 8月31日 | バイオマスプラスチックの広がりと課題 | ユニチカ(株) 中央研究所 研究開発グループ 上田一恵 |
| | 公開 | バイオディーゼル副産物を原料としたバイオプラスチック製造 | 日立造船(株) エンジニアリング本部 岸田央範 |
| | | ブレークスルーを目指す、サラヤとバイオの取り組み | サラヤ(株) 代表取締役社長 更家悠介 |
| 2012年 | 2月24日 | 微生物育種工学におけるパラダイムシフト ペーパースラッジをバイオエタノールの生産原料に | 大阪大学大学院 工学研究科 教授 原島俊 静岡大学創造科学技術大学院 教授 朴龍洙 |
| | | 清酒酵母の遺伝的特性とエタノール発酵への利用 | (独)酒類総合研究所 研究企画知財部門 下飯仁 |
| | 5月11日 | フラボノイドの代謝工学による青い花の開発と実用化 植物工場ユニット agri-cube | サントリーホールディングス(株) 植物科学研究所 田中良和 大和ハウス工業株式会社 総合研究所 副所長 吉村守 |
| | 7月20日 | 木質バイオマスシンポジウム 木質バイオマスのエネルギー源としての重要性 | (共催)五條市、生産技術振興協会アライアンス委員会 (後援)奈良県 奈良先端科学技術大学院大学 副学長 新名惇彦 |
| | | 木質バイオマスガス化発電 | 大阪大学大学院 教授 赤松史光 |
| | | 次世代バイオ固体燃料:バイオコーカスの開発と展望 | 近畿大学 教授 井田民男 |
| | | 間伐材の有効利用に向けて | NPOエコデザインネットワーク 大和泰隆 |
| | | 石炭焚火力発電所における木質ペレット混焼 | 関西電力(株) 山本哲生 |
| | | 住宅業界から見た国产材 | 大和ハウス工業(株) 総合研究所 副所長 吉村守 |
| | 9月7日 | 森の流れに乗る～新しい持続的社会へ向けて～ | 三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 船岡正光 |
| | 公開 | 草本系バイオマスからのエタノール一貫生産技術開発 エタノール生産の今昔と関西化学機械製作の貢献 | バイオエタノール革新技術研究組合 三橋秀一 関西化学機械製作(株) 代表取締役社長 野田秀夫 |
| | 11月29日 | バイオマスからの高付加価値物質の検索とその応用 嫌気性微生物を活用したバイオマスからの有用物資生産 | 関西大学 化学生命工学部 准教授 河原秀久 広島大学大学院 先端物質科学研究科 准教授 中島田豊 |
| | | 合成代謝経路によるC3,C4バイオアルコールの生産 | 九州大学大学院 農学研究院 准教授 花井泰三 |

これまでの事業別活動の経緯と成果

| 講演テーマ | | | 講演者(敬称略) | | |
|-------------|--|--|----------|--|--|
| 2013年 3月21日 | バイオマスプラスチックの現状と将来展望 | 大阪大学大学院 工学研究科 教授 宇山 浩 | | | |
| | 固体並行複発酵による廃棄物からエタノール生産とコスト分析 | 関西大学 化学生命工学部 教授 片倉啓雄 | | | |
| | CBP発酵を中心とした統合プロセス開発 | 神戸大学大学院 工学研究科 教授 近藤昭彦 | | | |
| 5月20日 | 嫌気性細菌によるバイオリファイナリー研究開発 | 三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 田丸 浩 | | | |
| | 持続的社会と健やかな生活のための微生物機能開発 | 京都大学大学院 農学研究科 教授 小川 順 | | | |
| | バイオ医薬品生産における動物細胞工学の現状 | 徳島大学 ソシオテクノサイエンス研究部 教授 大政健史 | | | |
| 7月31日 | ナノで考えるスマートバイオデザイン | 東北大学大学院 工学研究科 准教授 梅津光央 | | | |
| | ガス化を利用したバイオマスからの燃料/ケミカルズ製造 | (独)産総研 エネルギー技術研究部門 小木知子 | | | |
| | ナノセルロースにおける最近の進展 | 京都大学生存圏研究所 生物機能材料分野 教授 矢野浩之 | | | |
| 9月4日 | 夢の繊維素材"クモ糸"実用化への挑戦 | スパイバー株式会社 代表取締役社長 関山和秀 | | | |
| 公開 | バイオマスからの新規プラスチック生産戦略 | 理化学研究所 環境資源科学研究センター 沼田圭司 | | | |
| | 麹菌酵素を活用したバイオマスからのバイオエタノール生産 | 月桂冠株式会社 総合研究所 堤 浩子 | | | |
| | バイオベース化学品の生産: バイオプロセスで化学品をつくる | 京都学園大学 バイオ環境学部 教授 清水 昌 | | | |
| 11月21日 | バイオマス資源:セルロース複合材料としての展開 | 神戸大学大学院 工学研究科 教授 西野 孝 | | | |
| | 耐久製品用のバイオプラスチックの開発 | 日本電気株式会社 スマートエネルギー研究所 位地正年 | | | |
| | 大阪大学産学連携制度による植物由来バイオポリマーの開発 | 大阪大学大学院 工学研究科 特任教授 中澤慶久 | | | |
| 2014年 3月26日 | 油糧植物ジャトロファ:育種、生産、利用に関する海外動向 | 鳥取大学 農学部 生物資源環境学科 准教授 明石欣也 | | | |
| | 木質バイオマスを用いたエネルギービジネスの経済性分析 | 大阪大学 環境イノベーションセンター 特任助教 木下裕介 | | | |
| | 大都市圏におけるバイオマスエネルギー利活用に関する考察 | 大阪大学大学院 工学研究科 助教 中塚記章 | | | |
| 6月13日 | 新規な実バイオマス前処理とその評価系構築 | 神戸大学大学院工学研究科 荻野千秋 | | | |
| | 東南アジアバイオマス資源からの糖質生産技術開発と産業化への取組 | (独)国際農林水産業研究センター 小杉昭彦 | | | |
| | アーバンアグリとバイオマス都市圏での展開とその支援システム構築 | (一社)テラプロジェクト 小林昭雄 | | | |
| 10月1日 | アフリカの農業・バイオマス生産に如何に貢献するか | 近畿バイオインダストリー振興会議 理事長 新名惇彦 | | | |
| 公開 | アフリカアグリファンドの意義と展望 | つくばテクノロジーシード株式会社 代表取締役 佐々木美樹 | | | |
| | 北アフリカ食薬資源の機能解析と有効利用 | 筑波大学 生命環境系 北アフリカ研究センター長 教授 磐田博子 | | | |
| | カラハリ砂漠食物資源とヤトロファ・バイオマス開発 | 鳥取大学 農学部 准教授 明石欣也 | | | |
| 11月28日 | 新規人工合成経路構築によるバイオプロパンノールの発酵生産 | 大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 教授 片岡道彦 | | | |
| | 微細藻類の代謝系解析に基づく次世代バイオ燃料生産への挑戦 | 神戸大学 自然科学系先端融合研究環 重点研究部 准教授 蓮沼誠久 | | | |
| | イオン液体を用いたバイオリファイナリー | 金沢大学 理工研究域 自然システム学系 教授 高橋憲司 | | | |
| 2015年 2月3日 | 持続可能・低炭素社会実現に向けた珪藻利用システム(ダイアトム・ファクトリー) | 兵庫県立大学大学院 生命理学研究科 准教授 菓子野康浩 | | | |
| | バイオマス生産拡大を目指した不良土壤耐性植物の作出 | 石川県立大学 生物資源工学研究所 教授 西澤直子 | | | |
| | ゼロから創製する新しい木質の開発 | 産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門 主任研究員 光田展隆 | | | |
| 3月24日 | 食の循環の健全化に向けた酵母の機能開拓 | 龍谷大学 法学部及び農学研究所 教授 島 純 | | | |
| | 非可食バイオマスからのバイオ燃料・グリーン化学品生産 | (公財)地球環境産業技術研究機構バイオ研究グループ 主任研究員 乾 将行 | | | |
| | 微生物による物質生産のための代謝デザインと細胞評価 | 大阪大学 大学院情報科学研究科 教授 清水 浩 | | | |
| 6月19日 | バイオマス増産に向けた持続的な植物病害防除技術の開発 | 岡山大学 大学院環境生命科学研究科(農学系) 准教授 能年義輝 | | | |
| | バイオマス資源を利用した高性能・高機能ポリマー素材の分子設計 | 理化学研究所 環境資源科学研究センター・バイオマス工学建設部門バイオプラスチック研究チーム チームリーダー 阿部英喜 | | | |
| | 耐熱化酢酸菌の耐熱化機構とその高温発酵への利用 | 山口大学 農学部 教授(特命)中高温微生物研究センター長 松下一信 | | | |
| 9月11日 | 未利用農業系廃棄物を原料としたバイオリファイナリー技術の事業化とその課題 | エコバイオフル株式会社 代表取締役 吉井淳治 | | | |
| 公開 | 航空業界におけるバイオ航空燃料利用に向けた動き | 全日本空輸株式会社 総務・CSR推進部 CSR推進チーム 久野正雄 | | | |
| | バイオベースポリマーの高性能化を目指して | 東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授 岩田忠久 | | | |
| 10月30日 | 光合成微細藻類ラン藻を用いた代謝制御機構の解析とプラスチック原料の生産 | 明治大学 農学部 農芸化学科 専任講師 小山内崇 | | | |
| | C1微生物で拓くメタノールエコノミー | 京都大学 大学院農学研究科 応用生命科学専攻 准教授 由里本博也 | | | |
| | セルロースナノファイバーの増粘剤への応用 | 第一工業製薬株式会社 事業本部 機能化学品事業部 機能化学品研究所 合成研究第一グループ 課長 神野和人 | | | |

これまでの事業別活動の経緯と成果

| 講演テーマ | | | 講演者(敬称略) | | |
|-------------|---|--|----------|--|--|
| 11月25日 | グリコの糖質酵素の開発とバイオ素材 | 江崎グリコ株式会社 健康科学研究所 素材グループ マネージャー 大段光司 | | | |
| | 植物資源からのバイオポリエステル発酵生産 | 東京工業大学 大学院総合理工学研究科 物質科学創造専攻 准教授 柄植文治 | | | |
| | ゲノム新時代の重イオンビーム育種技術開発 | 理化学研究所 仁科加速器研究センター 応用研究開発室 室長 阿部知子 | | | |
| 2016年 2月24日 | セルロースナノファイバーの調製と新規材料への展開 | 東京大学 大学院農学生命科学研究科 生物材料科学専攻 准教授 斎藤繼之 | | | |
| | ここまで来た、ナノセルロース電子デバイス | 大阪大学産業科学研究所 セルロースナノファイバー材料研究分野 准教授 能木雅也 | | | |
| | 酵母を宿主とした生分解性プラスチックの生産 | 株式会社カネカ R&D企画部企画グループ 大阪大学 大学院工学研究科 カネカ基盤技術協働研究所 特任研究員 松本圭司 | | | |
| 6月22日 | 電子の流れから探る生命進化と多様性 | 理化学研究所 環境資源科学研究センター 生体機能触媒研究チーム チームリーダー 中村麗平 | | | |
| | バイオポリエステル生産菌の代謝工学 | 東京工業大学 生命理工学院 教授 福居俊昭 | | | |
| | バイオマスからの多様な化学品、燃料生産:現状と今後の展開 | 神戸大学 大学院 科学技術イノベーション研究科 教授 研究科長 近藤昭彦 | | | |
| 8月30日 | バクテリオナノファイバー AtaAによるバイオプロセスの革新 | 名古屋大学 大学院工学研究科 化学・生物工学専攻 教授 堀 克敏 | | | |
| | 微生物制御の新たな展開 ~個から集団まで~ | 筑波大学 生命環境系 教授 野村暢彦 | | | |
| | インドネシアにおけるバイオリファイナリーの展望 | 神戸大学 大学院工学研究科 応用化学専攻 准教授 荻野千秋 | | | |
| 11月11日 | 国産リグニン資源を利用した新産業創出のとりくみ ~SIPリグニンの研究開発~ | 森林総合研究所 木材化学研究室長 兼 筑波大学 生命環境系 教授 山田竜彦 | | | |
| 公開 | 樹木細胞壁を工業規格へ ~ナノセルロース/リグノフェノール複合系の設計と誘導~ | 三重大学 社会連携研究センター 特任教授 船岡正光 | | | |
| | セルロースのナノファイバー化とナノ複合材料 | 神戸大学 大学院工学研究科 応用化学専攻 教授 西野 孝 | | | |
| 2017年 2月10日 | 様々なバイオマスからの水素、メタン発酵プロセスの開発 | 広島大学 大学院先端物質化学研究科 分子生命機能科学専攻 教授 中島田豊 | | | |
| | セルロースナノファイバー・ポリマーのナノコンポジットの成形加工~微細発泡成形と表面加飾~ | 京都大学 大学院工学研究科 化学工学専攻 教授 大嶋正裕 | | | |
| 3月22日 | バイオと触媒で作る基幹化成品 | 株式会社ダイセル 研究開発本部 研究推進グループリーダー 新井 隆 | | | |
| | 原形質流動速度の人工制御による植物バイオマス増産技術の開発 | 早稲田大学 先端生命医科学センター 教育・総合科学学術院 専任講師 富永基樹 | | | |
| | ナノセルロースの構造が決め手の触媒機能創発 | 九州大学 大学院農学研究院 教授 北岡卓也 | | | |
| 6月30日 | 非天然型ポリエステルの微生物合成・合成機構からポリマー物質まで | 北海道大学 大学院工学研究科 応用化学部門 生物工学分野 准教授 松本謙一郎 | | | |
| | 高温・酸性耐性紅藻シソの遺伝的変異法の開発とその産業利用に向けた試み | 国立遺伝学研究所 細胞遺伝研究系 共生細胞進化研究部門 教授 宮城島進也 | | | |
| | セルロースナノファイバーの製造と材料利用技術 ~基礎・応用・課題~ | 国立研究開発法人農業技術総合研究所 中京センター 機械化研究部門 セルロース材料グループ長 遠藤貴士 | | | |
| 8月25日 | 自己組織化細胞膜倣膜を用いた細胞信号伝達研究 | 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 マテリアルサイエンス系 教授 高木昌宏 | | | |
| | バイオマスへ挑むドンキホーテとなって | 京都大学 大学院農学研究科 応用生命科学専攻 京都バイオ計測センター 教授 植田充美 | | | |
| 10月6日 | 木の国ニッポンの資源 セルロースナノファイバー | 京都大学生存圏研究所 生物機能材料分野 教授 矢野浩之 | | | |
| 公開 | 植物油脂を用いる屋根用塗料の開発と事業化 | 水谷ペイント株式会社 専務取締役 技術部統括部長 水谷 勉 | | | |
| | 力ニ殻由来の新素材キチンナノファイバーの実用化に向けた取り組み | 鳥取大学 工学研究科 化学・生物応用工学専攻 准教授 伊福伸介 | | | |
| | セルロース系バイオプラスチックの開発、高機能性、特に、漆器調(漆ブラック)の高装饰性の実現 | 日本電気株式会社 IoTデバイス研究所 主席研究員 位地正年 | | | |
| | 環境対応ポリウレタンの開発 | 三井化学株式会社 研究開発本部 合成化学品研究所 リサーチフェロー 山崎 聰 | | | |
| 12月15日 | 三重県における木質発電の現状と小規模・分散型の木質バイオマス地域循環システムの重要性 | 三重大学 大学院生物資源学研究科 共生環境学専攻 教授 坂本章彦 | | | |
| | 植物科学とデータ科学を融合したバイオマス増産研究 | 理化学研究所 環境資源科学研究センター セルロース生産研究チーム チームリーダー 持田惠一 | | | |
| | ゲノム編集トマトの開発と社会実装に向けて | 筑波大学 生命環境系 教授 つくば機能植物イノベーション研究センター長 江面 浩 | | | |
| 2018年 3月7日 | 耐熱性酵素を用いたin vitro人工代謝系の構築 ~応用に向けた取り組みと課題~ | 大阪大学 大学院工学研究科 生命先端工学専攻 准教授 本田孝祐 | | | |
| | 光合成機能の改良と応用研究 | 神戸大学 大学院人間発達環境学研究科 人間環境学専攻 准教授 蘭田弘樹 | | | |
| | 気孔開度制御による植物の生育促進と乾燥耐性付与 | 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 教授 木下俊則 | | | |
| 9月22日 | バイオリファイナリー研究の経緯を振り返って | 前 神戸大学 学長 独立行政法人大学改革支援・学位授与機関 機構長 福田秀樹 | | | |
| 総括 | 地球温暖化防止の切り札、植物バイオテクノロジー | 奈良先端科学技術大学院大学 名譽教授・特任教授・前 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 理事長 新井啓 | | | |
| | 東南アジアとの連携によるバイオリファイナリーの実現に向けて | 神戸大学 大学院工学研究科 教授 荻野千秋 | | | |
| | 種々バイオマスの有効活用および実用化の取り組み | 関西化学会機械製作株式会社 Bio-energy株式会社 代表取締役社長 野田秀夫 | | | |
| | 地域活性のあり方と新エネルギーを考える | 三重大学 大学院生物資源学研究科 教授 田丸 浩 | | | |
| | バイオマス有効活用を加速するスマートセルインダストリーの実現 | 神戸大学 大学院科学技術イノベーション研究科 教授 近藤昭彦 | | | |

公的資金獲得

平成12年度～平成15年度

| プロジェクト名 | 参画メンバー | 平成12年 | 平成13年 | 平成14年 | 平成15年 | 平成16年 |
|---|--------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「高機能バイオリアクターによるバイオ燃料生産に関する研究」 | 神戸大学、関西化学機械製作(株) 他 | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「高分子アクチュエーターによる人工筋肉の開発」 | (独)産総研 他 | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「HVJ-Eによる高効率遺伝子機能解析システムの開発」 | 大阪大学、アンジェスMG 他 | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「酵素法による医薬中間体の低負荷型生産技術の開発」 | 神戸大学、Bio-energy(株) 他 | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「強力酸化分解菌群によるノンスラッジ高速排水処理システムの開発」 | 京都大学、鈴木産業(株) 他 | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「バイオマス液化物からのが分解能ポリウレタン樹脂の創出」 | 京都大学、(株)グリーンバイオ 他 | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「脳動脈瘤治療を目的とした治療機器とデバイスの開発」 | 京都大学、鐘淵化学工業(株) 他 | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「幹細胞表面マーカータイピング装置の開発」 | 京都大学、(株)ユービーエム 他 | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「新規制癌作用を持つNK4遺伝子治療用ベクターの基盤技術の開発」 | 大阪大学、クリングルファーマ(株) 他 | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「ポストゲノム解析用マイクロHPLCの開発」 | 京都大学、(株)京都モノテック 他 | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「新規リボン型デコイ核酸の技術開発」 | 大阪大学、(株)ジーンデザイン 他 | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「ゲノム発現解析チップシステムの開発」 | (独)産総研、(株)アクシアバイオサイエンス 他 | | | | | |

平成15年度～平成19年度

| プロジェクト名 | 参画メンバー | 平成15年 | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 |
|---|---|-------|-------|-------|-------|-------|
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「バイオマスからのポリDL乳酸原料の省エネ型製造技術の開発」 | 神戸大学、Bio-energy(株)、(株)バイオリーダースジャパン | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「バイオ医薬デザイン用の高精度生体高分子機能予測システムの開発」 | 大阪大学、ジェノミディア(株)、アンジェスMG(株) | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「コンビバイオによるプロトーム創成システムの開発」 | 大阪大学、(株)バイオリーダースジャパン、Bio-energy(株) | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「未利用廃棄物・大根葉からの不凍タンパク質製造及びその応用開発」 | 関西大学、(有)ピック・ワールド | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「ポストゲノム解析を簡便にする生体試料精密分画キットの開発」 | 京都大学、(株)京都モノテック | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「多用途適合型人工核酸RNAの大規模生産システムの開発」 | (株)ジーンデザイン、(株)ケミカルソフト開発研究所、(株)京都モノテック、(株)湯山製作所、大阪大学 | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「リサイクル濾材と植物を利用した高度排水処理システムの開発」 | (株)環境総合テクノス、前田建設工業(株)、奈良先端大、大阪大学 | | | | | |
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「ポリグルタミン酸を用いた高機能ハイドロゲル材料の開発」 | ジェノラック(株)、DAP(株)、(株)メドレックス、国立循環器病センター、大阪大学、龍谷大学 | | | | | |

平成19年度～平成22年度

| プロジェクト名 | 参画メンバー | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 |
|---|---|-------|-------|-------|-------|-------|
| 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「新規核酸医薬SMAPデコイの医薬品原体としての開発」 | (株)ジーンデザイン、(株)ホソカワ粉体技術研究所、大阪大学、森ノ宮医療大学、 | | | | | |
| 戦略的基盤技術高度化支援事業(サボイン) 「超精密マイクロ成形に対応した微細金型に係わる技術開発」 | (株)ライトニックス、ナルックス(株)、日本ケミカルリサーチ(株)、長岡技術科学大学 | | | | | |
| 地域イノベーション創出研究開発事業 「新規核酸ハイブリッドSMAPデコイの医薬品原体としての開発」 | (株)ジーンデザイン、アンジェスMG(株)、(株)ホソカワ粉体技術研究所、大阪大学 | | | | | |
| 地域イノベーション創出研究開発事業 「油脂由来副生物からの高機能ケミカルの開発」 | Bio-energy(株)、関西化学機械製作(株)、バイオベース(株)、ダイセル化学工業(株)、大関(株)、大阪大学、神戸大学 | | | | | |
| 戦略的基盤技術高度化支援事業(サボイン) 「植物由来樹脂の結晶化速度を早める植物由来添加剤の研究開発」 | バイオベース(株) Bio-energy(株)、関西化学機械製作(株)、大阪大学 | | | | | |
| 地域イノベーション創出研究開発事業 「植物の再生機能由来の機能性ペプチドを利用した医療用品の開発」 | アンジェスMG(株)、森下仁丹(株)、大阪大学 | | | | | |
| 戦略的基盤技術高度化支援事業(サボイン) 「治療効果の高い新規バイオ医薬の早期実現化に向けたプロセスの研究開発」 | ジェノミディア(株)、(株)TSD、(株)アメフレックス、(独)産総研、大阪大学 | | | | | |

平成20年度～平成24年度

| プロジェクト名 | 参画メンバー | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 |
|---|---|-------|-------|-------|-------|-------|
| NEDO新エネルギー技術研究開発事業 「セルロースエタノール高効率製造のための循環調和型統合プロセス開発」 | 神戸大学、京都大学、大阪大学、東北大、名古屋大学、早稲田大学、サントリー(株)、月桂冠(株)、関西化学機械製作(株)、Bio-energy(株)、鹿島建設、豊田中央研究所 | | | | | |
| 地域イノベーション創出研究開発事業 「多様な感染症に適応できるデザインインテンパク質医薬原体の研究開発」 | (株)ジェノラックBL、(株)メドレックス、京都大学、兵庫医科大学 | | | | | |
| 戦略的基盤技術高度化支援事業(サボイン) 「複合化樹脂薄膜多層形成技術を用いた迅速・高効率なバイオマーカー構造を実現する低ノイズ・高吸着性チップの開発」 | (株)プロトセラ、九州大学 | | | | | |
| 環境省・地球温暖化対策技術開発等事業 「バイオエタノール生産のための省エネ低コスト固体連続並行復発酵技術開発」 | 関西大学、関西化学機械製作(株)、秋田高専 | | | | | |
| 地域イノベーション創出研究開発事業 「核酸含有PLGAナノ粒子技術を用いた経口DDS製剤の研究開発」 | ホソカワミクロン(株)、アンジェスMG(株)、森下仁丹(株)、大阪府大、京都大学、北里大学 | | | | | |
| 地域イノベーション創出研究開発事業 「ビフィズス菌が产生する新規多糖を利用した抗炎症化粧品の開発」 | 森下仁丹(株)、大阪府大、京都大学、北里大学 | | | | | |
| 課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業 「感染問題解決のための褥瘍用医療機器の開発・改良」 | アンジェスMG(株)、森下仁丹(株)、大阪大学 | | | | | |

平成23年度～平成27年度

| プロジェクト名 | 参画メンバー | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|---|-----------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 戦略的基盤技術高度化支援事業(サボイン) 「血液中遊離脂肪酸(miRNA)を用いた癌診断のための核酸抽出キットの開発」 | 深江化成㈱、京都府立医科大学、(株)アワジェニック | | | | | |
| 戦略的基盤技術高度化支援事業(サボイン) 「未利用バイオマスからのD-乳酸の高効率生産の開発と樹脂製造への展開」 | Bio-energy(株)、大阪大学 | | | | | |
| 平成23年度第3次補正予算戦略的基盤技術高度化支援事業(サボイン) 「再生医療等に用いる高効率な大型の軟骨組織を形成する細胞培養システムの開発」 | 株式会社 ジエイティック、産業技術総合研究所、国立大学法人大阪大学 | | | | | |
| 平成25年度課題解決型医療機器等開発事業 「手術室内でリバブルがん転移の迅速診断を可能にする診断支援システムの開発」 | 大成化工株式会社、京都府立医科大学、ウシオ電機株式会社 | | | | | |

年表

- 2025 Bioeconomy Hub Japan2025開催
 2024 バイオの次世代を考える会 再スタート
 2023 バイオコミュニティ関西事業の一環として、JST事業を受託
 2022 バイオコミュニティ関西が内閣府から認定、第7代坂田恒昭理事長就任
 2021 バイオコミュニティ関西発足
 2020 ホームページをリニューアル

20
20

- 2019 大阪府のライフサイエンス事業化推進事業を初めて受託
 2018 関西スマートセルフォーラム開催(近経局と共同主催)
 2017 再生医療技術を活用した動物実験代替法検討会開催
 2016 バイオの次世代を考える会発足、第6代田中隆治理事長就任
 2015 30周年記念事業の開催、事務所移転
 2014 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー開始
 2013 会場参加型トーカセミナー開始
 2012 第5代:新名惇彦理事長就任
 2011 関西バイオビジネスマッチング開催
 2010 関西地域健康長寿関連産業活性化協議会参画

20
10

- 2009 関西バイオベンチャー企業一覧作成
 2008 新エネルギー技術開発事業受託
 2007 事務所移転、「バイオマス研究会」発足
 2006 「食と運動の機能性に関する研究会」発足
 2005 20周年記念冊子作成
 2004 「関西バイオの未来を考える会」発足
 2003 NPO法人化
 2002 近畿産業クラスター計画受託
 2001 「新春国際交流会」発足、第4代:清水當尚委員長就任
 2000 新規成長産業連携支援事業受託

20
00

- 1999 「バイオ技術シーズ公開会」発足
 1996 第3代:秋吉節委員長就任
 1995 定例研究会講演「酵素の衣料用洗剤への応用」
 1994 定例研究会講演「EPOの研究開発について」
 1992 会報インタビュー 山田秀明京都大教授
 1991 会報インタビュー開始 山田康之京都大教授
 1990 第2代:千畠一郎委員長就任

19
90

- 1989 会報第20号研究話題「海洋バイオ研究」「生分解性プラスチック」
 1988 会報第12号研究話題「機能性食品研究会」
 1987 会報第9号研究話題「農業分野における生物工学研究の応用」
 1986 会報第2号研究話題「遺伝子工学の医学への応用」
 1985 近畿バイオ設立3月6日、初代:山村雄一委員長就任

19
85

- 2025 坂口志文氏ノーベル生理学・医学賞受賞(制御性T細胞の発見)
 2024 「バイオものづくり」推進と合成生物学の事業化加速
 2023 AI創薬・デジタルバイオ産業の台頭
 2022 政府が「バイオエコノミー戦略2022」改訂版を公表
 2021 mRNA・核酸医薬技術の急速な応用拡大
 2020 COVID-19パンデミックによりmRNAワクチンが実用化

- 2019 バイオ戦略2019(内閣府)策定
 2018 国主導の「バイオ戦略2019」議論開始
 2017 CRISPR遺伝子編集の臨床応用が本格化
 2016 ゲノム編集食品の開発・研究が本格化
 2015 機能性表示食品制度施行
 2014 赤崎勇、天野浩ノーベル物理学賞受賞
 2013 PMDAウエスト開設、富士山世界遺産登録
 2012 山中伸弥ノーベル生理学・医学賞受賞
 2011 東日本大震災、関西広域連合設立
 2010 鈴木章、根岸英一ノーベル化学賞受賞

- 2009 事業仕分け、産業クラスター実質廃止
 2008 下村脩ノーベル化学賞受賞
 2007 リーマン・ショック
 2006 ライブドアショック、新興市場株低迷
 2005 個人情報保護法施行
 2004 大学法人化、鳥インフルエンザ流行
 2003 日経平均7,607円、ヒトゲノム解読完了
 2002 田中耕一ノーベル化学賞受賞
 2001 ニューヨーク同時多発テロ
 2000 介護保険制度施行

- 1999 EC統一通貨ユーロ誕生
 1998 長野冬季オリンピック
 1997 地球温暖化防止京都会議 京都議定書採択
 1996 O-157全国で発生、クローン羊ドリー誕生
 1995 阪神淡路大震災
 1994 関西国際空港開港
 1993 寒害による米不足で米緊急輸入
 1992 東海道新幹線のぞみ登場
 1991 特定保険用食品制度施行
 1990 バブル崩壊開始

- 1989 日経平均最高記録38,957円
 1988 ソウルオリンピック
 1987 利根川進ノーベル生理学・医学賞受賞
 1986 男女雇用機会均等法施行
 1985 ポリメラーゼ連鎖反応(PCR法)発明

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議

現体制図 2025年12月現在

会員総数 団体会員 120社 個人会員 12名 準会員 14社

理事会

- 理事長 坂田恒昭 前塩野義製薬(株)
シニアフェロー/大阪大学共創機構 特任教授
- 副理事長 近藤昭彦 神戸大学 名誉教授 学長補佐
安東範之 サントリーグローバルイノベーションセンター(株)
代表取締役社長
- 田岡直明 (株)カネカ 理事
アグリバイオリサーチセンター長
- 仲尾功一 タカラバイオ(株) 取締役会長
樹富直哉 田辺ファーマ(株) 創薬本部長
- 常務理事 宇山浩 大阪大学 大学院工学研究科
- 理事 23名

事務局

- 専務理事 村山宣人 サントリーホールディングス(株)
- 常務理事 川並弘子 田辺ファーマ(株)
- 理事・事務局長 国松武史 住友ファーマ(株)
- コーディネーター 櫻井有里 塩野義製薬(株)
- セカンドオーナー 高田清文
- 事務員 2名

事業 (2025年度)

- バイオ関連技術産業化支援事業
 - バイオコミュニティ関西
 - 活動報告会
 - 産学個別マッチング
- バイオベンチャー支援事業
 - 関西バイオビジネスマッチング2025
 - 2025年度 ライフサイエンス海外ビジネス展開等支援事業(大阪府からの受託事業)
 - 令和7年度 研究者と事業者のマッチングイベント業務委託(大阪府からの受託事業)
 - BioJapan2025共同出展
 - バイオベンチャーデータベース
- 研究会
 - 生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会
 - 毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム
 - バイオの次世代を考える会
- セミナー・講演会
 - 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー
- 海外交流
 - 新春国際交流会
- その他
 - 西宮市植物生産研究センター(受託業務)
 - メルマガ配信

重点的な取組み

- バイオエコノミー視点の深化
地球規模の社会課題(環境、食糧問題、資源循環、健康長寿など)に貢献できる技術・事業の推進
- オープンイノベーションと異分野連携の強化
DX・AI等、異分野技術との融合推進と新たな価値を創出するプラットフォームとしての機能強化
- 地域基盤と国際ネットワークの融合
関西地域と海外との連携深化、技術交流・産業展開の道を拡大
- 人材育成と次世代支援
バイオの未来を担う若手・学生層、起業志向のある研究者などの持続可能な人材循環の確立

近畿圏バイオ関係者との人的ネットワーク(約1,000人)
海外機関とのネットワーク(約50機関)

生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会

| | | |
|------|------|--------------------------------|
| 委員長 | 内藤裕二 | 京都府立医科大学 大学院 教授 |
| 副委員長 | 栗木隆 | 江崎グリコ(株) 取締役研究フェロー |
| 委員 | 亀井淳三 | 順天堂大学 特任教授 |
| | 田岡直明 | (株)カネカ アグリ・バイオ&サプリメント研究所 所長 |
| | 芦田均 | 武庫川女子大学 教授/神戸大学 名誉教授 |
| | 青井涉 | 京都府立大学 大学院 教授 |
| | 柴田浩志 | サントリーウエルネス(株) |

毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム

| | | |
|------|------------|----------------|
| 委員長 | 高倉伸幸 | 大阪大学微生物病研究所 教授 |
| 副委員長 | 武野團 | あっと(株) 代表取締役 |
| 法人会員 | 10社 / 個人会員 | 3名 |

バイオの次世代を考える会

| | | |
|------|---|--|
| 座長 | 青木航 | 大阪大学 大学院工学研究科 教授 |
| 副座長 | 蓮沼誠久 | 神戸大学 先端バイオ工学研究センター 教授 |
| メンバ- | 白石晃将 菅原雄一 関谷毅 三浦夏子 山崎聖司 村木倫子 高田啓 西藤真太郎 中村修士 朝見陽次 | 京都大学 大学院農学研究科 助教 塩野義製薬(株)ワクチン事業本部 大阪大学 産業科学研究所 教授 大阪公立大学大学院 農学研究科 准教授 大阪大学 産業科学研究所 准教授 大阪大学 経営企画オフィス 教授 富山県立大学 工学部 生物工学科/ 生物・医薬品工学研究センター 講師 近畿経済産業局 地域経済部 バイオ・医療機器技術振興課 課長補佐 NTT西日本(株) ビジネス営業本部 主査 サントリーホールディングス(株) イノベーション企画部 |

1 役員変遷

任意団体 近畿バイオインダストリー振興会議

| | 委員長 | 副委員長 | | | | 幹事長 | 事務局長 |
|--------|------|------|-------|------|-------|------|------|
| 1985 3 | 山村雄一 | 伊藤 健 | 城阪俊吉 | 福井三郎 | | 千畠一郎 | 山地哲也 |
| 1986 | 山村雄一 | 伊藤 健 | 城阪俊吉 | 福井三郎 | | 千畠一郎 | |
| 1987 3 | 山村雄一 | 伊藤 健 | 城阪俊吉 | 福井三郎 | | 千畠一郎 | 新田浩夫 |
| 1988 | 山村雄一 | 伊藤 健 | 城阪俊吉 | 福井三郎 | | 千畠一郎 | |
| 1989 | 山村雄一 | 伊藤 健 | 城阪俊吉 | 福井三郎 | | 千畠一郎 | |
| 1990 6 | 千畠一郎 | 岡田善雄 | 鳴海欽一 | 西澤吉彦 | | 山田秀明 | 井上雅資 |
| 1991 | 千畠一郎 | 岡田善雄 | 鳴海欽一 | 西澤吉彦 | | 山田秀明 | 井上雅資 |
| 1992 6 | 千畠一郎 | 岡田善雄 | 鳴海欽一 | 西澤吉彦 | | 山田秀明 | 河原田肇 |
| 1993 6 | 千畠一郎 | 岡田善雄 | 鳴海欽一 | 西澤吉彦 | | 山田康之 | 河原田肇 |
| 1994 6 | 千畠一郎 | 岡田善雄 | 鳴海欽一 | 西澤吉彦 | | 山田康之 | 柳生勝 |
| 1995 | 千畠一郎 | 岡田善雄 | 鳴海欽一 | 西澤吉彦 | | 山田康之 | 柳生勝 |
| 1996 6 | 秋吉節 | 岡田善雄 | 安部川佳司 | 新田恒治 | 五十川昌孝 | 新名惇彦 | 田村格 |
| 1997 | 秋吉節 | 岡田善雄 | 安部川佳司 | 新田恒治 | 五十川昌孝 | 新名惇彦 | 田村格 |
| 1998 | 秋吉節 | 岡田善雄 | 安部川佳司 | 新田恒治 | 五十川昌孝 | 新名惇彦 | 田村格 |
| 1999 | 秋吉節 | 岡田善雄 | 安部川佳司 | 新田恒治 | 五十川昌孝 | 新名惇彦 | 田村格 |
| 2000 6 | 秋吉節 | 岡田善雄 | 安部川佳司 | 新田恒治 | 五十川昌孝 | 新名惇彦 | 遠山伸次 |
| 2001 6 | 清水當尚 | 岡田善雄 | 大橋武久 | 橋本忠夫 | | 小林昭雄 | 遠山伸次 |

NPO 法人 近畿バイオインダストリー振興会議

| | 理事長 | 副理事長 | | | | 専務理事 | 常務理事 | 事務局長 |
|---------|------|------|------|------|------|------|-------|------|
| 2002 12 | 清水當尚 | | | | | | 小林昭雄 | 小川裕策 |
| 2003 7 | 清水當尚 | 大橋武久 | 田中隆治 | | | | 遠山伸次 | 小林昭雄 |
| 2004 7 | 清水當尚 | 大橋武久 | 田中隆治 | 新名惇彦 | | | 遠山伸次 | 小林昭雄 |
| | | | | | | | | 田村格 |
| 2005 7 | 清水當尚 | 大橋武久 | 田中隆治 | 新名惇彦 | | | 長谷川淳三 | 小林昭雄 |
| 2006 7 | 清水當尚 | 大橋武久 | 田中隆治 | 新名惇彦 | | | 遠山伸次 | 小林昭雄 |
| 2007 7 | 清水當尚 | 大橋武久 | 田中隆治 | 新名惇彦 | | | 遠山伸次 | 福田秀樹 |
| 2008 7 | 清水當尚 | 谷 敏孝 | 田中隆治 | 新名惇彦 | | | 遠山伸次 | 福田秀樹 |
| 2009 7 | 清水當尚 | 谷 敏孝 | 田中隆治 | 新名惇彦 | | | 遠山伸次 | 福田秀樹 |
| 2010 7 | 清水當尚 | 谷 敏孝 | 田中隆治 | 新名惇彦 | | | 遠山伸次 | 福田秀樹 |
| 2011 7 | 清水當尚 | 谷 敏孝 | 田中隆治 | 新名惇彦 | | | 遠山伸次 | 藤川茂昭 |
| 2012 7 | 新名惇彦 | 山田正彦 | 田中隆治 | 植田充美 | | | 井上了 | 坂田恒昭 |
| 2013 7 | 新名惇彦 | 山田正彦 | 田中隆治 | 植田充美 | | | 井上了 | 坂田恒昭 |
| 2014 7 | 新名惇彦 | 山田正彦 | 田中隆治 | 植田充美 | 坂田恒昭 | | 藤川茂昭 | 魚谷信夫 |
| 2015 7 | 新名惇彦 | 山田正彦 | 田中隆治 | 植田充美 | 坂田恒昭 | | 梅村勲 | 中尾正宏 |
| 2016 7 | 田中隆治 | 山田正彦 | 近藤昭彦 | 高橋賢藏 | 坂田恒昭 | | 梅村勲 | 中尾正宏 |
| 2017 7 | 田中隆治 | 山田正彦 | 近藤昭彦 | 高橋賢藏 | 坂田恒昭 | | 梅村勲 | 宇山 浩 |
| 2018 7 | 田中隆治 | 山田正彦 | 近藤昭彦 | 高橋賢藏 | 坂田恒昭 | | 梅村勲 | 松村俊彦 |
| 2019 7 | 田中隆治 | 山田正彦 | 近藤昭彦 | 高橋賢藏 | 坂田恒昭 | | 松村俊彦 | 杉田尚久 |
| 2020 7 | 田中隆治 | 満田勝 | 近藤昭彦 | 高橋賢藏 | 坂田恒昭 | | 高田清文 | 川並弘子 |
| 2021 7 | 田中隆治 | 満田勝 | 近藤昭彦 | 高橋賢藏 | 坂田恒昭 | | 高田清文 | 川並弘子 |
| 2022 7 | 坂田恒昭 | 田岡直明 | 近藤昭彦 | 柴田浩志 | 繩野雅夫 | | 高田清文 | 川並弘子 |
| 2023 7 | 坂田恒昭 | 田岡直明 | 近藤昭彦 | 柴田浩志 | 繩野雅夫 | 仲尾功一 | 高田清文 | 宇山 浩 |
| 2024 7 | 坂田恒昭 | 田岡直明 | 近藤昭彦 | 柴田浩志 | 繩野雅夫 | 仲尾功一 | 高田清文 | 国松武史 |
| 2025 7 | 坂田恒昭 | 田岡直明 | 近藤昭彦 | 安東範之 | 樹富直哉 | 仲尾功一 | 村山宣人 | 川並弘子 |
| | | | | | | | | 宇山 浩 |
| | | | | | | | | 国松武史 |

2 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 2025年度 会員リスト

正会員:団体会員(120社) 2025年12月現在

(五十音順)

| 機 関 名 | 機 関 名 |
|----------------------------------|--|
| 1 (株)RDサポート | 61 NPO法人資源リサイクルシステムセンター |
| 2 (株)アールピーエム | 62 シスマックス(株) |
| 3 (株)アイメックRD | 63 Synapto Ventures |
| 4 ACROBIOSYSTEMS JAPAN CO.,LTD. | 64 (株)島津製作所 |
| 5 旭化成ライフサイエンス(株) | 65 (株)神鋼環境ソリューション |
| 6 アズワン(株) | 66 (公財)新産業創造研究機構 |
| 7 あっと(株) | 67 住友化学(株) |
| 8 アンジェス(株) | 68 住友ファーマ(株) |
| 9 EY新日本有限責任監査法人 | 69 摂南大学 |
| 10 (株)石本建築事務所 | 70 (株)セツロテック |
| 11 稲畠産業(株) | 71 双日(株) |
| 12 岩谷産業(株) | 72 ダイキン工業(株) |
| 13 H.U.セルズ(株) | 73 (株)ダイセル |
| 14 NTT西日本(株) | 74 タカラバイオ(株) |
| 15 (一財)大阪科学技術センター | 75 (株)竹中工務店 |
| 16 大阪ガス(株) | 76 田辺ファーマ(株) |
| 17 大阪公立大学 研究推進課 | 77 (公財)地球環境産業技術研究機構 |
| 18 (地独)大阪産業技術研究所 | 78 (株)テーオーシー |
| 19 大阪商工会議所 | 79 東京建物(株) |
| 20 (株)大阪ソーダ | 80 Tractus Asia |
| 21 大阪バイオメディカル専門学校 | 81 奈良先端科学技術大学院大学 |
| 22 大阪府 | 82 (株)ナレッジパレット |
| 23 (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所 | 83 日本新薬(株) |
| 24 (地独)大阪府立病院機構 | 84 日本ベーリングインターナショナルハイム(株) |
| 25 大塚製薬(株) | 85 (株)日本政策投資銀行 |
| 26 小野薬品工業(株) | 86 (株)日本総合研究所 |
| 27 オンキヨー(株) | 87 NEI Northeast Indiana |
| 28 片山化学工業(株) | 88 ノーベルファーマ(株) |
| 29 (株)カネカ | 89 バーンズ&ソーンバーグ法律事務所 |
| 30 川崎重工業(株) | 90 Biocom California |
| 31 環境衛生薬品(株) | 91 バイオ・サイト・キャピタル(株) |
| 32 関西医薬品協会 | 92 (一社)バイオビジネス創出研究会 |
| 33 関西化学機械製作(株) | 93 (株)パソナ農援隊 |
| 34 (公社)関西経済連合会 | 94 (株)バッカス・バイオイノベーション |
| 35 共栄製茶(株) | 95 パナソニックホールディングス(株) |
| 36 京都府 | 96 阪急阪神ホールディングス(株) |
| 37 (株)フボタ | 97 BLA Regulatory |
| 38 (株)KRI | 98 税理士法人 日根野会計事務所 |
| 39 (株)ケー・エー・シー | 99 (株)ファーマフーズ |
| 40 ケンブリッジコンサルタンツ(株) | 100 フォーネスライフ(株) |
| 41 (公財)神戸医療産業都市推進機構 | 101 福井県 |
| 42 神戸市 | 102 福岡県大阪事務所 |
| 43 神戸天然物化学(株) | 103 富士通Japan(株) |
| 44 KookminBio Corporation(国民バイオ) | 104 富士フイルム和光純薬(株) |
| 45 (国開)国立循環器病研究センター | 105 (株)FRONTEC |
| 46 (一財)彩都バイオヒルズクラブ | 106 北海道大阪事務所 |
| 47 (株)サイト・ファクト | 107 丸石製薬(株) |
| 48 さつきアドバイザリー(株) | 108 (株)ミーバイオ |
| 49 サラヤ(株) | 109 (株)村田製作所 |
| 50 (国開)産業技術総合研究所 | 110 森下仁丹(株) |
| 51 サンスター(株) | 111 八洲薬品(株) |
| 52 サントリーグローバルイノベーションセンター(株) | 112 山梨県大阪事務所 |
| 53 シーエスクリエ(株) | 113 弁護士法人山本特許法律事務所 |
| 54 (株)シーテック | 114 ヤンマーホールディングス(株) |
| 55 (株)SeedBank | 115 Yokogawa Innovation Switzerland GmbH |
| 56 (株)ジーンデザイン | 116 (一社)ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J) |
| 57 JR西日本不動産開発(株) | 117 レナセラピュティクス(株) |
| 58 JCRファーマ(株) | 118 ロート製薬(株) |
| 59 塩野義製薬(株) | 119 (株)ワールドインテック |
| 60 滋賀県 | 120 和歌山県 |

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議の目的及び事業

目的

この法人は、バイオインダストリー振興に関する事業を行うことにより、人々の健康維持・増進を図り、社会の環境を保護することによって、快適で活力のある社会作りを達成することを目的とする。

事業

前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

特定非営利活動に関わる事業

- (1)バイオテクノロジーを産業化するためのコーディネート事業
- (2)バイオテクノロジーの情報交流・人材交流事業
- (3)バイオ関連業務委託契約によるコンサルタント事業
- (4)その他目的を達成するために必要な事業

NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議(定款より抜粋)



発行:2025年(令和7年)12月
編集・発行:NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議

〒541-0048 大阪市中央区瓦町4-8-4 井門瓦町第2ビル 3F Tel.06-4963-2107 Fax.06-4963-2127